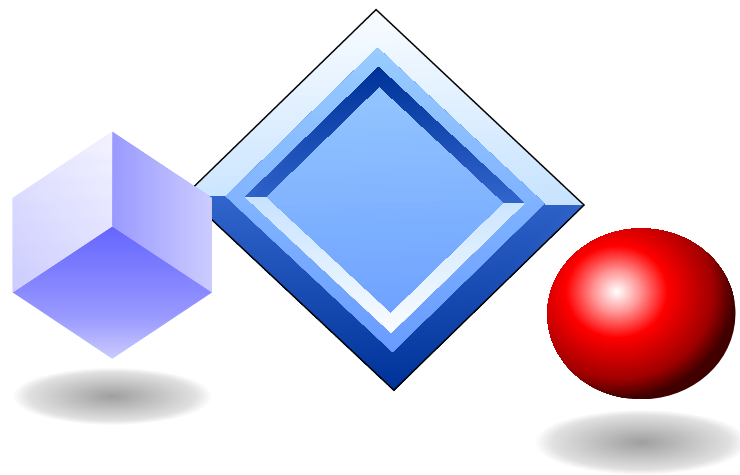
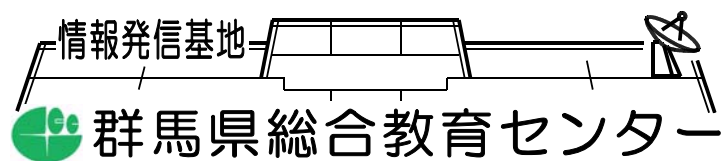


知的障害特殊学級における指導計画の作成



平成15年3月



はじめに

近年、障害のある児童生徒の教育をめぐって、障害の重度・重複化、多様化、より軽度な障害のある児童生徒への対応の必要性、ノーマライゼーションの進展、教育の地方分権の推進等、情勢は大きく変わってきています。そのような中で、本年度は、新学習指導要領が全面実施され、就学指導の在り方の見直しを内容とする学校教育法施行令の改正が行われました。また、平成14年10月には、文部科学省の調査研究協力者会議から「今後の特別支援教育の在り方について（中間まとめ）」が発表され、「特殊教育」から「特別支援教育」への移行に関して基本的な考え方が示されました。「特別支援教育」においては、障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な支援を行うという考え方に基づいて対応を図ることが基本的視点として重要であると述べられています。

小・中学校に設置されている特殊学級においても、障害の状態や発達段階、特性などの面でさまざまな実態の児童生徒が在籍しています。障害のある児童生徒にとっては、自立や社会参加が重要な目標であり、とりわけ、社会適応力に弱さがある知的障害のある児童生徒にとっては、それは大きな課題でもあります。知的障害のある児童生徒が、可能な限り自らの力で社会や地域の中で生活していけるように、適切な支援を行っていくことが求められています。それには、児童生徒が生活や学習を行う上での困難や制約を改善・克服するために、担任が将来への見通しをもって適切な教育環境を用意し計画的・継続的な指導を行うことを通して、児童生徒の主体的な取組を支援するという考え方に立つことが大切になってきます。このように、特殊学級においても、今後は、児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して適切な支援を行う、一層質の高い教育が求められることとなります。

ところで、県内の知的障害特殊学級の状況を見ますと、特殊教育未経験で本年度初めて特殊学級の担任になった教員が小学校・中学校共に2割以上で、現在の学級を担任して1年目という教員が前者を含めて4割以上になっています。現在の学級を担任して2年目という教員を合わせますと小・中学校共に3分の2以上となり、特殊教育に初めて携わる教員を含めて担任の入れ替わりが激しいという実態が分かります。本センターには、これまでに知的障害特殊学級の担任から、「特殊学級の児童生徒に具体的にどのような内容を指導していったらよいのか、参考になる資料があったら教えてほしい」という要望が寄せられていました。特に、特殊学級担任としての経験が浅い教員にとっては、「実態が大きく異なる児童生徒一人一人に応じた指導をするためには、どのように授業を計画したらよいのか」ということが、最も大きな課題であると考えられます。

そこで、本センターでは、領域・教科を合わせた指導や教科別・領域別の指導における年間指導計画から単元（題材）の指導計画、そして一単位時間の指導計画の作成と、個に応じた指導についての考え方に重点を置いた指導資料を作成することにしました。能力や特性などの実態が大きく異なる児童生徒に対して、一人一人の年間の指導目標を達成するために、どのように指導計画を立案し、個に応じた指導を展開していったらよいかを、具体的な指導計画例で示しました。児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な支援を考える際の参考にしていただき、知的障害特殊学級での指導がより一層充実されることを期待します。

終わりに、本指導資料の作成に御協力いただきました編集委員の方々に、厚く御礼申し上げます。

平成15年3月

群馬県総合教育センター所長 山口 晃

<目次>

| | | |
|----------------------------------|-------|------|
| はじめに | | |
| この指導資料を読まれ、活用される方に | ----- | 1ページ |
| 第1章 知的障害特殊学級の教育課程の編成 | | |
| 児童生徒の学習上の特性 | ----- | 2 |
| 学級における指導 | | |
| 教育課程編成の手順 | ----- | 3 |
| 特別な教育課程編成の特例 | ----- | 4 |
| 教育課程編成上の留意点 | | |
| 第2章 指導計画の作成にあたって | | |
| 年間指導計画 | ----- | 6 |
| ・年間指導計画一覧表（小学校）の例 | ----- | 8 |
| ・年間指導計画一覧表（中学校）の例 | ----- | 10 |
| 単元（題材）の指導計画 | ----- | 12 |
| 一単位時間の指導計画 | ----- | 14 |
| 第3章 指導計画の具体例 | | |
| < 小学校編 > | | |
| 国語 例1 | ----- | 16 |
| 例2 | ----- | 22 |
| 算数 例1 | ----- | 27 |
| 例2 | ----- | 32 |
| 生活単元学習 例1 | ----- | 37 |
| 例2 | ----- | 42 |
| 日常生活の指導 | ----- | 47 |
| 自立活動 例1（教育活動全体を通しての指導を重視した例） | ----- | 51 |
| 例2（時間における指導の例） | ----- | 56 |
| < 中学校編 > | | |
| 国語 例1 | ----- | 61 |
| 例2 | ----- | 66 |
| 数学 例1 | ----- | 71 |
| 例2 | ----- | 76 |
| 生活単元学習 例1 | ----- | 82 |
| 例2 | ----- | 88 |
| 作業学習 例1（年間を通じて一つの作業種を展開する例） | ----- | 92 |
| 例2（年間を通じていくつかの作業種を展開する例） | ----- | 99 |
| 日常生活の指導 | ----- | 103 |
| 第4章 総合的な学習の時間 | ----- | 108 |
| 教育センター及び総合教育センターで編集・発行した特殊教育指導資料 | | |
| 参考・引用文献 | | |

この指導資料を読まれ、活用される方に

小学校知的障害特殊学級の担任から、指導計画の作成について、次のような相談があった。

「毎日の授業は、子どもができる活動に楽しく取り組んでいます。その中で、毎日の教育の営みが、本当にこの子どもたちのためになっているかという不安が消えません。活動はしているけれど、それが学習といえるものになっているのか、自信がないのです。児童の実態に合わせてと言っても二人の実態に開きがあります。二人にとって有意義な、一緒に取り組める学習の内容や方法を見つけたいと思います。年間を見通した計画的な指導はどのように組み立てたならよいのでしょうか。」

この学級の在籍は2年生と5年生が各1名、計2名である。担任が話した児童の実態の概略は次のようであった。

A：小学校2年

- ・ひらがなの読み書きができる。1年の漢字の学習を始めたところ。
- ・足し算引き算では、繰り上がり繰り下がり時々間違える。
- ・身辺処理では、できることには、促されるとゆっくりと取り組み、雑だが一応自分でできる。
- ・性格としては、穏やかで、落ち着いていて、気分が安定している。

B：小学校5年

- ・漢字交じりの文章を読む。意味や内容の把握は読めるほどにはできない。
- ・四則計算が得意であるが、文章題の意味が分からず活用することは不得手。
- ・身辺処理には自分なりのやり方や手順等にこだわる。
- ・新しい場面での初期対応にはとまどうことも多いが、決まった手順に沿った行動は好む。

知的障害特殊学級（以下「学級」と略す）には、この相談のように、少人数でも、学年や能力や特性が大きく異なる児童生徒が在籍していることが多い。一人ではなく、複数が在籍することにより、学べる貴重なことも多くある。

学級集団ならではの指導のよさを生かしながら、一人一人の能力を十分に開発し伸ばすためには、その生活年齢や理解力・表現力や心理特性・行動特性に応じた、学習内容と支援方法によるきめ細かな指導が必要となる。一人一人の実態に着目しながら、学級としての実態をとらえて、その実態に合った学習の内容や方法を組織したものが教育課程である。教育課程を実施に移すための手だてを表したものが指導計画である。

学級担任は、教育課程の編成や具体的な指導計画の作成を、児童生徒の実態をふまえて行う。実態をふまえることによって、効果的な指導が期待できるとともに、児童生徒に確かな力を身に付けることができる。

実態の異なる児童生徒と一緒に学習する中で、各々の能力・技能・態度を高めることができるような計画的な学習をしたいという担任の思いにこたえるのが、この指導資料のねらいである。

そこで、この指導資料では、学級における教育課程の編成について解説し、指導計画の作成に当たって、留意する点や指導計画の具体例を紹介する。

第1章 知的障害特殊学級の教育課程の編成

児童生徒の学習上の特性

知的障害のある児童生徒は、一般的に知的発達が無分化で、弁別、抽象、分類、総合、推理、判断等の働きに弱さがあり、学習によって得た知識・技能は断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいという特徴がある。また、抽象性の高い内容よりは、現実度の高い具体的な内容の方が学習しやすいという特徴も持っている。

児童生徒の多くは、失敗経験による自信のなさ、自我の未成熟などにより、新しい学習への動機づけが弱かったり、取組の意欲が乏しかったりする。また、学習活動に取り組む過程で、消極的、逃避的な学習態度が形成されやすいという特徴も持っている。

学級における指導

< 個人差への対応 >

知的障害特殊学級に在籍する児童生徒の障害の状態や発達段階は多様であり、個人差が大きい。また、一人の児童生徒についてみると、発達の諸側面に不均衡が見られることも少なくない。したがって、一人一人の児童生徒の障害の状態や発達段階を的確に把握し、個々の教育的ニーズに応じた教育を展開できるよう十分配慮しなければならない。

また、個々の児童生徒の実態を考える場合、障害の状態とそれに起因する発達の遅れのみが目向きがちであるが、一人一人の児童生徒の能力・適性、興味・関心、性格、さらに進路などにも注目していくことが大切である。つまり、児童生徒の発達の過程などを的確に捉えるとともに、個々の児童生徒の特性や課題についても十分考慮して、より一層、適切な教育課程の編成に努め、一人一人のよさや可能性を伸ばし、個に応じた指導の一層の充実を図ることが重要である。

< 個に応じた指導計画 >

各教科、領域・教科を合わせた指導、自立活動などの指導においては、個に応じて十分検討したきめの細かい指導計画に基づいた指導が行われることが大切である。個に応じた指導は、その児童生徒の活動のテンポやリズムの個人差、障害や行動特性等からくる個人差などをきめ細かく分析してフォローし、意図的、計画的、継続的に指導して、個に応じた指導計画に反映させることによって、はじめて充実した個に応じた指導になる。

< 児童生徒の学習上の特性への配慮 >

未分化で総合的な活動や具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際の状況下で指導することが効果的である。実際の指導では、できる限り成功経験を多くもてるように配慮したり、教材・教具を魅力のあるものに工夫したりして、学習活動に取り組むことの楽しさを味わえるようにすることが大切である。また、児童生徒の自発的・自主的活動を大切にし、それを促し、助長するような配慮も必要である。

教育課程編成の手順

特殊学級の教育課程は、おおむね次の図1のような手順で編成される。

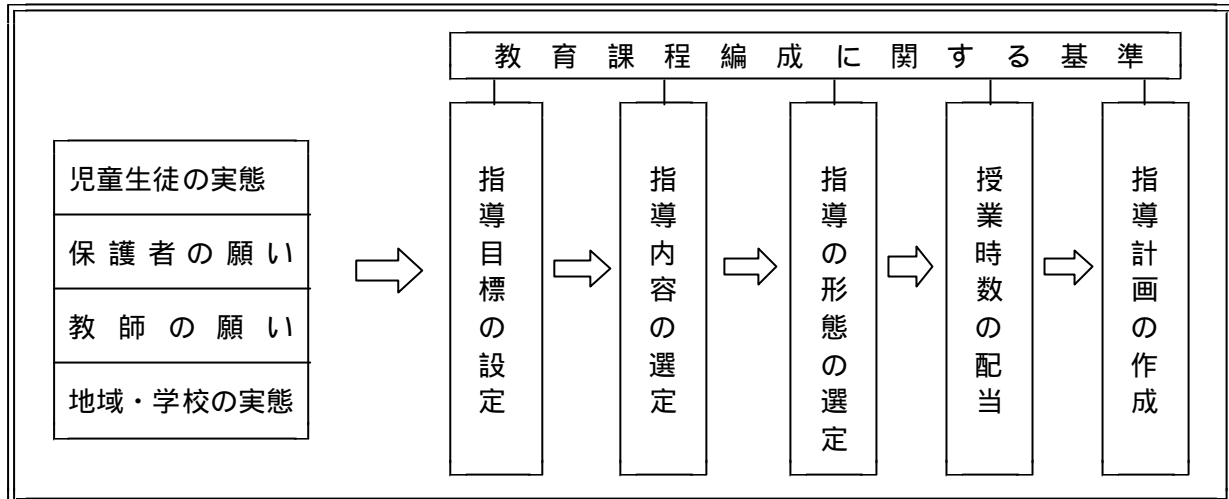


図1 教育課程編成の手順

児童生徒の実態把握

児童生徒の実態把握には、以下の情報が参考になる。

日常の指導実践に基づく情報 ... 行動の特性、興味・関心、指導記録、学習の状況など

保護者からの情報 ... 生育歴、家庭・地域での生活の様子など

心理学的情報 ... 心理検査、発達の種類や特性など

医学的情報 ... 医学的診断の結果、健康の状態など

なお、児童生徒の実態把握は、一時点で十分に把握することは困難であり、また現在の児童生徒の状態を固定的に捉えないようにする必要がある。日常の指導の中で、これまで気づかなかった児童生徒の新しい側面を発見しようとする姿勢が、よりの確な実態把握につながる。

指導目標の設定

個々の児童生徒について、以下の3つの視点から検討・整理して、学級及び個別の指導目標を設定する。

児童生徒自身の視点 ... 児童生徒の興味・関心、生活の必然性、児童生徒の思い、生活スケジュール、生活マップなど

保護者からの視点 ... 保護者の願い、学校への期待、学校と家庭の役割分担など

学校(教師)からの視点 ... 基本的な生活習慣、健康・体力、学習の習熟度、コミュニケーション能力、社会性、作業能力など

指導内容の選定

指導目標の達成に向けて、個々の児童生徒の実態に即して各教科の指導内容を選定する。選定された指導内容は、段階的に配列して整理し、指導内容一覧表にしておくといよい。

各教科の内容については、小学校・中学校学習指導要領及び各教科の解説書、盲学校、聾学校及び養護学校小学部・中学部学習指導要領及び解説書で示されている内容を参考にする。なお、平成

3年版盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領解説 - 養護学校（精神薄弱教育）編 - の「各教科の具体的内容」も参考にするとよい。

指導の形態の選定

児童生徒の障害の状態や特性を考慮し、指導目標を達成するために効果的な指導の形態を選定する。

領域・教科を合わせた指導 ... 日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習

教科別・領域別の指導 ... 各教科、道徳、特別活動、自立活動

時間の枠 ... 総合的な学習の時間

授業時数の配当

総授業時数や各教科等の授業時数については、小学校又は中学校に準ずることになるが、各教科等の授業時数は、児童生徒の障害の状態に応じて適切に定めることができるようになっている。

特別な教育課程編成の特例

特殊学級で教育課程を編成する場合のよりどころは、特殊学級が小学校又は中学校に設置されていることから、原則として小学校・中学校学習指導要領である。

しかし、特殊学級は、もともと通常の学級では、十分指導の効果をあげることが困難な児童生徒のために編成された学級であるので、小学校及び中学校の各学習指導要領に基づいた通常の学級と同じ教育課程では適切でない。特に知的障害特殊学級の場合には、知的発達に遅れがあるという児童生徒の特性に応じた特別な工夫のある教育課程が必要である。

特殊学級の教育課程編成の特例は、学校教育法施行規則で、次のように定められている。

学校教育法施行規則

第73条の19 小学校若しくは中学校又は中等教育学校の前期課程における特殊学級に係る教育課程については、特に必要がある場合は、第24条第1項、第24条の2及び第25条の規定並びに第53条から第54条の2までの規定にかかわらず、特別の教育課程によることができる。

上記条文で述べている第24条第1項以下の各条項は、いずれも小学校又は中学校の教育課程に関する規定であるが、特殊学級においては、これらの規定にかかわらず、それぞれの学級が持っている役割や機能と、在籍している一人一人の子どもたちの実態に応じて、特別の教育課程を編成することが、法令上認められているわけである。

なお、特別の教育課程を編成する場合は、盲学校、聾学校及び養護学校小学部・中学部学習指導要領を参考にしている。（文部事務次官通知 平成11年3月29日付、文初高第457号）

教育課程編成上の留意点

< 生活科の取扱い >

養護学校小学部の生活科と小学校の生活科を比べると、教科としては基本的には同じものとして捉えることができるが、目標の設定において相違がある。前者の場合、生活科は、学習指導要領によれば、「日常生活の基本的な習慣を身に付け、集団生活への参加に必要な態度や技能を養うとともに、（中略）自立的な生活をするための基礎的能力と態度を育てる」というように、基本的な生活習慣の育成が目標の第一に掲げられている。他の教科・領域との関連が強いことから、生活科の内容だけを取り出して取り扱うよりも、領域・教科を合わせた指導の中核的な内容として取り扱う方がより効果的である。後者の生活科は、具体的な活動や体験の結果、生活に必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養うことに重点を置いている。

< 道徳の指導の取扱い >

特殊学級における道徳の指導は、学校全体の道徳教育の目標及び内容から作成された指導計画に準じて指導されることが基本となり、道徳の時間における指導と学校の教育活動全体を通して行われる指導とがある。障害の重い児童生徒が多い学級では、道徳の指導は、道徳の時間における指導よりも、領域・教科を合わせた指導の中で行う方が一般的である。領域・教科を合わせた指導の指導計画を作成する際には、道徳の内容が、適切に含まれるようにし、全体として道徳教育の目標が達成されるよう配慮する必要がある。

< 自立活動の取扱い >

知的障害特殊学級の自立活動では、知的発達段階から見て、随伴して見られる言語、運動、情緒・行動などの面で、顕著な発達の遅れや特に配慮を必要とする様々な状態への対応であることに留意する必要がある。特殊学級に在籍する比較的軽度の児童生徒は、随伴する側面は顕著とは言えないことが多いので、自立活動の時間を設けて指導することは少なく、配慮して指導することが大切である。なお、自立活動の指導にあたっては、一人一人の指導について個別の指導計画を作成し、指導の充実を図りたい。

< 総合的な学習の時間の取扱い >

総合的な学習の時間は、知的障害養護学校小学部では、生活科が設定されていたり生活単元学習など領域・教科を合わせた指導が行われたりしているため、設けられていない。しかし、特殊学級は、特別な教育課程を編成していても、小・中学校に設置された学級であり、小・中学校学習指導要領を基準とすることが原則とされているので、通常の学級と同様に第3学年以上では、「総合的な学習の時間」を設けることに留意する必要がある。

特殊学級における総合的な学習の時間に充てる授業時数については、小・中学校で定められている授業時数を基本とするが、児童生徒の障害の状態や発達段階などを考慮して、それぞれ適切に定めることができる。

< 交流教育の取扱い >

交流教育は、障害のある児童生徒の経験を広め、社会性を養い、好ましい人間関係を育てる上で大変有意義である。協力学級における教科学習での交流については、特殊学級の児童生徒の障害の状態や性格、対人関係等を考慮するとともに、受け入れる学級の構成員や担任について配慮する。協力学級の児童生徒には、障害のある児童生徒をクラスの一員として受け止め、学級全員でかかわるようにする。担任同士が事前・事後に十分に話し合い、効果的に交流が行われるようにすることが大切である。

第2章 指導計画の作成にあたって

本指導資料は、基本的に特殊学級単独で指導する領域・教科を合わせた指導、教科別・領域別の指導のいくつかについて、年間指導計画から単元（題材）の指導計画、一単位時間の指導計画に至るまで、能力や特性が大きく異なる児童生徒に対して、個々の実態に基づいてどのように個に応じた活動を用意し、支援したらよいか、その考え方を具体例に沿って詳しく記述したものである。取り上げる教科・領域等は、国語、算数・数学、生活単元学習、作業学習、日常生活の指導（朝の会を中心に）、自立活動、総合的な学習の時間とする。ただし、総合的な学習の時間については、各学校で実践を始めて間もないことから、どんなテーマや内容で指導しているかなど、具体的な例を掲載するようにした。

以下、「年間指導計画」「単元（題材）の指導計画」「一単位時間の指導計画」の三つの指導計画別に、それぞれの指導計画を作成する際にどのような項目を立て、どんな点に配慮して記述したらよいかについて、「中学校・国語」の「指導計画の具体例」をもとに簡潔に解説する。なお、本指導資料の形式や内容についての解説は、印で示してある。

年間指導計画

年間指導計画を作成するにあたっては、一人一人の児童生徒の障害の状態や発達段階等の実態把握が、十分にできていることが前提になる。しかし、年度当初に作成しなければならないことから、すぐに部分的あるいは大幅な修正を余儀なくされることが多い。したがって、年間指導計画は、児童生徒の変容に合わせて絶えず見直しが行われなければならない。そのためにも、あまり欲張って配列しようと考えず、精選してゆとりあるものにすることが大切である。

ここで、作成する手順及び配慮事項について述べる。

指導目標の達成に向けて、指導内容及び指導の形態が選定され、指導の形態ごとの授業時数が配当されたら、指導の形態ごとの年間指導計画の素案を作成し、どの時期に、どの程度の指導時間をかけ、どんな単元（題材）で、何を指導するかなどの大まかな内容を明らかにする。

すべての指導の形態における単元（題材）名とその指導時期と指導期間、学校行事などを一覧にした「年間指導計画一覧表」を作成する。【年間指導計画一覧表の例 P. 8 ~ 11 を参照】

領域・教科を合わせた指導や教科別の指導など、指導の形態相互及び学校行事との内容的、時期的な関連について照合、吟味しながら、機能的な関連が十分とれるように、単元（題材）の配列や指導時期、指導期間などの調整を行う。

指導の形態ごとの年間指導計画を作成する。各指導の形態の単元（題材）及びその内容の選定にあたっては、内容に関連性と系統性、発展性をもたせるように工夫する。また、児童生徒の学習に対する興味・関心を高め、意欲を喚起するような内容を取り入れる。例えば、生活単元学習では、正月などの社会的行事、祭りなどの地域的行事、運動会などの学校行事、四季折々の季節に合わせた単元などを設定する。

各単元（題材）の指導時数の配当にあたっては、指導の形態ごとに指導の重点を決め、指導の効果が高められるように効率的な時間配当を工夫する。

児童生徒の障害や発達の状況、学校や地域の実態に即して効果的な指導が行えるよう、全体的な調和と統一を図る。



【年間指導計画の具体例】

(1) 生徒の実態

本学習グループは、1年生2名(A、C)、2年生1名、3年生Bは、ひらがなやカタカナ、日常よく使う漢字の読み書きができ、簡単な文章であれば、読んだり書いたりすることができる。1年生Cは、ひらがなやカタカナの文字は書けるが、文を書くときに文字が抜けてしまうことが多い。3名とも話し好きであるが、改まった場面で自分の気持ちや必要なことを伝えることは苦手である。こうした実態の3名の生徒に対する国語の指導を考えたときに、やはり、自分の気持ちや考えなどの内面を豊かに表現したり、人と豊かにコミュニケーションしたりする能力や、生活の中で身に付けた言葉の力を生活の中で十分発揮し、生かすことができる力を身に付けてもらいたいと考える。そこで、系統性にとらわれすぎることなく、以下のような観点から単元を考え、年間指導計画を編成した。

その学級又は学習グループの児童生徒全体について、年間の指導目標や指導計画を導く根拠となる実態を述べる。

- ・生徒の日常生活や興味・関心、生徒たちが話したいこと、書きたいことに根ざした単元を設定し、自分の好きなことをたくさん話したり、書いたり、読んだり、聞いたりする中で、一人一人の実態に応じた必要な言語的内容を指導していく。
- ・人とかかわる力としての「ことば」の学習であるという認識に立ち、ドリル的な学習でなく、実際に人とことばを交わす中で、一人一人の実態の違いはあっても、それぞれの生徒が関連なく、他の友達と学習活動を共有し、お互いにやりとりをしながら学習を設定する。

教科別の指導では、児童生徒の特性や能力が大きく異なる場合、個別に設定されることがある。

週何時間配当で考えられた指導計画であるかを示している。

(2) 年間の指導目標

- ・自分の気持ちや考えなどの内面を豊かに表現したり、人と豊かにコミュニケーションすることができる。
- ・身に付けた言葉の力を生活の中で十分発揮し、生かすことができる。

(3) 年間指導計画

時間は、小学校45分、中学校50分を単位時間として算出している。

<週3時間配当>

| 月 | 単元名 | 時間 | 主な学習活動 |
|---|--|----|---|
| 4 | 自分のことについて話したり、書いたりしよう | | ・簡単な自己紹介の文を書き、自己紹介をする。 ・身近な人との思い出を聞き、さらに知りたいことを質問し合う。 ・VTRに撮り、市内中学校特殊学級に送る。 ・年齢、生年月日、電話番号、学校名、家族の氏名を書いたりする。 |
| 5 | 手紙を書こう | 6 | ・新しい友達や先生のこと、新学年になったの決意等、知らせたいことを手紙に書く。 ・封書の書き方(住所、宛名、郵便番号等)を知り、手紙を出したい人宛に書いて、出す。 |
| | たくさん本を読もう ～図書館の利用～ | 6 | ・学校図書館や市図書館 ・読書記録(書名、著者名)を書いたりする。 |
| 6 | 作文を書こう ～市内特殊学級合同校外学習の様子をみんなで作文にしよう～ | 12 | ・合同校外学習のしおりやVTR、写真などを見ながら、思い出を自由に話し合う。 ・それぞれの生徒の書きたい部分について一文ごとにカードに書く。 ・カードを黒板に貼り、互いに見合っ、時間を追って並べ替えるとともに、漢字に直したり、表記の間違いなどを直したりする。 ・互いに話し合い、様子や気持ちの表現をふくらませていく。 ・完成した作文を視写したり、ワープロで打ったりする。 |

単元(題材)名は、子どもに分かりやすく親しみやすい、平易な表現を心がける。

年間指導計画の中から、単元(題材)の指導計画例として取り上げる単元(題材)は、太線で囲まれたゴシック体で示してある。

【年間指導計画一覧表＜小学校＞の例】

| 月 | 年間行事 | 日常生活の指導 | 生活単元学習 | 国語 |
|----|-----------------------|-----------------|--------------------------------|---|
| 4 | ・始業式 ・入学式 | ・係の仕事 ・教室の整理 | ・楽しい学級 | ・新しい友達 |
| 5 | ・授業参観 ・春の遠足 | ・交通安全 ・よい身なり | 探検ぼくの町 | ・あいさつをしよう |
| 6 | ・プール開き ・宿泊合宿 | ・歯みがき ・衣替え | 合同宿泊学習に行こう | ・ことばあそび |
| 7 | ・終業式 | ・体の清潔 | ・七夕祭りをしよう ・水遊びをしよう | ・もうすぐ夏休み |
| 9 | ・始業式 ・運動会 | ・係の仕事 ・教室の整理 | ・大運動会をがんばろう | ・夏休みの思い出 ものがたりを よもう ふしぎ ふしぎ |
| 10 | ・校外学習 ・やきいも会 | ・そうじの仕方 | ・私たちの住む市 | ものの なまえ ・書くことを集めて |
| 11 | ・交流登山 | ・礼儀正しく | ・さつまいもパーティをしよう ・落ち葉や木の実で遊ぼう | ・おもちゃを作ろう |
| 12 | ・マラソン大会 ・終業式 | ・手伝い | ・お楽しみ会をしよう ・もうすぐお正月 | ・劇遊び 「おおきな かぶ」 |
| 1 | ・始業式 | ・衣服の調節と冬の遊び | ・音楽会で発表しよう | ・今日は何日 ・カタカナって なに |
| 2 | ・作品展 | ・かぜの予防 | ・遠足に行こう | ・昔話を読もう 「おむすびころりん」 |
| 3 | ・お別れ会 ・卒業式 ・修了式 | ・一年間を ふりかえって | ・お別れ会をしよう ・ぼくの一年 | ・くわしく書こう |

| 算 数 | 音 楽 | 体 育 | 図画工作 | 月 |
|--|--|--|--|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期のカレンダーを作ろう ・ 時計の勉強をしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな声で歌おう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 固定施設を使った運動 | <ul style="list-style-type: none"> 友達顔 (共同製作) | 4 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ たし算、ひき算をしよう ・ 買い物をしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな声で歌おう | <ul style="list-style-type: none"> ・ ボール運動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ねん土遊び | 5 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 一日のスケジュール表を作ろう ・ すごろくをしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 合同宿泊学習の歌を歌おう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 水泳 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 箱で遊ぼう | 6 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 時計の勉強をしよう ・ 夏休みのカレンダーを作ろう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しく歌おう | <ul style="list-style-type: none"> <雨天時> ・ リズム運動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ フィンガーペンティング | 7 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 2学期のカレンダーを作ろう ・ 輪投げゲームをしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲に合わせて踊ろう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会の練習 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 飾りを作ろう (運動会) | 9 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 重さをはかろう ・ 線を引こう ・ 電車に乗ろう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲に合わせて踊ろう | <ul style="list-style-type: none"> ・ ボール運動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 衣装をつくろう (やきいも会) | 10 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ トランプをしよう ・ たし算、ひき算をしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器で演奏しよう | <ul style="list-style-type: none"> ・ とびばこ・マット | <ul style="list-style-type: none"> ・ はり絵を作ろう | 11 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 時計の勉強をしよう ・ 冬休みの予定表を作ろう | <ul style="list-style-type: none"> ・ お楽しみ会の歌を歌おう | <ul style="list-style-type: none"> ・ マラソン (持久走) | <ul style="list-style-type: none"> ・ スタンプ遊び | 12 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 3学期のカレンダーを作ろう ・ どっちが多い | <ul style="list-style-type: none"> ・ お正月の歌を歌おう | <ul style="list-style-type: none"> ・ マラソン (持久走) | <ul style="list-style-type: none"> ・ おもちゃ作ろう たこ、こま | 1 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物をしよう ・ 長さをはかろう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器で演奏しよう | <ul style="list-style-type: none"> ・ サーキット運動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ やきものを作ろう ・ ペーパーウエート ・ ブローチ・ペンダント | 2 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 時計の勉強をしよう ・ 1年間の復習をしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・ お別れ会で合奏しよう | <ul style="list-style-type: none"> ・ なわとび | | 3 |

【年間指導計画一覧表＜中学校＞の例】

| 月 | 年間行事 | 日常生活の指導 | 生活単元学習 | 作業学習 | | | 国語 | 社会 |
|----|-----------------------|---------------------------------|-------------------|--|---|--|-----------------------|--------------------|
| 4 | ・始業式 ・入学式 | 朝 の 会 帰 り の 会 | ・新しい学年、学級 | 農 業 | 園 芸 | 縫 製 | ・自分のことについて書いたり話したりしよう | ・私たちの町（学校のまわり） |
| 5 | ・授業参観 | | ・春の旅行に行こう | さ つ ま い も を つ く ろ う | 花 だ ん を 花 い っ ぱ い に し よ う | 雑 巾 や ヲ ヲ ス ツ を 縫 お う | ・新聞やチラシを読もう | |
| 6 | ・プール開き ・宿泊合宿 | | ・一緒にボウリングをしよう | | | | ・作文を書こう | ・私たちの郷土（県、市） |
| 7 | ・終業式 | | ・卒業生を訪ねよう | | | | ・電話で話そう | |
| 9 | ・始業式 ・文化祭 | | ・文化祭に参加しよう | | | | ・メモを取って伝えよう | ・私たちの国 |
| 10 | | | ・特学交流会に行こう | | 作 品 展 で 販 売 す る | 作 品 展 で 販 売 す る | ・劇のシナリオを作って劇をしよう | |
| 11 | | | ・日曜日のランチを作ろう | | 卒 業 式 に 飾 る 花 を 育 て よ う | 卒 業 式 に 飾 る 花 を 育 て よ う | ・作文を書こう | ・世界の国々 |
| 12 | ・マラソン大会 ・終業式 | | ・お金をためて校外学習に出かけよう | | | | ・いろいろな書類を書いてみよう | |
| 1 | ・始業式 | | ・作品展の準備をしよう | | | | ・書き初めをしよう | ・私たちのくらしと公共施設、公共機関 |
| 2 | ・作品展 | | ・コーヒー屋さんを開こう | | | | ・案内状を買って出そう | |
| 3 | ・お別れ会 ・卒業式 ・修了式 | | ・一年の締めくくりをしよう | | | | ・学級文集を作ろう | |

| 数学 | 理科 | 英語 | 音楽 | 美術 | 保健・体育 | 月 |
|--------------|-------------|--------------------|-------------------|---------------|---------------------------|----|
| ・1000までの数 | ・春の野草のつくり | ・カタカナで書く言葉を探そう | ・春の歌を歌おう | ・友達を描く | ・体力測定 | 4 |
| ・10000までの数 | ・自転車のしくみ | ・アルファベットの練習 | ・リズムに乗って楽しく歌おう | ・コリントゲーム | ・集団行動 ・短距離走 | 5 |
| ・順番と大小 | ・発育と成長 | ・簡単なあいさつ | ・リズムに乗って演奏しよう | ・手をつくる | ・走り幅跳び、 走り高跳び | 6 |
| ・買い物しよう | ・動物 | ・英語で言おう (ものの名前) | ・口を大きく開けて歌おう | ・ポスター | ・水泳 | 7 |
| | ・食物と栄養 | ・英語を探そう | ・音の重なりを感じながら合奏しよう | ・デザイン貼り絵 | ・フォークダンス | 9 |
| ・たし算、ひき算、かけ算 | ・昆虫 | ・英語で言おう (数) | | ・身近な風景を描く | ・マット運動、 鉄棒運動 | 10 |
| ・かさ | ・太陽・月・地球 | ・英語で言おう (動作) | ・みんなで歌おう | ・木製パズル | ・跳び箱 ・疾病の予防 | 11 |
| | ・心臓・血液・肺の働き | ・簡単な会話 | ・曲想を感じながら歌おう | ・年賀状(版画) | ・持久走 | 12 |
| ・時間 | ・電池と電球 | ・英語で言おう (日時) | ・冬の歌を歌おう | ・ジャンボかるた | ・球技 (ソフトボール・卓球・サッカーなど) | 1 |
| ・長さ | ・天気 | ・英語で言おう (色や形) | ・合奏しよう | ・お面 | | 2 |
| ・三角形と四角形 | ・消化器系のしくみ | ・簡単な会話 (買い物) | ・気持ちを込めて歌おう | ・イラスト(文集のカット) | | 3 |

して、豊かな表現

単元(題材)の展開、環境設定、教材・教具、教師の働きかけ、個への配慮等、さまざまな観点から箇条書きで表す。

・文を書いたり、表
や校外学習のしお

本指導資料では、児童生徒一人一人の実態の分析をもとに、本単元(題材)で個々の児童生徒にどのような配慮をしていくのかを中心に記述している。

A：文の構成要素(「**まづなものは**」を意識したり、「**アエラ**」したりできるように、構成要素表を用意したり、それを意識できるような質問を行ったりする。

行為者(だれが) 対象(何を) 行為(どうした) 手段・材料(何で)

目的(何のために) 相手(だれに、だれと) 原因、理由(なぜ)

時間(いつ) 感想(どうだった、どう思った)・・・等

B：一つの主語に対する述語をたくさん考えてみるよう促す。

C：気持ちや様子の表現を引き出せるように、「このときの気持ちは？」等の質問をする。

(6) 単元の展開

<全12時間計画>

| | 学 習 活 動 及 び 支 援 | | | 時 間 |
|-------------------------------------|---|---|--|--------|
| | A | B | C | |
| 思い出を 文にする | 自分の担当箇所について、書きたい【多少の不適切な表現があってもよいことを伝え、意欲的に書けるよう | 漢字で書けるものは漢字に直す。 | 時間順に並べ替える。 | 2 |
| 間違いを 直したり、 漢字で書 いたりす る | それぞれが書いたカードを黒板に見せ、助詞の間違いや表記の間違いを探し、直す。 【いろいろな助詞に言い換えてみるよう促す】 直した内容を互いに発表し | 漢字で書けるものは漢字に直す。 【辞書の使用を促す】 | 【しおりの日程表を参考に するよう促す】 | 1 |
| みんなで 話し合い ながら、 文を膨ら ませる | それぞれが書いた場面ごとに、みんなで話し合いながら、様子や気持ちの表現を膨らませ、カードに書き足していく。 【より豊かな表現を引き出せるように、生徒に応じて次のような質問をしたり、録音しておいた話し合いの様子を聞かせたりする】 【文の構成要素表を基に、「何でうれしかったの？」等、より詳しい表現を引き出すような質問をする】 接続語を考え、書く。 【いろいろな接続語を書いたカードを用意しておく】 | 【一つの主語に対する述語をたくさん考えてみるよう促す】 主語が抜けている文の主語を考える。 【考えやすいように述語に線を引く】 | 【気持ちや様子の表現を引き出せるように、「このときの気持ちは？」等の質問をする】 | 6 |
| できた 文を書 く | 指導者が設定した目標を達成するために、形成的な評価をしながら効果的な指導を展開し、その結果としての成果を評価するための規準と考え、単元(題材)の指導計画に位置づける。 | | 完成した作文を視写する。 【一文ごとに読んで確認するよう促す】 | 2 |
| 評価規準 | ・文の構成要素を考え、文をより詳しくしようとしている。 ・適切な接続語を考えたり、助詞の誤りを指摘したりしている。 | ・いろいろな述語を考えたり、様子や気持ちを表す言葉で表現している。 ・動作の主語を考えたり、できる限り漢字に直そうとしたりしている。 | ・体験した順序を考えたり、気持ちを表す言葉を使ったりして表現している。 ・動作の主語を考えている。 | |

一単位時間の指導計画

今回の学習指導要領の改訂により、一単位時間は、各学校が適切に定めてよいことになった。したがって、児童生徒の障害の状態や学習活動の特質によっては、授業の一コマの時間を20分、30分、60分、100分などに設定してもよいということになる。ただし、総授業時数を算出するにあたっては、一単位時間は小学校45分、中学校50分で計算する。

【一単位時間の指導計画の具体例】

「単元(題材)のねらい」との関連性を考慮して設定する。一単位時間の中で、このことをぜひ身につけてほしいという教師の願いが表されるものなので、1～2項目程度示す。

全13時間中の第5時「電車に乗っている場面の作文をみんなで膨らませる」学習

(1) 本時のねらい

- A 電車に乗っている場面について、より詳しい表現を考えたり、適切な接続語を使って文と文をつないだりすることができる。
- B 電車に乗っている場面について、いろいろな述語を考えたり、主語を考えたりできる。
- C 「全体」と「個別」を示す場合、「個別」のねらいは、児童生徒の発達段階や特性等に応じて、その実態を考慮して、「全体」のねらいをさらに具体化して記述する。

(2) 準備 自分たちで書いた文のカード、磁石、話し合いの際の録音テープ、接続語カード

個々の児童生徒が、ねらいとの関連でどのような活動に取り組み、それに対して教師がどのような支援を行うかを、個別に欄を設けて分かりやすく記述する。

(3) 展開

| 活動の流れ | 時間 | 活動のねらいと支援 | | |
|---------------|-----|--|---|---|
| | | A | B | C |
| 活動確認 | 5分 | 本時の学習活動について理解できる。 本時の学習内容を確認し、本時に学習するカードを準備する。 | | |
| 話し合いながら文を膨らませ | 25分 | みんなで話し合いながら、より豊かな表現の文を膨らませ、カードに書き足していく。 【最初に書いた文と後から膨らませた文を意識できるように、書き足したものは赤で書く】 【話し合いの時のテープを聴かせ、その際の発言やつぶやきを言葉に直すようにする】 例 「電車の窓から変なビルが見えました」 録音：「ウンコみたいってみんな言ってたよね」 「電車の窓から変なビルが見えました。ウンコみたいとみんなが言っていました」 【話し合いの際、生徒に応じて次のような質問をし、言葉を引き出していく】 【文の構成要素表を基に、書かれていない要素について引き出すような質問をする】 例「ぼくはうれしかった | | |

本指導資料では、基本的には、児童生徒の一つ一つの学習活動に対して、教師の「支援」があると考えて記述している。

| | | | |
|-------|--|---|--|
| る | <p>です」 理由：「何でうれしかったの？」 「僕は　さんと隣の席に座れてうれしかったです」</p> <p>理由や目的、相手等の観点で文を膨らませている。</p> | <p>りました」</p> <p>一つの主語に対していろいろな述語を考えている。</p> | <p>しかったです」</p> <p>「評価規準」は、「～している」のように、個々の児童生徒について本時でどのような姿が現れればねらいを達成したといえるのか、その具体的な姿で表現する。</p> <p>気持ちを表現する言葉を考えている。</p> |
| 各自の学習 | <p>適切な接続語を考えることができる。</p> <p>文と文の関係を考え、適切な接続語を書く。</p> <p>【わからないときは、選択できるように、接続語を書いたカードを用意しておく】</p> <p>文と文の関係を考え、適切な接続語を考えている。</p> | <p>「支援」は、児童生徒の活動が、ねらいを達成できるようにするために行う教師の行動、準備、発問、言葉かけなどであるので、抽象的にならないように留意し、教師が何をするのか具体的に記述する。</p> <p>【より状況に合った主語は、【考えやすいように、述語に線を引いておく】例を挙げる】</p> <p>例：「私」「私たち」</p> <p>より状況に合った主語を考えようとしている。</p> | <p>展開の中に欄を設けて記述する例である。本指導資料では、紙面の都合上、主な学習活動についてのみ、評価規準を示している。</p> |
| 朗読 | <p>できたところまでを一人一人朗読する。</p> <p>【最初に書いた文と後から膨らませた文を意識できるよう、両方の文章を読むようにする】</p> | | |

指導案の中には直接記述されないが、教師の指導の適切性について評価することが大切である。児童生徒に変容が見られたかどうかで、指導が適切であったかどうか詳しく検討する必要がある。その際の観点としては、「ねらいの設定」「学習活動の設定」「教師の働きかけ」「教材・教具」「チーム・ティーチング」などが考えられる。このような観点で自己の指導を見つめることが、より質の高い授業の創造へとつながっていく。

具体的な「支援」については、たとえば、ホットケーキ作りで、牛乳を250cc量ってボウルに入れる活動に対して、教師の支援が「正しく入れられるように支援する。」と書かれていることがある。これでは、実際に教師がどう支援するのかが分からない。「正しく入れられるように目盛りを付けておく」または「計量カップの250ccのところ印を付けておく」「目盛りに注目するように、～と言葉をかける。」などのように、児童生徒が学習しやすい環境、できる状況を作るために教師が具体的に何をするのか、何をしておくのかを明確にすることが大切である。

第3章 指導計画の具体例

国語 【例1】

1 年間指導計画例について

(1) 児童の実態

本学級には、1年生1名（A児）、4年生1名（B児）、5年生1名（C児）の3名の児童が在籍している。A児は、自分の名前はひらがなで書けるが、バラバラにすると読めないひらがながある。教師の質問に答えたり、自分のことを簡単に話したりすることはできるが、友達の前で話すことは苦手である。B児は、2年生程度の漢字の読み書きができ、短い作文を書くことができるが、パターン化しがちである。教師に対して丁寧な話し方ができるが、語彙が不足しているため、自分の話したいことを適切に話せないことがある。文章の読み取りが苦手である。C児は、簡単な漢字やよく使う漢字が身に付いてきたが覚えるまでに時間がかかる。短い作文を書くことはできるが、助詞の正しい使い方がまだ身に付いていない。自分で経験したことなどを話すことができるが、大勢の前で話すことは苦手である。文章に書いてあることを読み取ることも苦手である。

本学級は、学年差が大きいので学力の差も大きい。そこで、低学年の児童でも興味を持って学習に取り組めるよう生活に根ざした内容を中心に学習の計画を立てることとする。その中でA児はひらがなを中心に学習を進め、語彙を豊かにする工夫をしたいと考える。B児・C児には漢字を中心に指導するとともに、いろいろな体験を通して語彙や表現力を豊かにする工夫を心がける。また、朝の会なども利用し、話したり聞いたりする経験を多く積めるようにしていきたいと考える。

(2) 年間の指導目標

- A児・自分の経験したことを、みんなの前で大きな声で話すことができる。
- ・ひらがなの清音・濁音の読み書きができ、カタカナで表す言葉もあることに気づく。
 - ・簡単な文を読み、内容を理解することができる。
- B児・電話の応対、用件の伝言など、場に応じた話し方ができる。
- ・2年生の漢字や生活の中でよく使う漢字の読み書きができる。
 - ・簡単な文章の内容を理解することができる。
- C児・用件の伝言や電話の応対の仕方を身につけ、教師の援助なしに話すことができる。
- ・1年生の漢字や生活の中でよく使う漢字の読み書きができる。
 - ・簡単な文章の内容を理解することができる。

(3) 年間指導計画

< 週4時間配当 >

| 月 | 単元名 | 時間 | 主な学習活動 |
|---|-----------|----|---|
| 4 | あたらしいともだち | 12 | ・自分の名前を書いたり、自己紹介文を書いたりする。 ・友達や先生の名前をひらがなや漢字で読んだり書いたりする。 ・学校探検をして分かったことを、単語や文で表す。 |
| 5 | あいさつをしよう | 12 | ・その場に合った、あいさつを考え、あいさつ遊びをする。 ・「だれに あえるかな」を読み、あいさつのよさを感じる。 ・電話ごっこをし、電話の正しい話し方を身につける。 ・交流会の作文を順序よく書く。 |

| | | | |
|----|--------------------------|----|---|
| 6 | ことば あそび | 16 | ・頭に のつく言葉探し、しりとり遊び、なぞなぞ遊び、絵描き歌、仲間の言葉集めなどを楽しむ。 |
| 7 | もうすぐ なつやすみ | 8 | ・七夕の物語を聞き、短冊に願いごとを書き七夕飾りに飾る。 ・あさがおの観察を絵や文で表したり、絵日記の書き方を知ったりする。 ・手紙の書き方を知り、暑中見舞いを書く。 |
| 9 | なつやすみのおもいで | 2 | ・夏休みの思い出の発表会をする。 |
| | ものがたりを よもう 「ふしぎ ふしぎ」 | 14 | ・「ふしぎふしぎ」を読み、登場人物の会話や行動を読みとる。 ・ペープサートを使って劇遊びをしながら、「 」の使い方を知る。 ・影絵遊びや、作り方メモを見てお月見の団子作りをする。 |
| 10 | うんどうかいのおもいで | 2 | ・運動会の思い出を、順序に気をつけて詳しく書く。 |
| | なにをしているの | 14 | ・絵カードを見て、動きや様子を表す言葉を考える。 ・反対の言葉を考えたり、反対語カルタをしたりする。 |
| 11 | おもちゃをつくろう | 16 | ・説明文「ぶんぶんごまを作ろう」を読み、ぶんぶんごまの作り方を読みとり、実際にこまを作る。 ・自分の作りたいおもちゃを作り、その説明文を書く。 |
| 12 | もうすぐ ふゆやすみ | 8 | ・カルタ取りや年賀状書きをする。 |
| 1 | きょうは なんにち | 6 | ・日にちの特殊な呼び方や、それぞれの月の主な行事を知る。 ・いろいろな物の数え方を知り、数えてみる。 |
| | カタカナって なに | 6 | ・ひらがなとカタカナの違いを知る。 ・身の回りにあるカタカナを探し、読んだり書いたりする。 |
| 2 | むかしばなしをよもう 「おむすびころりん」 | 12 | ・「おむすび ころりん」を読みとり、昔話を楽しむ。 ・いろいろな昔話を集めて、読み合ったり、昔話クイズをしたりする。 |
| 3 | もうすぐ はる | 12 | ・今までに書いた作文などを整理し文集にまとめ、思い出の発表会をする。 ・お世話になった先生や仲良しになった友達にカードを贈る。 |

その他、週に1時間は図書的时间(図書室の利用・読み聞かせ)。A児は毎時間ひらがなの学習をする。B児・C児は週に1時間書き方の学習(毛筆中心・漢字の書き取り練習も含む)をする。

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 ものがたりをよもう 「ふしぎ ふしぎ」

(2) 単元について

教材文「ふしぎ ふしぎ」は、満月の夜に散歩をしていたきつねとたぬきが、お月様に不思議な影を見つけたところから話が始まる。その影は、月でお餅つきをしていたうさぎの影である。きつねとたぬきが「お餅つきをしたい」と言うと、うさぎが月から出てきて交代してくれる。それからは、不思議なことに月にいろいろな影が映るようになるという、かわいらしい話である。

出てくる動物も児童に身近なものであり、動作や会話も分かりやすいので、低学年の児童にも理

解しやすく、楽しく読解をするのに適した教材であると考え。会話文も簡潔で分かりやすいので、上級生の児童に、「 」の指導がしやすい。ここでは劇遊びを取り入れ、読み取ったことをもとにセリフを言ったり動作化したりすることで、理解を深めさせたい。

(3) 単元に関する児童の実態

| | A児(1年) | B児(4年) | C児(5年) |
|-----------|---|--|--|
| 文字の読み書き | ひらがなの清音の2/3程度を書いたり、ひらがなの清音をだいたい読んだりすることができつつある。 | 2年生程度の漢字の混じった短い文を書いたり、音読したりすることができるが、文字を抜かしがちである。 | 簡単な漢字の混じった文を書くことができるが、「は」と「わ」などの使い分けができない。簡単な漢字の混じった短い文章を音読することができる。 |
| 文章の読解 | ひらがな2~3文字で書いた言葉を読み、何を意味するか分かるようになりつつある。 | 2~3行の短い文章の内容を読み取ることはできるが、長い文章の読み取りは苦手である。「 」が会話文を表していることは分かるが、自分の文章では使用できない。 | 2~3行の短い文章の内容を読み取ることはできるが、長い文章の読み取りは苦手である。「 」が会話文であることは学習したが、誰のセリフか読みとれないことがある。 |
| 学習への取組の様子 | いろいろなことに興味をもつが、劇遊びではセリフを言うことが苦手である。また、集中できる時間が短い。 | 何事にも興味をもち、劇遊びにも意欲的に取り組む。 | 劇遊びではセリフや動作化はできるが、集中力に欠けるため、自分の番にセリフを言えないことがある。 |

(4) 単元のねらい

- A児・劇遊びで自分の役割が分かり、教師の援助を受けながらセリフを言うことができる。
 - ・登場する動物の名前などをひらがなで読んだり書いたりすることができる。
- B児・2年生程度の漢字の混じった教材文を音読し、登場人物の言ったことや行動が読みとれる。
 - ・「 」の使い方が分かり、文の中で使うことができる。
- C児・1年生程度の漢字の混じった教材文を音読し、登場人物の言ったことや行動が読みとれる。
 - ・「 」が会話を表すことがわかり、誰のセリフであるか読み取ることができる。

(5) 指導方針

- ・A児にはひらがなだけの教材文、B児には2年生程度の漢字の混じった教材文、C児には1年生程度の漢字の混じった教材文を用意する。
- ・A児には挿絵付きの教材文を用意し、読解の手助けにする。
- ・B児・C児には挿絵抜きの教材文を用意し、文章だけで読解できるようにする。
- ・A児が役割演技をするときは、そばで支援し、セリフを言う抵抗感をやわらげる。B児・C児のときは、「 」の付いた文を掲示し、それを見ながら自分で役割演技ができるようにする。
- ・A児にはひらがな表、B児・C児には漢字表を掲示することで、分からない字は自分で確認する

習慣を身につけられるようにする。

- ・ペープサートなどを用意し楽しく劇遊びに取り組めるよう工夫し、意欲的に学習できるようにする。
- ・漢字やひらがなの学習は、毎時間少しずつ取り組みしっかり身に付くようにする。

(6) 単元の展開

<全14時間計画>

| | 学 習 活 動 及 び 支 援 | | | 時 間 |
|--------------|--|--|--|--------|
| | A 児 | B 児 | C 児 | |
| 物語文の読み取り | <p>教師の読み聞かせや挿絵を楽しみ、ひらがなの読み書きの練習をする。</p> <p>【ひらがなカードを利用し、自分で学習できるようにする】</p> <p>物語を読んでもらい、ペープサートを使って劇遊びをする。</p> <p>【劇遊びの抵抗感をなくすために、教師と一緒にセリフを言ったり動作化したりする】</p> | <p>物語に出てきた漢字の読みを確認し、音読の練習や漢字の書き取りの練習をする。</p> <p>【既習の漢字と新出漢字を掲示して、常に確認できるようにし、分からないときはそれを見るように促す】</p> <p>場面ごとに物語を音読し、登場人物の話したことばや行動を読み取る。ペープサートを使って劇遊びをする。</p> <p>【セリフの部分に誰のものか分かるように印を付けるよう、助言する。動きは、事前に一緒に練習する】</p> | <p>物語に出てきた漢字の読みや助詞の読み方を確認し、音読の練習や漢字の書き取りの練習をする。</p> | 8 |
| 影当てゲーム | <p>月に映った影がだれであるか考える。また、いろいろな影当てゲームをする。</p> <p>【教材文に出てくる動物や特徴的な動物の影を用意してあてやすくし、興味が続くようにする】</p> | <p>【教材文に出てくる動物以外の動物や、形だけでは分かりにくい影も用意して、言葉によるヒントを出し、言葉から考える力を伸ばすようにする】</p> | | 1 |
| ひらがな練習「」の使い方 | <p>出てきた動物などの名前をひらがなや絵でかく。</p> <p>【ひらがなカードを用意し、分からない文字は自分で確認するように促す。興味が続くように、絵を描く場面も設ける】</p> | <p>「」の使い方をプリントで練習する。</p> <p>【話していることを1つ1つ確認するように促し、「」をつける箇所が自分で見つけられるようにする】</p> | | 2 |
| 月見団子作り | <p>作り方を書いたメモを見ながらお月見団子を作り、お月見の行事を体験する。</p> <p>【作り方が分かるように、絵カードを用意する】</p> | <p>【団子が自分たちで作れるよう、作り方を表した文は、短く分かりやすく表現したものを用意する】</p> | | 3 |
| 評価規準 | <p>・セリフを自分から言おうとしている。</p> <p>・登場する動物の名前を、ひらがなカードを見ながら間違えずに書くようとしている。</p> | <p>・教材文を読みとり、役割分担した動物のセリフを言ったり、動作化したりしている。</p> <p>・短文の会話文に、「」をつけようとしている。</p> | <p>・教材文を読みとり、役割分担した動物のセリフを言ったり、動作化したりしている。</p> <p>・役割分担したセリフを、教材文の「」の中から探している。</p> | |

3 一単位時間の指導計画例について

本時は1 / 14 くまときつねが月夜の晩に散歩をし、月に不思議な影を見つける最初の場面

(1) 本時のねらい

A児 ・登場人物が分かり、セリフを言うことができる。

B児 ・登場人物のセリフや行動を読みとり、自分の役割の動物のセリフを言ったり動作化したることができる。

C児 ・「 」が誰のセリフか読みとり、自分の役割の動物のセリフを言うことができる。

(2) 準備 ペープサート、会話文を書いた掲示用プリント、挿絵を拡大したもの、ひらがなカード

(3) 展開

| 活動の流れ | 時間 | 活動のねらいと支援 【 】内：支援、 内：評価規準 | | |
|-------------------|----|---|--|---|
| | | A 児 | B 児 | C 児 |
| 物語文を読む ひらがなを書く | 5分 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ひらがなを読み書きできる。</div> <ul style="list-style-type: none"> ひらがなの練習プリントに取り組む。 <p>【「つき」「やま」などのように言葉として練習できるプリントを用意する。ひらがな表を机上に掲示し、分からないときは自分で見るように促す】</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文字を抜かさず正確に音読できる。</div> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の混じった教材文を音読する。 <p>【文字を抜かさないように、指でたどりながら音読するように言葉をかける】</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">漢字の読みに気をつけて音読できる。</div> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の混じった教材文を音読する。 <p>【教材に出てきた漢字は小黑板に掲示しておき、自分で確認するように促す】</p> |
| 登場人物を考える | 5分 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">出てきた動物の名前を言うことができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> 音読を聞き、だれが出てきたのか考える。 <p>【教材文はひらがなで挿絵付きのものにし、絵が手がかりになるようにする】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">挿絵を見て、登場する動物の名前を発表している。</div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文章だけで、いつ、どこで、だれが出てきたのか読み取ることができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> いつ、どこで、だれが出てきたのか読みとる。 <p>【教材文は挿絵を抜き、文章だけで考えられるようにする。分からないときは教師が強調しながら音読をし、内容を読みとりやすくする】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">教材文を読み、登場する動物の名前や場所などを発表している。</div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文章だけで、いつ、どこで、だれが出てきたのか読み取ることができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> いつ、どこで、だれが出てきたのか読みとる。 <p>【教材文は挿絵を抜き、文章だけで考えさせ、分からないときは挿絵のついた教材文を示し、内容を読みとれるようにする】</p> |
| 劇 | | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">友達と一緒に劇遊びができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> B児・C児の読み取った内容を聞き、セリフや動きを知る。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">誰のセリフかが分かり、動作をつけることができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> 段落ごとに音読し、誰のセリフか、誰がどんなことをしたのかを読み取る。 <p>【読みとれないときは、教師が強調しながら音読し、</p> | |

| | | | |
|--|---|--|---|
| 遊 び を す る | <p>20</p> <p>【誰のセリフが分かるようにセリフの部分にシールを貼るようにする。動きは実際に体で表現するよう言葉をかける。また、一緒に動作化する】</p> <p>・自分の役割のペープサートを持ち、セリフを言ったり、動作化したりする。</p> <p>【教師がそばについて、一緒にセリフを言い、抵抗なく自分のセリフが言えるようにする】</p> <p>教師と一緒に、声を出してセリフを言おうとしている。</p> | <p>内容を読み取りやすくする。セリフの部分には印を付け、誰のセリフが分かりやすくする。動きは実際に体で表現するように言葉をかける】</p> <p>【劇遊びの前に誰のセリフか確認し、教材文に印をつけ、自分の役が分かりやすいようにする】</p> <p>自分の役のセリフを言っている。 自分の役の動きを体で表現している。</p> | <p>【セリフを1つ1つ書いたカードを掲示し、自分のセリフを意識できるようにする】</p> |
| ひ ら が な ・ 漢 字 の 学 習 | <p>15</p> <p>言葉としてのひらがなの読み書きができる。</p> <p>・登場した動物の名前など、物語の中の大切な言葉をひらがなで丁寧に書く。</p> <p>・パソコンで文字を読む練習をする。(パソコンソフト使用)</p> <p>【言葉に並べるためのひらがなカードを用意する】</p> | <p>漢字を正しく書くことができる。</p> <p>・物語に登場した動物の名前や行動など、読みとったことを、ひらがなや漢字で丁寧に書く。</p> <p>【教材に出てきた漢字は掲示しておき、分からないときに常に確認できるようにする】</p> <p>・教材文に出てきた漢字テストをする。</p> <p>【漢字を確実に定着させるため、漢字テストはすぐに答え合わせをし、間違っものは練習をするように促す】</p> | <p>漢字が読め、簡単な漢字が書ける。</p> |

国語【例2】

1 年間指導計画例について

(1) 児童の実態

本学級には、2年生1名（A児）、3年生1名（B児）、4年生1名（C児）の3名の児童が在籍している。A児はひらがな・カタカナの清音の読み書きが身に付いており、単語として書くことができる。しかし、文として書くには教師の支援が必要である。読み聞かせを好むが、自分で短い話を讀んだり、内容を理解したりすることは難しい。B児は、ひらがなの読み書きはでき、カタカナは半分ほど身に付いている。単語として書くことはできるが、語彙が不足している。文として書くには、教師の支援を必要とする。読み聞かせを好むが、自分で短い話を讀んだり、内容を理解したりすることは難しい。C児は、肢体不自由を併せもち手に麻痺があり、特に左手の緊張が強い。3年生の漢字がだいたい読めるが、画数の多い漢字は書くことが難しい。読み聞かせや読書を好み、短い文章の読解ができる。自分の経験したことを短い作文に書くことができるが、ややパターン化しがちである。

学力には差があるが、3人とも読み聞かせを好む児童なので、詩や物語を中心に年間指導計画を立てることとする。その中で、ひらがな・カタカナ・漢字の読み書きの活動を多く設定し、しっかり身につけさせるようにする。また、語彙を豊かにする工夫を心がける。朝の会で日記を発表したり、行事ごとに短い作文を書いたりする機会を多く取り入れるようにする。

(2) 年間の指導目標

A児・ひらがな・カタカナの清音・濁音、簡単な漢字の読み書きができる。

- ・読み聞かせから読書の楽しみを知り、自分で短い絵本を読むことができる。
- ・短い日記などを書くことができる。

B児・ひらがなの濁音やカタカナの清音などの読み書きができる。

- ・読み聞かせをしっかりと聞き、短い文章を音読することができる。
- ・短い日記などを書くことができる。

C児・生活の中でよく使う漢字の読み書きができる。

- ・漢字の混じった物語などを音読し、内容を理解することができる。
- ・見聞きしたことや体験したことを、順序よく書くことができる。

(3) 年間指導計画

< 週4時間配当 >

| 月 | 単元名 | 時間 | 主な学習活動 |
|---|----------------------------|----|---|
| 4 | みんな なかよし | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・友達や先生の名前を、漢字やひらがなで讀んだり書いたりする。 ・自己紹介文や特別教室の紹介文を書き、発表会をする。 ・新しく赴任した先生に自己紹介カードを書いて渡す。 |
| 5 | こえを そろえて 「くまさん」など | 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・詩を音読する。 ・動作化遊びや、しりとりなどの言葉遊びをする。 |
| | じゅんじょよくかこう | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年のバス旅行の思い出を、順序に気をつけて書く。 |
| 6 | せつめいぶんを よもう 「なにをしているのでし | 16 | <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうの動きを説明文から読み取る。 ・いろいろな短い説明文を読み取る練習をする。 |

| | | | |
|----|----------------------|----|---|
| | よう」 | | ・自分たちで育てているミニトマトの観察文を書く。 |
| 7 | ものがたりを よもう 「ぶらんこ」 | 8 | ・音読を楽しみ、絵を手がかりに内容を読みとる。 ・自分たちがブランコに乗って見えた物を、作文に書く。 |
| 9 | なつやすみの おもいで | 2 | ・夏休みの思い出の発表会をする。 |
| | カタカナ さがし | 12 | ・身の回りにあるカタカナで表記するものを探し、その名前を読んだり書いたりする。 ・鳴き声やいろいろな音を表す言葉を集め、カタカナで書く。 |
| | じゅんじょよくかこう | 2 | ・運動会のことを、写真を見ながら思い出し、順序よく作文に書く。 |
| 10 | ものの なまえ | 11 | ・いろいろなものの名前を漢字やひらがな、カタカナで書く。 ・1つ1つの名前とひとまとまりの名前を考える。 ・ものあてゲームをし、様子を表す言葉を見つける。 |
| | かくことを あつめて | 5 | ・写真（ビデオ）を見ながら、バス旅行のことを思い出し、書く材料を集めてから、作文にまとめる。 |
| 11 | かんじの なりたち | 8 | ・漢字の成り立ちを知り、簡単な漢字を身につける。 ・漢字の部首を知る。 |
| | げきあそび 「おおきな かぶ」 | 16 | ・「大きな かぶ」を音読し、助詞の使い方を知る。 ・内容を読みとり、劇遊びを楽しむ。 |
| 1 | かきぞめ | 2 | ・書き初めをする。 |
| | カレンダーをつくろう | 10 | ・カレンダーを作り、日にちの読み方や行事を知る。 |
| 2 | つくってみよう | 12 | ・「ホットケーキ」の作り方の説明文を読み、必要な材料や用具などを用意し、ホットケーキを作る。 ・お世話になった先生方へ感謝のカードを書く。 |
| 3 | くわしくかこう | 12 | ・今までに書いた作文の中で一番の思い出を清書し、市内特殊学級合同の文集の原稿を書く。 ・今までに書いた作文などを整理し、個人文集にまとめる。 |

* その他、週に1時間は図書的时间

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「もののなまえ」

(2) 単元について

上位概念語と下位概念語は、やや難しい概念であるが、児童はそれらを意識せずに使っている。ここでその概念を学習することは、言葉への関心を高めることにつながると考える。できるだけたくさんの物の名前を読み書きすることは、語彙の少ないA児・B児には、大変有効な学習であると考えられる。C児にも漢字の混ざった教材文を用意することで、音読や読解力をつけるのに役立つと考える。

また、物あてゲームも取り入れ、様子などを表す言葉にも着目させ、言葉を豊かにする工夫をし

たい。ゲーム形式にすることで児童の意欲を高めるとともに、話をよく聞く態度も育てていきたいと考える。

(3) 単元に関する児童の実態

| | A児(2年) | B児(3年) | C児(4年) |
|-----------|--|--|--|
| 文字の読み書き | ひらがな、カタカナの清音・濁音を単語として書いたり、それらの混じった短い文を読んだりすることができる。 | ひらがなの清音・濁音、カタカナの清音を単語として書いたり、それらの混じった短い文を読んだりすることができる。 | 画数の少ない漢字を使った短い文章を書くことができる。3年生程度の漢字が混じった文章を読むことができる。 |
| 文章の読解 | 短い文を読み、内容を理解できるが、少し長い文章になると読みとった内容ではなく、思いついたことを話す傾向にある。 | 言葉や文の内容を理解することができる。文章になると読み取りが難しい。 | 短い文章の内容を読み取ることができる。 |
| 学習への取組の様子 | 新しい事柄には興味をもち、言葉集めなどに意欲的に取り組む。しかし、語彙が少ないのでたくさん探すことができない。また、飽きやすい。 | 言葉集めなどにまじめに取り組むが、集中力に欠け長続きしない。生活の中でよく使う物の名前は知っているが、あやふやなものも多い。 | 国語の学習を好み、言葉集めや音読などに意欲的に取り組む。身の回りにある物の名前は知っているが、様子を表す言葉などが不足している。 |

(4) 単元のねらい

A児 ・いろいろな物の名前を集め、ひらがなやカタカナで正確に書くことができる。

B児 ・いろいろな物の名前を集め、ひらがなやカタカナ(清音)で正確に書くことができる。

C児 ・物には、ひとつひとつの名前とひとまとめにした名前があることが分かり、それらの名前を区別できる。

(5) 指導方針

- ・教材文は実態に合わせ、A児・B児にはひらがな・カタカナだけのもの、C児には漢字の混じったものを用意する。
- ・A児・B児にはひらがな・カタカナ表を、C児には漢字の表を掲示することで、分からない文字は自分で確認できるようにする。
- ・言葉集めでは、自分の考えた物を自分でカードに書き、それを黒板に掲示するなど工夫をして、意欲的に学習に取り組めるようにする。
- ・物あてゲームでは、言葉によるヒントの他に、影絵当てや、鳴き声当てなどいろいろなパターンのゲームを用意し、語彙や表現を豊かにするための工夫をする。
- ・A児・B児は自分で絵本を読むことができないが、読み聞かせを好むので、毎時間読み聞かせの時間を設定する。

(6) 単元の展開

< 全 11 時間計画 >

| | 学 習 活 動 及 び 支 援 【 】内：支援 | | | 時 間 |
|----------------------------|--|---|--|--------|
| | A 児 | B 児 | C 児 | |
| 物 の 名 前 | <p>いろいろな店の名前やそこで売られている物の名前を、ひらがなやカタカナで書く。【お店の絵カードを用意し、売られている物が分からないときのヒントにする】</p> <p>【ひらがな・カタカナ表を用意し、分からないときは自分で確認するように促す。ひらがな・カタカナの区別は、教師が教える】</p> <p>【濁点の言葉は書き方を教え、字を書くことへの抵抗を減らす】</p> | | | 2 |
| 教材 文の 読み 取り | <p>教材文を音読し、ひとまとまりの名前と個々の名前について読み取る。</p> <p>【内容を読みとりやすくするため、教師が1文ずつ教材文を範読し、簡単な質問をする】</p> <p>【1文ずつ教材文を音読するようにして、内容を読みとりやすくする】</p> | | | 4 |
| 物 の 名 前 集 め | <p>物の名前の言葉集めをする。</p> <p>【意欲的に学習できるように、虫や乗り物など児童の興味のある物から言葉集めを行う。考えるヒントになるように、ワークシートにさし絵をいれる】</p> <p>ひとまとまりの名前・個々の名前を区別し、物の名前集めをする。</p> <p>【ワークシートにさし絵や例を挙げておくことで、考えやすくする】</p> | | | 2 |
| 物あ て ゲ ー ム | <p>物あてゲームをする。</p> <p>【赤い物、丸い物といった簡単なヒントで答えられる問題を多くし、たくさん答えられるようにする。】</p> <p>物あてゲームで、問題を出したり答えたりする。</p> <p>【問題を考えやすくするため、絵や実物を見せる。】</p> | | | 3 |
| 評 価 規 準 | <p>・絵カードを見て、間違えないように気をつけながら、物の名前をひらがな、カタカナで書いている。</p> | <p>・絵カードを見て、間違えないように気をつけながら、物の名前をひらがな、カタカナ（清音）で書いている。</p> | <p>・ひとつひとつの名前とひとまとめた名前を区別しながら、言葉集めをしている。</p> | |

3 一単位時間の指導計画例について

本時は、全11時間の9時間目で、物あてゲームを行う1時間目である。

(1) 本時のねらい

- A 児 ・言葉によるヒントをもとに、物の名前を当てることができる。
 ・ものの名前を、ひらがなやカタカナで書くことができる。
- B 児 ・言葉によるヒントや影絵などを手がかりに、ものの名前を当てることができる。

- ・カタカナの濁音の読み書きができる。
- C児 ・自分でヒントを考え、物あてゲームの問題を出すことができる。
- ・3年生程度の漢字の読み書きができる。

(2) 準備 ひらがな表、カタカナ表、絵カード、絵本

(3) 展開

| 活動の流れ | 時間 | 活動のねらいと支援 | | |
|----------------|-----|--|--|---|
| | | A 児 | B 児 | C 児 |
| 読み聞かせ | 10分 | <p>なぞなぞを解きながら、絵本の読み聞かせを最後まで聞くことができる。</p> <p>・「ドラえもののなぞなぞあそび」の読み聞かせを聞きながら、なぞなぞを解く。 【ポイントとなる言葉を強調してなぞなぞを出す。なぞなぞを解くとき、絵本にある挿絵に注目するよう言葉をかける】</p> | | |
| 物あてゲーム | 25分 | <p>言葉によるヒントをもとに、物の名前を当てることができる。</p> <p>・はてなボックスの中の物を、ヒントの言葉をもとに当てる。 【問題は、児童の身近な物とする。当たったときはシールをあげ、意欲が持続するようにする】</p> <p>言葉のヒントを聞いて物の名前を言っている。</p> | <p>言葉のヒントだけで分からないときは、影絵のヒントも出す。当たったときはシールをあげ、意欲が持続するようにする】</p> <p>言葉のヒントを聞いたり影絵を見たりして、物の名前を言っている。</p> | <p>ものの様子を表す言葉を考えることができる。</p> <p>・はてなボックスの中の物のヒントを考え、A児・B児に問題を出す。 【色や形などをヒントにするとういことを話す】</p> <p>はてなボックスの中の物について、A児・B児に分かるようなヒントを出している。</p> |
| ひらがな・カタカナ・漢字練習 | 10分 | <p>ひらがなやカタカナが正しく書ける。</p> <p>・自分の当てた物の名前を書く。 【ひらがな・カタカナ表を用意し、自分で確認できるようにする】</p> <p>物の名前をひらがな・カタカナで正しく書いている。</p> | <p>カタカナの濁音の読み書きができる。</p> <p>・カタカナの濁音の練習プリントに取り組む。 【上段で練習をし、下段で確かめができるプリントを用意する】</p> <p>カタカナの濁音を正しく書いている。</p> | <p>漢字の読み書きができる。</p> <p>・漢字練習のプリントに取り組む。 【読みは、直接担任が聞いて確認し、書きは字画の少ないものにする】</p> <p>漢字を正しく読んだり書いたりしている。</p> |

算数【例1】

1 年間指導計画例について

(1) 児童の実態

本学級には、3年生2名（A児・B児）、6年生1名C児の3名が在籍している。算数への興味・関心はあり、算数の学習には意欲的に取り組んでいる。日付、時間割、人・ものの数の確認、カレンダーなどの学習を通して日常生活とのかかわりを持ち、少しずつ自分の生活の中に生かすことができるようになってきている。A児・B児は、数の概念はほぼ形成されてきているので、日常会話の中でも算数的な話題を自分から出すようになってきている。C児は加法・減法・乗法の計算の仕方をほぼ理解していて、日常的な場面で声をかければ計算する態度が見られる。また、予定が分かり行事などを楽しみに待つことができる。生活単元学習などの学習で扱う時間、重さ、長さ等の理解が年々できるようになってきている。

A児・B児は、指示やまわりの誘導で行動する傾向があり、生活の中で時計を活用するところまではいっていない。家庭においても、時間を意識して過ごしている様子はまだみられない。C児は、時刻を時計で確認することができるが、時間の認識はあまりもっていない。これまで、「生きる力」をはぐくむ一つの学習として算数の時間に時計の学習を定期的に行い、学習の成果を実際の生活に取り込むため、生活単元学習や日常生活の指導と関連付けを図ってきている。そこで、今年度は、生活時間を扱う学習を取り入れて、時計を見て生活する態度を育て、自主性を高めたいと考えている。

(2) 年間の指導目標

- ・予定表、時間割、カレンダー作成などを通して、時間を意識して生活できるようにする。
- ・それぞれの実態に応じて、加減乗除の計算をする能力を伸ばす。

(3) 年間指導計画

<週3時間配当>

| 月 | 単元名 | 時間 | 主な学習活動 |
|----|-----------------------|----|--|
| 4 | ・時計の勉強をしよう | 3 | ・一日の生活時間を知る。 |
| | ・4・5月のカレンダーを作ろう | 2 | ・曜日・日付を書く。 |
| | ・トランプをしよう | 4 | ・トランプをして数を合わせたり、並べたりする。 |
| 5 | ・形づくりをしよう | 3 | ・いろいろな大きさの形を組み合わせて作る。 |
| | ・たしざん・かけざんをしよう | 4 | ・把握できる数の範囲内でのたしざん（かけざん）をする。 |
| | ・6月のカレンダーを作ろう | 2 | ・曜日・日付を書く。 |
| 6 | ・ひきざん・わりざんをしよう | 4 | ・把握できる数の範囲内でのひきざん（わりざん）をする。 |
| | ・お金を数えよう | 2 | ・お金を種類別に分けて、数える。 |
| | ・天気調べをしよう | 4 | ・1か月の天気を調べ、晴れ・曇り・雨の日を数えて表にする。 |
| | ・7月のカレンダーを作ろう | 2 | ・曜日・日付を書く。 |
| 7 | ・計算のまとめをしよう | 3 | ・実態に合わせて四則の計算の復習をする。 |
| | ・時計の勉強をしよう | 3 | ・時間・30分単位・分単位で読む。 |
| | ・夏休みの予定表と9月のカレンダーを作ろう | 3 | ・夏休みの生活時間を予定表に書く。 ・曜日・日付を書く。 |
| 9 | ・数を数えよう | 3 | ・順唱、逆唱、2とび、5とび、10とびの数を数える。 (C児はかけざんで求める。) |
| | ・輪投げゲームをしよう | 5 | ・いろいろな数のたしざんをして、得点を求める。 |
| | ・10月のカレンダーを作ろう | 2 | ・曜日・日付を書く。 |
| 10 | ・値段どおりにお金をだそう | 3 | ・電車の運賃、品物の代金どおりにお金を出す。 |

である。そして、生活単元学習や日常生活の指導と関連性をもたせることにより、学習の定着を図り、生活の中で生かす力を身につけることが大切である。

(3) 単元に関する児童の実態

| | A児(3年) | B児(3年) | C児(6年) |
|-------------------|--|--|--|
| 興味・ 関心 | ・時計の模型を使って教師と学習する。 ・生活の中で時計を見て時刻を読むことはあまりない。 | ・時計の模型を使って進んで学習する。 ・自分から時計を見ることはあまりないが、時間の話題にのってくる。 | ・時計の学習には意欲的である。 ・時間を意識して生活している。 チャイムがならない日でも、時計を見て協力学級に行ける。 |
| 数字の 習得 | ・朝・昼・夜の区別が分かる。 ・日課表に関心を持っている。 ・60まで教師と一緒に読める。 ・60までだいたい書ける。 ・「何時」が読める。 ・長針と短針の違いがだいたい分かる。 | ・朝・昼・夜の区別が分かる。 ・日課表に関心を持ち、活用できる。 ・1から12まで読める。 ・60まで数唱できる。 ・60までだいたい書ける。 ・「何時」「何時半」が読める。 ・長針と短針の違いが分かる。 | ・日程表を理解し、活用できる。 ・「何時何分」が読める。 ・「何時何分」を時計に書き表せる。 ・午前・午後が分かる。 ・24時間制が理解できる。 ・いろいろな文字盤の時計で時刻を読める。 |
| 学習への 取組の 様子 | 取りかかりは早いですが、指示を聞かないまま始めてしまうことがある。作業は雑だが、言葉かけをするとやり直すことができる。 | 気分にムラがあるが、見通しがもてれば集中して学習できる。自己主張が強く教師の言葉かけにのらないこともある。 | 以前経験したことは、細かい指示がなくてもできる。学習に対してやる気をもってがんばられる。作業が速く、丁寧である。 |

(4) 単元のねらい

<全体> 冬休みの生活時間の計画を立てることができる。

<個別>

A児 ・冬休みの予定表を作る活動を通して、30分単位で時刻が読める。

・「午前」「午後」を使って時刻を表すことができる。

B児 ・冬休みの予定表を作る活動を通して、15分単位で時刻が読める。

・「午前」「午後」を使って時刻を表すことができる。

C児 ・1時間は60分、1日は24時間であることを使って、帯表を利用した冬休みの予定表を作ることができる。

(5) 指導方針

自分の予定表を作ることで、より意欲的に授業に取り組めるようにする。

A児・B児は時刻を読むことを意識させるために食事の開始時刻を書き込む活動を取り入れる。

教師が短針・長針の近くの数字を で囲み強調することで、時刻を読み取りやすくする。

C児には、「帯表」に書き表す活動を取り入れることで、自分がどのくらいその活動をしているか「活動時間」を帯表と数字の両方から確かめられるようにする。

家庭での実態や保護者の願いを把握するためにアンケートに協力してもらう。

(6) 単元の展開

<全3時間計画>

| 学 習 活 動 | 時間 | 支 援 及 び 留 意 点 | 評 価 規 準 |
|--------------------------------------|----|---|--|
| ・それぞれの実態にあった時計の時刻を読む。 ・練習プリントをする。 | 1 | A児...「何時」のカードから始め、「何時30分」まで提示する。 1から60までの「分針」の読みを教師と一緒にやる。 | A児...長針・短針の違いに気付き、「何時」「何時30分」の読み取りをしている。 |
| | | B児...「何時」のカードから始める。 数字を見て15分、30分、45分の分 | B児...3・6・9・12の数字を見て、15分単位の読み取り |

| | | | |
|---|---|---|--|
| | | 針を教師と一緒に読む。 C児...「何時何分」を読む。帯表の目盛りが何分刻みか気付くように言葉かけをして、帯表に時刻の線を引く練習をする。 | をしている。 C児...1時間が60分であることを意識して、時刻を表す線を引いている。 |
| ・時間を時計カードに表す。 A児...「何時」「何時30分」を表す。 B児...15分単位の時間を表す。 C児...帯表に授業時間の開始時間と終了時間を表す。 | 1 | A児...長針・短針の色を変えて表すとともに長さにも気をつけるように言葉をかける。 B児...長針・短針の位置に気をつけるように言葉をかける。 C児...目盛りを見て時刻の線を引き、時間が意識できるように色づける。 | A児...長針・短針を長さを変えて表現している。 B児...長針・短針を正しい位置に表している。 C児...目盛りを正しく読み、時刻の線を引いている。 |
| ・生活表に時間を記入する。 A児...30分単位の時間で生活表を作る。 B児...15分単位の時間で生活表を作る。 C児...行動開始と終了時間を意識して生活表を作る。 | 1 | A児...長針・短針の違いを意識して時刻を読めるように、時計の模型を使う。 B児...短針(時針)の小さな動きに気付くような言葉をかける。 C児...時間の計算をするように計算式を提示する。 | A児...長針・短針の位置を確認し何時・何時半の読み取りをしている。 B児...長針の位置を見て15分単位の読み取りをしている。 C児...「1時間は60分」が分かり時間の計算をしている。 |

3 一単位時間の指導計画例について

本時は、冬休みの生活予定表作りをする全3時間予定の第3時である。

(1) 本時のねらい

<全体> 冬休みの生活予定表に、食事の時間を表すことができる。

<個別>

A児 ・何時半の読み取りができ、針の長さの違いと位置を表現することができる。

B児 ・15分単位の読み取りができ、長針・短針の位置を表現することができる。

C児 ・「1時間は60分」が分かり、時間の計算をすることができる。

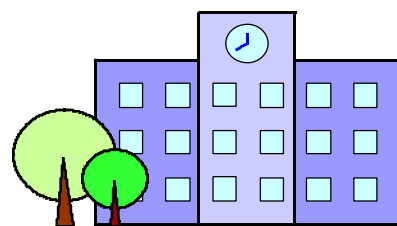
(2) 準備

時計の模型(教師用の大きい時計、児童用の小さい時計各自)、30分・15分単位の時計のカード、あさごはん・ひるごはん・ゆうごはん・午前・午後のカード、冬休みの生活表(A児・B児は円、C児は帯の時間帯も入れる)、色鉛筆、家庭での食事時間調べ(アンケート)

(3) 展開

| ねらい | 時間 | 学習活動と支援 【 】内：支援 内：評価規準 | | |
|----------------------|----|---|----|----|
| | | A児 | B児 | C児 |
| 冬休みの生活の指針となる目標を意識する。 | 5分 | <p>本人と保護者の願いを入れて立てた冬休みの目標を発表する。 【それぞれの目標がはっきり言えるように、予定表に書いたものを見て発表することを伝える】【規則正しい生活をするには、起床・就寝時間のほかに、食事時間も大切であることに気づくような言葉をかける】</p> | | |

| | | | | |
|--------------------------------------|----|--|---|--|
| <p>(A児・B児) 食事の時間を表すことができる。</p> | 30 | <p>朝食(あさごはん)の時間を発表して、30分単位の時計カードから選ぶ。</p> <p>【短い針が「何時」、長い針が「何分」を表すことを確認し、短針の前後の数字を教師が指差し、「何時」を読み取り、正しいカードが選べるようにする】</p> <p>短針の位置から、「何時」を読みとり、30分単位の時刻を読んでいる。</p> | <p>【長針・短針の役割を確認した上で長針の3の横に1、5、6の横に30、9の横に45と書いてある所を教師が指差し、正しいカードが選べるようにする。(ぶん)と(ぶん)が正しく言えなかったら、フィードバックする】</p> <p>長針の位置を見て、15分単位の時刻を読んでいる。</p> | <p>朝食は何時に食べ始め、何時に終わるかを発表する。</p> <p>【A・Bと質問が違うので質問カードを提示する】</p> <p>24時間の帯表に印をつけ色づけする。</p> <p>【目盛りが10分単位になっていることを確認する】</p> <p>【色を塗って時間を意識させる】</p> <p>【時間の計算式で求めることが分からないときは、終わる時間から始まる時間を引いて求めることを教える】</p> |
| | | <p>(C児) 午前・午後の表示をすることで、「1日=24時間」を意識する。</p> <p>朝食の時間を時計の紙に書き表す。</p> <p>【長針は赤・短針は黒と提示し、針の始点と終点を教師が記す】</p> <p>長針・短針の長さの違いを書き写している。</p> | <p>【カードを見て長針・短針の長さや位置を正しく表せるように数字を教師が印を付け強調する】</p> <p>【針をまっすぐ書き入れられるように針先から中心に線を引くように言葉をかける】</p> <p>長針・短針を正しい位置に表している。</p> | <p>【時間の計算をした結果が、帯表の色を塗った部分と同じになるか教師と確認する】</p> <p>帯表の目盛りを正しく読み、時刻の線を引いている。食事の時間を計算し、帯表と同じかどうか確認している。</p> |
| | | <p>昼食・夕食時間も同様に表す。 時計の上に「ごぜん」、「ごご」を書く。 【カードを表示して書くことを促す】</p> | | <p>昼食・夕食の時間も同様に表す。 帯表に「午前」・「午後」を書き、範囲として表す。</p> |
| <p>予定表を掲示してそれぞれの食事時間を発表することができる。</p> | 10 | <p>「何時」「何時半(30分)」の時計を正しく読む。 【長針と短針の色分けを基に特に短針の位置に気を付けて読むように短針を教師が指差し、「何時?」と聞く】</p> | <p>時計を見て正しく読む。 【短針から読むように「短い針は?」と質問して見つけさせて、数字を指差し、「何時」を先に読むように導く】</p> | <p>「午前」・「午後」をつけて食事時間を発表する。 食事にかかる時間も発表する。</p> |



算数【例2】

1 年間指導計画例について

(1) 児童の実態

本学級には3年生A児、6年生B児、6年生C児の計3名が在籍している。児童はこれまで、身の回りの具体物を数えたり、おはじきなどの半具体物を使って数えたりするなど、様々な活動の中で数える学習を行ってきており、それぞれに数の理解を深めてきている。また、曜日や日付、時計、お金などの生活にかかわる学習は、算数の時間だけでなく生活単元学習や日常生活の指導と関連づけて、学校生活の中で日常的に繰り返し取り組むことによって、少しずつであるが着実に力が身に付いてきている。

本学級の児童の中には、課題に興味をもちにくい児童や、集中が持続しない児童などがおり、特に生活に密着した形で学習活動を組んだり、ゲーム的な要素を取り入れたりして興味・関心を喚起する必要がある。そこで、今年度は、ゲーム性のある教材や実際的な活動を取り入れて、楽しみながら数学的な考え方を育て、知識・理解を深めていきたいと考えている。

(2) 年間の指導目標

- ・数に対する理解を深め、簡単な計算ができるようにする。
- ・金銭や時間などを扱う力を育て、生活の中で使えるようにする。

(3) 年間指導計画

< 週3時間配当 >

| 月 | 単元名 | 時間 | 主な学習活動 |
|----|-----------------|----|---|
| 4 | ・1学期のカレンダーを作ろう | 4 | ・日付・曜日の読み方を知る。曜日の順番を覚える。 |
| | ・勉強の始まりは何時かな？ | 3 | ・校時表をもとに、始まりの時間を時計の模型に表して読む。 |
| 5 | ・買い物しよう | 7 | ・お金の種類を知る。 3 ・300円の範囲で品物の代金を払う |
| | ・たし算、ひき算しよう | 6 | ・A児... たし算、ひき算の意味を知る。 ・B・C児... 繰り上がり・繰り下がりのある計算をする。 |
| 6 | ・1日のスケジュール表を作ろう | 7 | ・時計を見て時刻を読む。 ・旅行のスケジュール表に時刻を書き入れる。 |
| | ・すごろくしよう | 8 | ・すごろくのやり方を知る。 ・さいころ2つで、たし算やひき算を取り入れたやり方です。 |
| 7 | ・夏休みのカレンダーを作ろう | 2 | ・曜日・日付・行事を書く。 |
| | ・2学期のカレンダーを作ろう | 4 | ・曜日、日付、日付の読み方、行事を書く。 |
| 9 | ・1学期の復習しよう | 4 | ・1学期に取り組んだ学習を復習する。 |
| | ・電車に乗ろう | 6 | ・10円、50円、100円を使ってお金を数える。 ・太田駅までの切符の値段でお金を出す。 |
| 10 | ・電車の発車は何時かな？ | 6 | ・時計を見て時刻を読む。 ・校外学習のしおりを見て電車の発車時刻を知る。時計の針で表す。 |
| | ・トランプしよう | 6 | ・「神経衰弱」をして同数を見つける。 ・「7ならべ」をして、順序よく並べる。 ・カードめくりをして、数の大小を比べる。 |
| 11 | ・たし算、ひき算しよう | 6 | ・A児... 20までのたし算、ひき算をする ・B・C児... 繰り上がり・繰り下がりのある計算をする。 |

| | | | |
|----|----------------|---|---|
| 12 | ・冬休みの予定表を作ろう | 2 | 曜日・日付・日付の読み方や行事を書く。 |
| | ・重さをはかろう | 5 | ・2つのものの重さを比べて、どっちが重いかを考える。 ・はかりで重さを量る。 ・お菓子やケーキ作りを通して、材料の重さを量る。 |
| 1 | ・3学期のカレンダーを作ろう | 2 | ・曜日・日付・日付の読み方や行事を書く。 |
| | ・2学期の復習をしよう | 4 | ・2学期に取り組んだ学習の復習をする。 |
| | ・どっちが多い? | 3 | ・カルタ取りをして、取れた枚数を数え、どっちが多いかを比べる。 |
| 2 | ・買い物をしよう | 6 | ・買い物の予定を立てる。 ・値段を見て、お金を出す。 |
| | ・長さをはかろう | 4 | ・ものさしを作り、いろいろなものの長さをはかる。 |
| 3 | ・春休みの予定表を作ろう | 2 | ・曜日、日付、日付の読み方や行事を書く。 |
| | ・1年間の復習をしよう | 8 | ・1年間取り組んだ学習の復習をする。 |

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「すごろくをしよう」

(2) 単元について

本学級では、今年度、初めてたし算やひき算の学習に取り組む児童や、学習課題に興味をもちにくい児童がいることから、楽しみながら計算する力を育てていきたいと考え、ゲームを取り入れた学習を計画した。教材としては、1学期に「すごろく」、2学期に「トランプ」、3学期に「かるた」を使うことにした。

本単元「すごろくをしよう」の内容は、さいころの数字に対応して、駒を進める活動が中心である。友達や教師と一緒にするすごろくのやり方を理解した後は、二つのさいころを使って、二つのさいころで出た数詞をたしたり、差を求めたりする活動を、児童の実態に応じて暗算や半具体物などを使って行うようにする。このような活動に取り組むことによって、数の大小やたし算・ひき算の考え方などの理解を深めたり、計算する力を高めたりすることができると思う。

(3) 単元に関する児童の実態

| | A児(3年) | B児(6年) | C児(6年) |
|----------|---|--|---|
| 興味・関心 | いろいろな学習活動に興味・関心をもつ。友達のやっている様子を見て、学ぼうとする。 | 学習活動に興味・関心を示すことが少ない。ゲーム的な要素があるものに、慣れれば関心を示す。 | 学習活動に興味・関心はある。はじめの気持ちが最後まで持続しないことが多い。 |
| 数字の習得・計算 | 80程度までの数唱は一人できるが、具体物を数えるときには、数をとばして数えてしまうことが多い。20までのたし算はおはじきや指を使って数え、答えを出すことができる。 | 3ケタまでの数の数唱が一人でできる。繰り上がりのたし算や繰り下がりのひき算も3ケタまではできる。紙面上の計算はできるが、実生活の場面でそれを使うことはほとんどない。 | 30までの数の数唱は不正確である。10までの数でたし算・ひき算の学習に取り組み始めた。おはじきを使ったり、を書いて数を数えたりして答えを出すことができる。 |
| 学習への取組 | 取りかかりはよい。分からないときには質問できる。最後まで取り | 指示を待つことが多く、自分から学習に取り組むことは少ない。 | やる気はあり、段階ごとに確認していけば最後まで取り組める。 |

| | | | |
|-----|------|--|--|
| の様子 | 組める。 | | |
|-----|------|--|--|

(4) 単元のねらい

- <全体> ・さいころで出た数詞に対応した数だけ、駒を進めることができる。
 ・二つのさいころを振って、出た二つの数をたしたり、大きい数から小さい数を引いたりして駒を進め、たし算やひき算の理解を深めることができる。
- <個別>
- A児 ・さいころで出た数詞と進める駒の数を、正確に1対1対応できる。
 ・二つの数の大小を比較し、簡単なたし算やひき算ができる。
- B児 ・二つのさいころで出た数詞のたし算やひき算の答えを、暗算で出すことができる。
- C児 ・すごろくのやり方を理解し、さいころで出た数詞と進める駒の数を、正確に1対1対応できる。
 ・二つの数の大小を比較して、簡単なたし算やひき算の式に表し、おはじきや丸の数を数えることによって、答えを求めることができる。

(5) 指導方針

- 友達や教師と仲良く楽しく取り組めるように、雰囲気作りに努める。
- すごろくの駒を大きくし、またつながりが分かりやすいものを使って、場合によっては全員で数唱しながら正確に駒を進めるようにする。
- すごろくのやり方は3種類(さいころ一つの方法・さいころ二つで合併の方法・さいころ二つで求差の方法)用意し、それぞれ順番に行って、たし算・ひき算の計算が混合しないようにする。
- 数の大小の比較をするときに、さいころの数詞ごとにおはじきや積み木で表し、視覚的にとらえやすいようにする。
- A児には、さいころの目を正しく読めるように指で指して数えるように支援する。
- B児には、すごろくの楽しさを味わわせながら自分の計算力が役にたつことを感じとれるようにする。
- C児には、すごろくを通してたし算やひき算の考え方を身に付けられるように、おはじきを使う操作活動を取り入れる。

(6) 単元の展開

<全8時間計画>

| 学習活動 | 時間 | 支援及び留意点 | 評価規準 |
|-------------------|-----|---|--|
| ・すごろくのやり方を理解する | 0.5 | ・実際にさいころを振ったり駒を進めたりして、目で見て理解できるようにする。 ・さいころを振る練習の場を設定する。 ・駒を抜かさずに1つ1つ進められるかを確認する。 | ・すごろくのやり方やルールを正しく理解しゲームを進めている。 |
| ・すごろくをするさいころ一つの方法 | 2.5 | A児 ... 駒を進めるときに、ゆっくり数え、とばさないように注意を促す。どうしてもとばしてしまう場合は、他の児童と一緒に数えるようにする。 B児 ... 友達が駒を進めている所に注意を向けたり、自分の順番を意識できるような言葉をかけたりする。 C児 ... さいころの数を数えるときや、数詞と駒を1対1対応するときは、はっきりとした発音で一緒に言うようにする。 | ・さいころの数詞と1対1対応して、駒を正しく進めている。 ・ルールに従い、友達と共にゲームをしている。 ・進める駒の数とさいころの数詞を1対1対応して、進めている。 |

| | | | |
|-------------------|-----|---|--|
| さいころ二つで、合併の方法 | 2 | A児 ... 二つの数の大小を確認してから、大きい数に小さい数をたす計算の仕方を、教師と一緒にする。 | ・二つの数の大小が分かり、たし算の答えを出している。 |
| | | B児 ... 二つのさいころで出た数詞をたした数だけ進めることを確認し、答えは暗算で出すように言葉をかける。 | ・たし算の答えを暗算で出している。 |
| | | C児 ... 二つのさいころで出た数詞をたした数だけ進めることを確認し、たし算表に表すように言葉をかける。おはじきを使ったり丸を書いたりすることを促し、自分で答えが求められるようにする。 | ・2つの数詞を合併して、たし算の式に表し、おはじきなどを使って答えを出している。 |
| さいころ二つで、求差を求める方法 | 2.5 | A児 ... 二つの数の大小を確認してから、大きい数から小さい数を引くとよいことを、半具体物を使って示す。 | ・二つの数の大小が分かり、ひき算の答えを出している。 |
| | | B児 ... 大きい数から小さい数を引いた答えの分だけ進めることを確認し、答えは暗算で出すように言葉をかける。 | ・ひき算の答えを暗算で出している。 |
| | | C児 ... 大きい数から小さい数を引けばよいことを、ひき算表のカードを使うことによって理解できるようにする。おはじきを使ったり丸を書いたりすることを促し、自分で答えを求められるようにする。 | ・ひき算の式に表し、おはじきなどを使って答えを出している。 |
| ・結果を発表し、単元のまとめをする | 0.5 | A児 ... 数の大小を理解し、たし算やひき算の答えを出せたかを思い出して発表するように支援する。 | ・たし算やひき算の答えを正しく出せたかを発表している。 |
| | | B児 ... どんなやり方ですごろくをしたかを思い出せるような質問をする。友達の様子についても質問する。 | ・すごろくのやり方や友達の様子を発表している。 |
| | | C児 ... たし算やひき算を使いながらすごろくをしたことを発表できるように、表などを手がかりにする。 | ・たし算やひき算をしながらすごろくをしたことを発表している。 |

3 一単位時間の指導計画例について

「たしざんの計算」をしてすごろくの駒を進める方法を取り入れる全8時間予定の4時間目

(1) 本時のねらい

<全体> 2つの数詞を合併し、たし算で答えを求めることができる。

<個別>

A児 ・さいころの数詞の大小比較をおはじきや積み木を使って理解し、たすことができる。

・駒を進めるときに、駒をとばさずに正確に進めることができる。

B児 ・すごろくのやり方を確認し、友達と順番で取り組むことができる。

・2つの数詞の合併をたし算の式に表し、暗算で答えを求めることができる。

C児 ・2つの数詞の合併をたし算の式に表すことができる。

・たし算の答えを、おはじきを使って求めることができる。

(2) 準備

すごろく、さいころ2個、駒の進みを表す目印(各自に一つずつ)、おはじき、たし算表(たしざんの式を当てはめる)

(3) 展開

| ねらい | 時間 | 学習活動と支援 | | |
|--------------------------|----|---|---|---|
| | | C児 | A児 | B児 |
| ・さいころを2つ使うすごろくの方法を理解する。 | 5分 | <p>【 】内：支援</p> <p>内：評価規準</p> | | |
| ・2つのさいころの数詞を合併し、すごろくをする。 | 30 | <p>・さいころを2つ使うすごろくの方法の説明を聞く。 【実際にさいころを2つ振り、2つの数を合わせた数だけ駒を進めることを繰り返し提示して方法を伝える。】</p> | <p>・じゃんけんでさいころを振る順番を決める。 ・順番にさいころを振り、すごろくをする。</p> | <p>・順番にさいころを振る 【さいころを手渡すことで、順番に気づくようにする】 ・さいころの2つの目を合わせた答を暗算で求める 【さいころの目を指さすことで、合わせる数を意識できるようにする】</p> |
| | |  <p>・たし算表にさいころの目の数を当てはめる 【たし算表のどこに入れるかが分からないときは、指さして気づくようにする】 ・おはじきを式の通りに出す 【進む目が二ケタで数えられない時は、A・Bに協力を求める】</p> <p>おはじきを使ってさいころの目の数を表し、たし算の答を求めている</p> |  <p>たし算表にさいころの目の数を当てはめる ・大きい数に小さい数をたしていく方法で答えを求める 【答えが出せない時は、おはじきを使用を促す】 【一緒に数えながら駒を動かす】</p> <p>数の大小を比較した上で、たし算で答を求めている</p> |  <p>・順番にさいころを振る 【さいころを手渡すことで、順番に気づくようにする】 ・さいころの2つの目を合わせた答を暗算で求める 【さいころの目を指さすことで、合わせる数を意識できるようにする】</p> <p>自分の順番が来たことに気づき、さいころの目を見て暗算でその和を求めている</p> |
| ・すごろくの結果を発表し、本時のまとめをする | 10 | <p>・すごろくの結果を知る。 ・感想を考え発表する。</p> <p>【おはじきを使ってたし算の答えを出せたかを質問する】</p> | <p>【たし算の答えを、自分で正しく出せたかを質問する】</p> | <p>【順番がきたらすぐに始められたか、ゲームで暗算が使えたかを質問する】</p> |



生活単元学習 【例 1】

1 年間指導計画例について

(1) 児童の実態

本学級には、3年生1名（A児）、5年生1名（B児）、6年生1名（C児）の計3名の児童が在籍している。各児童の特殊学級入級の時期と在籍期間は、A児は1年目、B児は2年生から4年目、C児は1年生から6年目と、それぞれ特殊学級での生活経験に大きな開きがある。3人の障害の程度や能力差、特性はさまざまであるが、3人とも仲が良く、お互いに励まし合いながらいろいろな活動に取り組んでいる。

全体的に基本的な生活習慣はほぼ身に付いているが、身なりや身の整理・持ち物の管理などはまだ難しいところがある。自分に合った活動に対しては積極的に取り組むが、見通しがもてないとすぐにあきらめてしまうような面もある。毎日行っている「お話体操」により、発音も次第にはつきりし、教師との意思疎通もかなりできるようになってきた。学級の中では会話を楽しんでいるが、人前に出ただけで緊張して何も言えなくなったり、必要な場面で必要なことが言えなかったりするようなことがある。そのため外に出ると自信がもてず消極的になってしまうことがある。

(2) 年間の指導目標

- ・見通しをもって意欲的に友達と楽しく学習をする。
- ・自分を表現し、みんなと話し合い、協力することができる。
- ・集団生活に必要なルール、公共施設や交通機関の利用の仕方やマナーを身に付ける。

(3) 年間指導計画

< 週 5 時間配当 >

| 月 | 単元名 | 曜日 | 主な学習活動 |
|---|------------|----|--|
| 4 | 楽しい学級 | 15 | <ul style="list-style-type: none"> ・1年生となかよし集会を行い、自己紹介や学級紹介、学校紹介をする。 ・めあてを考え、係を決めて教室に掲示する。 ・校区の地図を作り、通学路を中心に注意することや交通ルールを確認する。 ・週予定表を作り、学校生活の流れを知る。 ・学校探検をしながら、教室の位置や教師を中心に学校地図を作る。 |
| 5 | わたしのからだ | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・模造紙に等身大の自分を描いた「わたしのからだ」を作る。 ・各部の名前を覚え、身体検査の結果の変化を表すグラフを作成する。 |
| | いちごがりに行こう | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・いちご狩りに行ったことを思い出し、やり方や約束を確認する。 ・簡単な自己紹介をし、他の学校の友達といちご狩りをする。 ・ジュースやジャムを作って食べる。 ・お礼の手紙を書く。 |
| 6 | 野菜を植えよう | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の種や苗を買って、学級園に植え、野菜の成長を見守る。 |
| | 合同宿泊学習に行こう | 37 | <ul style="list-style-type: none"> ・電車の乗り方や時刻、電車賃等を調べ施設見学をする。 ・日程にそって事前学習をする。 ・自分の役割を確認し、見通しをもって宿泊学習に参加する。 ・経験したことや楽しかったことを作文や絵に表現する。 |
| 7 | 野菜を食べよう | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜について調べ、野菜を収穫し、調理して食べる。 |
| | もうすぐ夏休み | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの過ごし方や計画を立てる。 ・計画を実行するための約束を決める。 |
| 9 | 大運動会をがんばろう | 15 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の期日、日程、参加種目、練習計画を知る。 ・応援道具を作る。 ・運動会を楽しむ。 ・頑張ったこと楽しかったことを絵や作文に表現する。 |

| | | | |
|----|-------------------|----|---|
| 10 | 私たちの住む市 | 17 | <ul style="list-style-type: none"> ・電車に乗って、市の中心部へ行く。 ・市の中心部の様子を見学する。 ・市の地図を見て、自分たちの位置を確認する。 ・絵地図作りをする。(鉄道・道路・川・行ったことのある所・主な建物) ・いろいろな施設を活用する。(図書館、児童センター、こどもの国など) |
| 11 | さつまいも パーティをしよう | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・さつまいも掘りをする。 ・「さつまいもパーティ」を開き、収穫したさつまいもを調理して(芋茶巾・クリームあえなど)味わう。 |
| | 交流登山に行こう | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・登山の日程、コース、持ち物を知る。 ・登山に参加する。・経験したことや楽しかったことを絵や作文に表現する。 ・落ち葉や木の実等を調べ、それを使って作品を作る。 |
| 12 | 作品展 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・展示する作品を作る。 ・販売する作品を考えて作る。 |
| | もうすぐお正月 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダー作りをする。 ・2学期のまとめと反省をする。 ・冬休みの計画を立てる。 ・お楽しみ会をする。 |
| 1 | お正月 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの思い出を作文にする。 ・書き初めをする。 ・お正月の遊びをする。(すごろく・福笑い・たこ揚げなど) |
| | 作品展 | 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・展示作品を仕上げ、掲示する。 ・販売学習の準備をする。 ・ステージ発表、買い物学習の練習をする。 ・ステージ発表、買い物学習・販売学習をする ・楽しかったことを作文やアルバムにまとめる。 |
| 2 | お別れ遠足に 行こう | 22 | <ul style="list-style-type: none"> ・「お別れ遠足」を意識して、行き先を話し合う。 ・目的地までの行き方・交通機関の利用の仕方・交通マナーなど知る。 ・楽しい思い出を作る。・楽しかったことを作文やアルバムにまとめる。 |
| 3 | もうすぐ進級 | 18 | <ul style="list-style-type: none"> ・1年の思い出を作品綴りやアルバムにまとめる。 ・教室の整理整頓をする。 ・卒業進級を祝う会の計画や準備をする。 ・祝う会をする。 |

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「合同宿泊学習に行こう」

(2) 単元について

毎年同じ時期に、同じような内容で行われる合同宿泊学習は、児童にとって回を重ねるごとに見通しがもて、一人ひとりの実態に応じて課題をもって取り組める学習である。宿泊学習では、友達や教師と宿泊を楽しむ中で、日常生活の身辺処理の仕方や、集団生活に必要なルールを学ぶことができ、いろいろな活動に取り組むことを通して生活経験を豊かにし、物事に意欲的に取り組む姿勢を養うことができる。また、公共交通機関の利用の仕方や公共施設を使用するときの約束事やマナーを学ぶことができるなど、いろいろな要素の指導内容を含んでいる。学級の友達や教師だけでなく、市内の特殊学級の児童や教師と一緒に活動できることは、普段、学級の小集団にいる児童にとっては、大きな集団としてのダイナミックな活動ができる機会でもある。

以上のことから、生活単元学習「合同宿泊学習に行こう」は、将来の社会自立に向けて、一人ひとりの児童や学級の実態に応じてどのような学習を組んでいくのか、いろいろなやり方が考えられる学習である。指導例であげた「式の司会進行」という係活動については、日ごろ小集団の中での活動が多く、みんなの前で話す経験の少ない児童にとって、「式の司会進行」という人前で話すまたとないチャンスなので、それを生かして話すことに自信を付け、コミュニケーションを楽しむことができるようにしたいと考えた。

(3) 単元に関する児童の実態

| | A 児(3年) | B 児(5年) | C 児(6年) |
|------------------|---|--|--|
| 見 通 し | 初めてのことに對してとても不安を感じ、友達の様子を見て始めることができる。事前に学習をすることで、自分なりに考えて行動をすることができる。 | 自分がどうすればよいのか常に不安を感じている。そのため、「次はどうする」という質問を常にしている。プリントされた予定を読み上げて安心をしている。 | 予定表を見て自分なりに見通しもって臨むことができる。集中が続かず最後までやり遂げることができないこともある。 |
| 表 現 | 学級の中では人一倍おしゃべりで会話もスムーズにできるが、教室を一步出るとおとなしい。恥ずかしがったり失敗を恐れたりして、人前で話すのを嫌がる面もある。 | 簡単な会話ができるようになり、それを楽しめるようになってきた。簡単な言葉は言えるが、長くなると発音をまねることも難しい。ひらがなの1音ずつは読めるが、単語や文として続けて読むことは難しい。 | 不明瞭であった発音が聞きやすくなってきたが、人前に立つとあがってしまい、口ごもりうまく伝わらないことがある。人なつこく周りの人に自分からどんどん話しかけていくことができる。 |
| 集 団 生 活 | 何をどうすればよいのかが分かれば、約束を守って集団行動ができる。 | みんなと同じことができないこともあるが、自分勝手な行動をせず一緒にいて楽しむことはできる。 | 自分が中心になって活動しているときは頑張れるが、自分の興味に流されてしまい、集団行動に遅れることがある。 |

(4) 単元のねらい

全体 ・きまりを守って集団生活に参加し、みんなと協力して楽しく活動する。

・ 日程表を参考にしながら、見通しをもって活動する。

・ 恥ずかしがらないで皆の前で大きな声で話したり、自分から友達に話しかけたりする。

個別

A 児 ・ 集団生活のきまりを守り、家庭を離れて、友達や先生と楽しく泊まる。

・ 日程表を見て次に何をするか分かり、自分で準備や行動ができる。

・ 集会の司会進行では、恥ずかしがらずに大きな声ではっきり言う。

B 児 ・ 自分の活動分担が分かり、みんなと協力して楽しく活動する。

・ 日程表を見て次に何をするか分かり、自分の班や係の活動ができる。

・ 集会の司会進行では、言葉の音をつなげて意味が分かるように言う。

C 児 ・ 集団の一員としてきまりを守り、室長として自分の役割をしっかりと果たす。

・ 自分のすることが分かり、必要なものを準備することができる。

・ 集会の司会進行と代表あいさつを大きな声ではっきり言う。

(5) 指導方針

・ 児童の実態を家庭と一緒に見直しながら今年度の課題を明らかにして、宿泊学習に臨む。

・ 一人ひとりの児童が必要に迫られて自ら問題解決をしていく場面を設定する。

・ 集団の中での活躍場面を設け、積極的な集団参加ができるようにする。

・ 日程表を活用して、見通しをもって活動ができるようする。

・ A 児は初めて宿泊学習に参加するので、経験できることはできるだけ事前に行い、安心して参加できるようにするとともに、繰り返すことで技能を高めていく。

・ B 児は不安が大きいので、昨年までの宿泊学習の経験と結びつけ、日程表で活動を常に確認することで、安心してそれぞれの活動を楽しめるようにする。

・ C 児は6回目の小学校最後の宿泊学習なので、学級のリーダーとしての自覚と自分の行動に責

任をもち、役割をしっかりと果たせるよう、場面に応じた言葉をかけるようにする。

(6) 単元の展開

< 全 3 7 時間計画 >

| 学 習 活 動 | 時 間 | 支 援 及 び 留 意 点 | 評 価 規 準 |
|---|----------|--|---|
| 1. 学習の計画を立てる。 ・ 昨年の宿泊学習について話す。 ・ 今年の宿泊学習について話す。 ・ 学習の計画を立てる。 | 1 | ・ 昨年度の宿泊学習のことを想起できるように、ビデオやアルバムを見たり、初めて参加する友達に様子を話したりする。特にA児には絵を見ながら楽しい活動であることを知らせる。 | ・ 行き先や日程が言える。 ・ 活動内容がだいたい言える。 |
| 2. 宿泊学習の内容を知る。 ・ 宿泊施設の場所を調べる。 ・ 宿泊施設までの行き方を調べる。 ・ 日程表作りをする。 ・ しおりを見て自分の部屋・係 ・ 登山コースなどを調べる。 | 6 | ・ 地図を使って方向や歩いていく道、電車に乗る駅や降りる駅を確認する。 ・ 電車に乗るときや歩くときの注意を再確認する。 ・ 分かりやすいようにしおりの絵を使って日程表を作る。 ・ しおりの見方を確認して、日程表に記入して、自分の動きが分かるようにする。 | ・ 施設への行き方、電車の乗り方やマナーを学習カードにまとめられる。 ・ 生活のあらましが言え、日程表を作ることができる。 |
| 3. 宿泊学習の練習をする。 ・ 公共の乗り物を利用して施設の見学に行く。 ・ ふとんの敷き方を練習する。 ・ カレー作りをする。 ・ 自己紹介の練習をする。 ・ 係の仕事の練習をする。 （退所式の司会進行） ・ レクリエーションの練習をする。 | 10 | ・ リーダーとしての自覚がもてるように、C児を先頭とする。学習カードを参考にしながら自分たちで行けるようにする。 ・ しおりを参考にしながら、宿泊施設での布団の敷き方を学習する。 ・ 児童の希望や実態に合わせて、仕事分担をする。 ・ 退所式のイメージがつかめるように、実際の式の流れに沿って行う。 ・ ダンスや歌の練習をし、自分から進んで参加したい気持ちを高める。 | ・ 計画通りに宿泊施設の見学に行き来られる。 ・ 布団を敷いたり畳んだりできる。 ・ 協力してカレーが作れる。 ・ 恥ずかしがらずに大きな声で言える。 ・ ダンスができ、歌える。 |
| 4. 宿泊の準備をする。 ・ 持ち物や服装の準備をする。 ・ きまりを守ることを約束する。 | 2 | ・ 荷物カードを見ながら、自分の荷物を確認する。 ・ 日程表を見ながら、場面を追って約束を確認する。 | ・ 宿泊学習の持ち物のチェックができる。 |
| 5. 宿泊学習に参加する。 | 12 2日 | ・ 自分で日程表を見て、活動、準備、約束等を確認しながら行動する。 | ・ 協力して宿泊学習に参加できる。 |
| 6. 学習のまとめをする。 ・ 宿泊学習をふりかえる。 ・ 楽しかったことを絵や作文にかく。 | 6 | ・ 良かったこと、できなかったことを明らかにして、これからの指導に役立てる。 ・ いろいろなことを思い出し、表現できるように日程表に沿って出来事を確認していく。 | ・ 楽しかったことや印象深かったことが、絵や作文にかけられる。 |

3 一単位時間の指導計画例について

係の仕事の練習をする授業（全37時間中の16時間目）

(1) 本時のねらい

全体 ・ 自分の分担が分かって練習し、「退所式の司会進行」の流れが分かる。

・相手に分かってもらえるように、話をする。

個別

A児・恥ずかしがらないで前に出て口をしっかりと開けて、言葉を言う。

B児・言葉の意味を考えて、言葉をつなげて言う。

C児・声の大きさや速さを考えて、みんなに聞きやすく話をする。

・原稿を見ないであいさつの言葉を言う。

(2) 準備 しおり、日程表、カード、カセットテープレコーダー、カセットテープ、鏡

(3) 展開

| ねらい | 時間 | 学習活動と支援 | | | |
|--------------------------------------|-----|--|--|--|--|
| | | 全体 | A児 | B児 | C児 |
| ・自分たちのする係の仕事が分かる。 | 15分 | <p>・自分の係の仕事を知り、しおりで退所式の進行の言葉を見つたり、話を聞いたりして、自分の話す言葉を明らかにする。自分の話す言葉をカードに書く。 【本時のめあてを確認するとともに学習に対する意欲が持てるようにする】</p> | <p>【昨年の宿泊学習での式の写真を掲示し、その場面を思い出し意欲付けができるようにする】</p> <p>・しおりで退所式の進行の言葉を見つたり、式の流れに沿って話す言葉を番号順にカードに書く。 【言葉のまとまりを指で囲い、言葉のまとまりを意識できるようにする】</p> | <p>・始めの言葉と終わりの言葉を一緒に読んで言葉のまとまりを覚え、カードに書く。 【黒板に掲示してある文を見て書くように伝える】</p> | <p>・しおりで退所式の進行の言葉を見つたり、式の流れに沿って話す言葉を番号順にカードに書く。 【自分で読みやすいように丁寧に書くように促す】</p> |
| ・分かりやすく話す。 ・自分の出番が分かって、言葉を言う。 | 20分 | <p>・分担した言葉の練習をする。 【児童の言葉にそっていろいろ役になり、式が進行している様子が分かるようにする】 【じゅうぶん練習の時間をとる】</p> <p>・退所式の流れに沿って練習をする。 【順番が分かるように式の流れを掲示する】 【まともに備えて、練習の様子をテープに録音しておく】</p> | <p>・「1 かいしきのことば。くん、おねがいします」「2 だんたいだいひょうのあいさつ」などの言葉を順番に、鏡に移る姿を見ながら、姿勢に気を付けて大きな口を開けて読む。 【鏡を見ながら話し方に注意ができていたらほめ、自信を持てるようにする】 【順番が分からなくなったときは、番号に注意するように促す】</p> <p>自分の出番に前に出て、しっかり立って前を見て言おうとしている。</p> | <p>・「これから、たいしょしきをはじめます」「これで、たいしょしきをおわります」と、1音ずつ切らずにことばをつなげて言う。 【大きく息を吸ってから話すことで一息で話すことが意識できるようにする】 【見守り、言葉が分からないようであれば、「これで」「これから」という言葉をかけ、次の言葉がつながるように促す】</p> <p>自分の出番が分かって前に出て、言葉のまとまりとして言おうとしている。</p> | <p>・「5 しぜんのいえのうた。さんおねがいします」などの言葉を、口の開き方に注意してはっきり分かりやすく話す。 【お話体操のときの口で話すように促す。言いにくい言葉については、教師の口形をしっかりと見るように促す】 【言葉が最後までしっかり言えるように、カードの文字を指でなぞりながら読むように促す】</p> <p>自分の出番に前出たときに、分かりやすく言おうとしている。</p> |
| ・自分の気を付けることが分かる。 | 10分 | <p>・テープを聞いて、友達の話方や自分の話し方の良かったこと、気を付けることを話し合う。 【各児童の学習の成果を賞賛して、次時の意欲につなげる】</p> | <p>【チェック表を使って友達や自分の話し方が評価できるようにする。賞賛したり、必要に応じて助言したりする】</p> <p>もっと上手に言おうという意欲をもっている。</p> | <p>【次の練習や本番でも頑張るよう励ます】</p> <p>頑張ってみようという意欲をもっている。</p> | <p>【チェック表を見たり話し合いを聞いたりして聞き取りやすかったか評価できるようにする。賞賛したり、必要に応じて助言したりする】</p> <p>もっと上手に言おうという意欲をもっている。</p> |

生活単元学習 【例 2】

1 年間指導計画例について

(1) 児童の実態

本学級には、2年生1名(A児)、3年生1名(B児)、5年生1名(C児)、6年生1名(D児)の計4名の児童が在籍している。男子4人の明るくにぎやかで活動的な学級であるが、それぞれ自分の思いのまま活動するために小さなトラブルも多い。しかし、学級の外に一步出ると、学級内で見られるような自己主張もなく、必要なことさえ言えず4人とも固くなってしまいう姿が見られる。それらは、生活経験の不足から自分で主体的に何かをしようという気持ちに欠け、人任せだったり、したいと思ってもやり方が分からなかったり、どうせできないからと言う気持ちからきているように思える。実際に外へ出て、仲間と協力して目的のためにどうしたらよいか考え話し合いやってみるような、いろいろな体験活動をしていく必要を感じる。

(2) 年間の指導目標

- ・仲間と力を合わせたり、楽しんだりして仲間とかかわりをもって活動する。
- ・目的をもって活動し、課題を解決しようとする意欲をもつ。
- ・学習したことを、普段の生活の中で活用できるようにする。

(3) 年間指導計画

< 週 4 時間配当 >

| 月 | 単元名 | 曜 | 主な学習活動 |
|----|----------|----|---|
| 4 | 楽しい学級 | 15 | <ul style="list-style-type: none"> ・新しい友達や先生を知る。 ・校内探検をする。 ・みんなで校庭で遊ぶ。 ・「はじめましての会」をする。 ・校内地図を作る。 ・時間表を調べる。 |
| 5 | 探検ぼくの町 | 27 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校のまわりを調べる。 ・地図を作る。 ・公園やお店を調べる。 ・通学路と友達の家を地図に記入する。 ・行きたいところへ行く。 |
| 6 | 合宿に行こう | 19 | <ul style="list-style-type: none"> ・日程、場所、持ち物、係、部屋を調べる。 ・地図で場所や行き方を調べ、往復の日程を立てる。 ・カレーの作り方を知り、カレーの会を開く。 ・日程に沿って楽しく合宿に参加する。 ・思い出を絵や文にまとめ、発表する。 |
| 7 | 七夕祭りをしよう | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・七夕祭りをする。 |
| | 水遊びをしよう | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・水に浮くおもちゃをつくって遊ぶ。 ・水に慣れる。 |
| 9 | がんばれ運動会 | 15 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の期日、日程、参加種目、練習計画を知る。 ・応援道具を作る。 ・招待状を出す。 ・応援練習をする。 ・頑張ったこと楽しかったことを絵や作文に表現する。 |
| 10 | 私たちの住む市 | 17 | <ul style="list-style-type: none"> ・電車に乗って、市の中心部へ行く。 ・市の中心部の様子を見学する。 ・市の地図を見て、自分たちの位置を確認する。 ・絵地図を作りをする。(鉄道・道路・川・行ったことのある所・主な建物) |
| 11 | 落ち葉や木の実で | 19 | <ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉の感触や秋の山を楽しむ。 ・公園の落ち葉や木の実を集める。 |

| | | | |
|----|---------------|----|---|
| | 遊ぼう | | ・落ち葉や木の実で遊ぶ。 ・落ち葉や木の実を使って作品を作る。 |
| 12 | カレンダーを 作ろう | 6 | ・絵を描いたり、暦を書く。 ・夏休みや冬休み、誕生日などを書き入れ、自分のカレンダー作りをする。 |
| | お楽しみ会を しよう | 8 | ・2学期のまとめと反省をする。 ・冬休みの計画を立てる。 ・お楽しみ会をする。 |
| 1 | 音楽会で発表し よう | 20 | ・音楽会で発表する歌や演奏曲を考える。 ・発表する歌や演奏曲の練習をする。 ・発表する歌や演奏曲に合わせた小道具について考えて作る。 ・音楽会発表当日のステージで発表の練習をする。 ・思い出に残ったことを作文やアルバムにまとめる。 |
| | 遠足に行こう | | 18 |
| 3 | ぼくの1年 | 12 | ・お世話になった友達や先生に感謝の手紙を書いたり、プレゼントを作ったりする。 ・アルバムの整理をする。 ・卒業進級を祝う会の計画をしたり準備をしたりする。 ・祝う会をする。 |

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「探検ぼくの町」

(2) 単元について

児童は、学級や学年での校外学習を通して、学校周辺の公園や商店を利用する経験を重ねてきている。学級では、昨年学区内の公園調べ、公園巡りをした。また、スーパーマーケットや文房具店、雑貨店への買い物学習や郵便局の利用は、いろいろな学習活動の中で繰り返し行ってきた。各学年での生活科や総合的な学習の時間の取り組みでは、ケーキ屋、自動車教習所、清掃工場や駅の見学等の体験をしてきた。このような活動に、子どもたちは期待をもち意欲的に取り組み、身近にある公園や商店の存在を知り、利用する経験を深めてきている。

しかし、これらの公園や商店を知っていても、自分の生活の場とのつながりでとらえることはできていない。そのため児童が帰宅後行動する範囲は、家の周りの限られた特定の場所であったり、行ったことのある場所でも、連れられていくことが多いため行き方を知らなかったり、少し家から離れたところは学校の近くであっても未知の世界であるのが実態である。また、4名中1名については、安全に対する意識が低く、自力通学を目指す上で多くの課題をもっている。こうした実態にある児童にとって、今までの学習を生かし、学校周辺の地図を作ることを通して、自分の家や自分の知っている場所を視覚的に確認することで、自分を取り巻く環境を理解することにつながると考えた。そして、行きたい場所へどうやって行けるかを考え、行き方が分かり、安全に行くことができるようにすることは、社会的自立を目指す上で大きな力となる。また、したいことをするために、自分たちで調べたり、まとめたりしながら小さなステップで学習を積み重ねることにより、自信を付け少しずつ自分からやってみようという気持ちを育てることができると考えた。このような体験

学習を重ねる中で、自分の町について知り、目的の場所が目的に応じて利用できるようになることは、生活能力を高め、楽しい豊かな生活のできる児童を育成できると考える。

(3) 単元に関する児童の実態

| | A児(2年) | B児(3年) | C児(5年) | D児(6年) |
|----------|---|--|--|---|
| 移動能力 | 簡単な交通ルールは理解でき、登下校は一人でできる。知っているところであれば、一人で行ける。 | 交通ルールを意識して安全に歩行することは難しい。登下校とも保護者の付き添いが必要である。 | 道路の歩き方や信号の見方などが分かり、ひとりでも登下校ができる。犬の散歩に出かけるが、迷子になることがある。 | 道路の歩き方や信号の見方などが分かり、ひとりでも登下校ができる。 |
| 公園・商店の利用 | 日常的に近所の公園や商店を利用している。 | いろいろな所に出かけているが、家の人に連れられて利用している。 | 家族の人と一緒に近所の公園や商店を利用している。 | 常に家の人と一緒に行く。一人で商店や公園に行くことはない。 |
| 買い物 | 少額であれば、代金に合わせてお金を用意できる。 | 十円玉、百円玉は分かるが、金額に合わせてお金を出すことはできない。 | 自分の使うお金の種類が分かり、大きなお金を出してもものを買うことはできる。 | 種類が分かり、金額に合わせてお金を出すことができるが、普段の生活の中で、お金を使うことはない。 |

(4) 単元のねらい

<全体> ・学校周辺の地図を作り、自分の家の場所や学校の周りの様子が分かる。

- ・目的地までの行き方が分かり、安全に気を付けて行くことができる。
- ・自分の住む環境を知り、行きたいところに行ってみようと言う気持ちをもつ。

<個別>

A児 ・自分の家の周りだけでなく、友達の家を中心に校区全体の様子が分かる。

- ・安全面に気を付けて、一人で近くの公園に遊びに行ったり商店にお使いに行ったりできる。

B児 ・家から学校までの通学路が分かる。

- ・自分の家の町名が分かる。

C児 ・学校や自分の家の周りの様子が分かり、自分の家のおよその位置が分かる。

- ・安全面に気を付けて、近くの公園や商店に一人で行ける。

D児 ・自分の家や学校の周りだけでなく、地図を通して校区全体の様子が分かる。

- ・安全面に気を付けて、近くの公園に遊びに行ったりや商店にお使いに一人で行ったりできる。

(5) 指導方針

- ・学校の周りを歩いた自分の経験と結びつけながら、地図作りをすることを通して、自分の周りの環境をとらえることができるようにする。
- ・実際に歩いて確かめたことを地図に表すことによって、地図の見方が分かるようにする。
- ・自分の意見を言ったり相手の意見を聞いたりしながら、相手の良さに気付き、受け入れられるようにする。

- ・いろいろな道を歩く中で、交通安全のためにどんなことに気を付けるか考えられるようにする。
- ・学習したことが普段の生活で生かされるよう、身近なものを教材として取り上げる。

(6) 単元の展開

< 全27時間計画 >

| 学 習 活 動 | 時間 | 支 援 及 び 留 意 点 | 評 価 規 準 |
|--|----|---|---|
| 1. 学校の周りを調べよう。 ・学校の周りを歩いて調べる。 ・学校の住所を調べる。 | 2 | ・交通ルールを確かめながら学校の周りを歩き、川や信号、店などに気付いたことを発見カードに書く。 | ・どんなものがあつたか分かり、発表することができる。 |
| 2. 地図を作ろう ・行ったことのある場所を地図に書き入れる。 ・自分の家の住所を調べ地図に貼る。 ・自分の家の場所や近所の様子を発表する。 | 5 | ・今まで校外学習で行ったことのある建物の位置を縮小地図に記入し、建物の小さな写真を用意して、みんなで作る拡大地図に貼って確認をする。 ・自分の家の住所や友達の家を頼りに大まかな地名を調べる。 | ・道路や川などを頼りに地図の位置が分かる。 ・今まで耳にしていた地名がどこなのか分かる。 |
| 3. 通学路と友達の家 ・地図に通学路の印を付ける。 ・通学路をたどって道順や安全な歩き方を確かめる。 ・それぞれの家の位置関係をつかむ。 | 6 | ・学校をスタートして友達の家までの道をたどっていく際に、地図上の信号や目印の建物などを頼りにして進むようにする。 ・家の位置関係がつかみやすいように一人ずつ交代で地図をたどり、他の者は一歩離れて地図を見られるようにする。 | ・地図の上で友達の家までたどり着ける。 ・近い家分かる。 |
| 4. 探検ぼくの町 ・どこへ行って何がしたいか課題をつかむ。 ・地図を見て行き方を調べて発表する。 ・調べた道順に沿って目的地まで行く。 ・ルールを守って目的地を利用する。 | 14 | ・行きたいという気持ちを大切に、それぞれの意見を出し合い場所を決める。 ・二つのグループに分かれて、調べたり話し合ったりする。それぞれの活動を発表し、みんなで計画を練り上げる。 ・「やってみようカード」にまとめ、当日それを見ながら行ってみる。 ・良かった点や反省点をまとめ、次の活動に生かす。 | ・どこへ何をしに行きたいか話せる。 ・自分の分担が分かり活動ができる。 ・他の班の話聞いて自分の意見を言える。 ・安全に気を付けて目的を果たす。 |

3 一単位時間の指導計画例について

(1) 本時のねらい

- ・友達と協力して計画表を作ったり、発表を聞いたりできる。
- ・目的地の場所や持ち物が分かる。

< 班別 > A 班 (A ・ B) ・持ち物や約束事が分かり、発表できる。
・行く場所のおよその位置がつかめる。

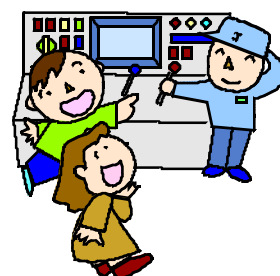
B 班 (C ・ D) ・目的地の場所と道順が分かり、発表できる。
・協力して計画表を作ることができる。

(2) 準備

学校区の地図 (掲示用 ・ 個人用) 、画用紙、クレヨン、やってみようカード (計画用紙) 、模型の時計

(3) 展開

| ねらい | 時間 | 学習活動と支援 【 】内：支援 □内：評価規準 | | |
|------------------------------|-----|--|--|---|
| | | 全体 | A班（A児・B児） | B班（C児・D児） |
| ・学習のめあてが分かり、自分のすることに見通しがもてる。 | 10分 | ・「～へ行く」計画表を作るために調べることを確かめて自分のやることをつかむ。 | ・持ち物・約束をまとめる。 【行けるようにするために、自分たちがしなければならないことが分かるように「自分のすること」「友達のすること」に分けて板書する。行きたいという気持ちを活動への意欲へとつなげていく】 | ・道順・日程をまとめる。 |
| ・計画表を作る。 | 25 | ・自分のすることについて地図を調べたり、聞いたり、話し合ったりしてまとめる。 | ・持っていくものを調べて絵と文でかく。 ・約束を調べて文に書く。 【目的地であることをヒントにして考えられるようにする。遠足の時のしおりなどを活用する。約束事は絵本などを利用して視覚的に理解できるようにする】 □持ち物や約束が分かり、まとめて書いている。 | ・日程表と道順表を作る。 【「やってみようカード」（計画用紙）を用意し、作業の手順が自分たちで分かり、進められるようにする。活動に使える全体の時間から、歩く時間を引いて目的地にいられる時間を考えられるようにする】 □日程表と道順表を作りあげる。 |
| ・全体の計画を仕上げる。 | 10 | ・調べたことを発表する。 ・自分の地図に道順を描く。 | ・調べたことを発表し、自分の地図に道順を描く。 【発表するときには絵や文にまとめたものを見て、活動内容も話すよう言葉をかける】 持ち物 学校区の地図(個人用) やってみようカード 筆記用具 お金 約束 歩くときの注意 お店で中での注意 公園での注意 □必要な持ち物や約束の内容を分かるように発表している。 | 【発表のときには自分たちで描いた地図や「やってみようカード（日程表と道順表）」と結びつけながら説明できるようにする】 日程と道順について お店に行って、お菓子を買って、公園に行って、お菓子を食べる。 □日程や道順を分かるように発表している。 |



日常生活の指導（「朝の会」）

1 年間指導計画例について

(1) 児童の実態

本学級は、3年生1名（A児）、5年生1名（B児）、6年生1名（C児）の3名の児童が在籍している。A児は、2語文程度で自分の意思や出来事などを話すことができるが、発音が不明瞭でやや聞き取りにくいところがある。自分の言いたいことを思うように言い表せないため、うまく伝わらないといらだって怒ったり、友達に手を出してしまったりすることがある。B児は、簡単な会話ができて、出来事などを2年生程度の漢字を交えながら日記や作文に表すことができる。自分が気になることや友達の気になる行動に対して、場面に関係なく教師に何度も尋ねたり、言いつけに来たりすることが多い。また、予定が急に変更されると、やや情緒不安定になることがある。C児は、日常の会話はスムーズにでき、協力学級の友達と同じように行動したり、一緒に遊んだりすることができる。昨日の出来事なども、簡単に話すことができ、教師から聞かれれば詳しく話すことができるが、自分から順序立てて話したり、自分の気持ちを入れて話したりすることは苦手である。

毎日繰り返される「朝の会」では、一日の学校生活の始まりというけじめをしっかりと付け、学校生活を楽しく意欲的に送れるようにすることがまず大切である。さらに、このように学年差があり、学習面やコミュニケーション能力等の違いが大きい本学級の児童の実態を考えたとき、「朝の会」が毎日繰り返し指導されるというメリットを生かし、個々の児童の課題に合った内容を取り入れて、実態に配慮した手だてを講じながら、繰り返し指導し積み上げていくことにより、日常生活がよりスムーズに送れるようにしていくことが必要であると考えます。

(2) 年間の指導目標

一日の学校生活の流れが分かり、見通しをもって行動できる。

あいさつや応答など、社会生活に必要な基礎的な表現力を身につける。

友達と協力したり役割を交替したりして、集団生活に参加する態度を身につける。

(3) 年間指導計画

本学級では、第1校時の前の15分間を、「朝の会」として校時表に位置づけている。

| 学期 | 単元名 | 主な学習活動 |
|----|--------|--|
| 1 | 楽しい朝の会 | ・あいさつ ・月日、曜日、天気調べ 「クイズに挑戦」 ・今日の予定 ・今日がんばること |
| 2 | 楽しい朝の会 | 「昨日の出来事を話そう」 その他は、1学期同様 |
| 3 | 楽しい朝の会 | 「 について話そう」 その他は、1学期同様 |

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「楽しい朝の会」

(2) 単元について

「朝の会」は、学級の児童が全員揃った一日の学校生活の始まりの場面であり、その日の学習予定を確認して意欲をもって一日を過ごせるようにすることが大切である。また、「朝の会」は、毎日決まった時間に繰り返される学習であり、文字や数などの教科で学習した内容を実際の場面で生かしたり、定着させたりする上でも有効な時間であると考えられる。しかし、毎日同じような活動が繰り返されるために、マンネリ化することもあるので、学習内容に変化をもたせたり、支援の方法を児童の実態の変化に応じて変えたりしながら、楽しく学習が進められるようにする配慮が必要である。本学級では、15分という短い時間の「朝の会」を、日付・天気調べや今日の予定の確認などの年間を通して毎日繰り返される内容と、学期ごとに変わる内容とで構成している。

本単元では、話したり聞いたりすることに課題をもつ本学級の児童の実態に基づいて設定した1学期の「クイズに挑戦」、2学期の「昨日の出来事を話そう」を発展させた形で、児童が日替わりで交替しながら様々な話題について話す「について話そう」を取り入れた。これは、児童の実態に応じて、テーマを“好きな食べ物”や“家族(お父さん、お母さん)”、“なかよしの友達”、“節分の鬼”などのように生活に密着したものにして、友達や教師と楽しく会話をしながら表現力を高めることをねらいとしたものである。

(3) 単元に関する児童の実態

| | A児(3年) | B児(5年) | C児(6年) |
|---------------|--|--|--|
| 物事の記憶、見通し | <ul style="list-style-type: none"> ・昨日家で何をして遊んだかは覚えていることが多い。 ・毎日繰り返すこと以外は、視覚や言葉がけなどの手がかりがないと、何をしたらよいか分からないことが多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「いつ、だれが、どうした」など、気になったことはよく覚えている。 ・時間割が頭に入っているので、協力学級にも自分で行けるが、突然の予定の変更で、情緒不安定になることが時々ある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数日前のことも記憶にあるが、出来事を順番に並べるには支援を要する。 ・一日の生活については、朝確認することにより、見通しをもって主体的に活動できる。 |
| 話す、聞く | <ul style="list-style-type: none"> ・「<input type="text"/>、行った」など、2語文程度で話すことができる。助詞は使えない。 ・話を集中して聞くことは難しく、名前を呼ぶなどして注意を向ける必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な会話はできるが、自分の気になることや思いついたことなどを場面に関係なく一方的に言うことが多い。 ・名前を呼ぶなどして注意を向けないと、話を聞けないことが時々ある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師や協力学級の仲の良い友達と会話を楽しむことができるが、気持ちを表現することには支援を必要とする。 ・教師の話はよく聞くが、学級の友達の話は関心がなく、聞こうとしないことが多い。 |
| 文字や数字、文章の読み書き | <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの清音の読み書きでは、“れ”と“わ”など似た文字を間違えることがある。 ・数字は、見本を見れば書けるが、物を数えるのは3までである。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2年生程度の漢字の読み書きができ、それを使って簡単な作文や日記も書けるが、文字を乱雑に書いてしまうことが多い。 ・100まで数が数えられ、数字でも表すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2年生程度の漢字の読み書きができ、それを使って簡単な作文や日記も書ける。 ・1000までの数が数えられ、数字でも表すことができる。 |
| 学習への取組の様子 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習に集中できる時間は、20分程度である。 ・B児に興味があり、ちょっかいを出すことが多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手先を使った活動には集中して取り組めるが、それ以外はA児の行動が気になり、集中できないことが多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容によって取組に差はあるが、集中できる時間は長い。 ・人前に出ると声が小さくなってしまふ。 |

(4) 単元のねらい

<個別>

- A児・一日の学校生活の流れがおおよそ分かり、がんばることを伝えることができる。
 - ・あいさつを大きな声で言ったり、教師の質問に答えて話をしたりすることができる。
- B児・友達の話の聞いたり、テーマに合った話をしたりすることができる。
 - ・一日の学習の流れを確認して、がんばることを発表することができる。
- C児・友達の話の聞いて質問したり、自分の考えや感じたことを大きな声で話したりすることができる。
 - ・友達が分からないところを教えてやるなど、協力しながら朝の会を進めることができる。

(5) 指導方針

月日、曜日、天気調べでは、A児にはカレンダーや見本のカードを用意し、見本の数字や文字に対応してカードを選んだり、数字や文字を書いたりできるようにする。
 「 について話そう」では、児童の実態に応じて、テーマの内容や発表の仕方を変えるようにし、それぞれのねらいに沿った評価をすることにより、自信をもって発表できるようにする。
 B児には、前日の帰りの会で確認した今日の予定が変更となった場合は、自分のマークのついたカードや教科等のカードを実際に動かすことにより、変更の確認ができるようにする。
 C児には、A児・B児の援助をしながら、協力して楽しい朝の会にするように、励まし支援していく。

3 一単位時間の指導計画例について

(1) 本時のねらい

- A児・大きな声で号令をかけたり、友達を指名したりして、日直の仕事ができる。
 - ・今日の予定やがんばることを、少しでも言葉を使って伝えることができる。
- B児・テーマ「ぼくの好きな動物」の話を、テーマからはずれないで友達に分かるように話すことができる。
 - ・今日がんばることを見付けて、発表することができる。
- C児・B児の発表をよく聞いて、質問をすることができる。
 - ・C児を助けながら、今日の予定を発表することができる。

(2) 準備 マグネット付きカード（数字、曜日、天気、教科、児童のマーク）、カレンダー、ホワイトボード、動物図鑑

(3) 展開

| 活動の流れ | 時間 | 学 習 活 動 と 支 援 | | 【 】内：支援 | 内：評価規準 |
|--------|----|---|-----|--|--------|
| | | A 児 | B 児 | | C 児 |
| 朝のあいさつ | 4分 | 決められた位置に立って、大きな声で号令をかけることができる。 ・前に出て号令をかける。 【日直が立つ位置が分かるように の印を付けておく。「元気に号令をかけよう」と言葉をかける】 | | 元気な声で、朝のあいさつができる。 ・あいさつをする。 【日直が号令をかける前に、「さあ、みんな元気かな？」と言いながら一人一人の顔を見る】 | |
| 今日の | | 見本の数字を見て、黒板に月日を | | 曜日や天気を、丁寧に書くことができる。 | |

| | | | |
|--|---|--|---|
| <p>日付、曜日、天気調べ</p> | <p>書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日直として、カレンダーを見ながら日付を書く。 <p>【今日の日付が分からない場合は、前日まで終わった日はずっとシールが貼られていることに気づくように指で示す】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・日直に指名されたら曜日または天気を書く。 <p>【指名され、返事をしてまっすぐ黒板の前に行け、丁寧に書いたらたら賞賛する。乱雑なときは、「これでいいかな?」と言って気づけるようにする】</p> | <p>【丁寧に書けたら賞賛する】</p> |
| <p>「ぼくの好きな動物」の発表</p> <p>6分</p> | <p>質問があるか尋ねたり、何の話をしたか答えたりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞き、質問があるか尋ねる。 <p>【言葉が出てこないときは、教師が「質問ありますか」と言ってみ本を示す】</p> <p>【B児がどんな動物のことを話していたか尋ね、言葉で出てこないときは絵本を示し、答えられるようにする】</p> <p>教師の質問を聞いて、動物の名前を言おうとしている。または指で指し示そうとしている。</p> | <p>テーマに合った話をして、質問に答えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくの好きな動物」について発表する。 <p>【何を言ったらよいか分からなくなったときは、家で書いてきたメモを見るように促す】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C児または教師の質問に答える。 <p>【分からなくて困っているときは「分かりません」と言うように伝える】</p> <p>好きな動物について、メモを見ながら発表している。C児や教師の質問に答えようとしている。</p> | <p>B児の発表をよく聞いて、質問することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞き、分からないことを質問する。 <p>【どんな小さなことでも質問できたときは、賞賛する】</p> <p>【質問することが思いつかない様子ときは、考えるヒントを与える】</p> <p>話をしっかり聞いて、質問しようとしている。</p> |
| <p>今日の予定の確認</p> <p>5分</p> <p>今日一日がんばることの発表</p> | <p>知っている言葉を発して、今日の予定を発表することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の予定をC児と一緒に発表する。 <p>【前日の帰りの会でホワイトボードに貼ったカードを掲示し、C児の後について一緒に発音するように促す】</p> <p>今日一日がんばることを、言葉や動作などで伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日一日がんばることを、予定表を指さしながら言葉を交えて伝える。 <p>【A児の言葉や指さしをもとに、教師が言語化し、A児に確認を求めるようにする】</p> <p>【各児童があげた目標は、教師が</p> | <p>発表をよく聞いて、今日の予定を確認することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表と予定表で、今日の学習予定（協力学級に行く時間）を確認する。 <p>【変更があった場合は、自分のマークのついたカードを操作するように言葉をかける】</p> <p>【協力学級に行く時間に貼ってある各自のマークに注目するように言葉をかける】</p> <p>今日一日がんばりたいことを自分で見付けて、発表することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日一日で特になんがしたいことを決めて発表する。 <p>【自分で決められたら賞賛する。しかし、自分から見付けられないことも予想されるので、前日または数日前の本児の様子から、いくつか候補をあげて示し、自分で選んで決められるようにする】</p> <p>【各児童があげた目標は、教師が</p> | <p>A児を援助することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A児と一緒に今日の予定を発表する。 <p>【ゆっくりと発音するように促す。上手にリードできたら賞賛する】</p> <p>A児を援助することができる。</p> <p>【自分で決められたら賞賛する。ただし、前日と同じ内容が続いた場合は、考えるヒントを与えるようにする】</p> |

自立活動

自立活動について

(1) 自立活動の目標

学習指導要領では、自立活動の目標を以下のように示している。

「個々の児童又は生徒が、自立を目指し障害に基づく種々の困難を主体的に克服・改善するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。」

自立活動の目標の要点を整理すると、次のようなる。

児童生徒の主体的な活動の育成

他人に援助や判断を求める受動的、依存的な活動や生き方ではなく、児童生徒が主体的に判断し決定する自立的な生活ができるための、知識、技能、態度、習慣などの資質の育成を求めている。

活動の困難を克服・改善する指導

障害のある児童生徒に現れている様々な活動の困難の状況について、その原因や対応策を児童生徒に向けて求めるのみでなく、教材・教具や指導方法など環境条件の工夫により児童生徒の活動の困難を軽減する指導を求めている。これは、国連のWHOなどが提案している新しい障害観と軌を一にすると考えられる。

(2) 自立活動の指導

自立活動の指導は「個別の指導計画」を作成して指導することになっている。また、自立活動の指導は、教育活動全体を通して指導する場合と、自立活動の時間を設定して指導する場合（これを「時間における指導」と呼んでいる）がある。

【例 1 教育活動全体を通しての指導を重視した例】

1 児童の実態について

(1) 指導開始時の様子

小学校5年生の自閉的な傾向のある児童（A児）である。身辺自立はほぼ確立しており、計算や漢字の書き取りは3、4年生程度の学習が可能である。しかし、音声言語でのやりとりがほとんど成立していない。特に音声言語理解に比べ音声言語表出が極端に劣っている。日常的な会話は、高い文脈理解の力に支えられてかなり理解しているようである。一方、有意味語の発語はなく、いくつかの母音のみが発声できる状態である。自分の意に添わない場面では、「アッ」というような声を出して首を横に振ることで拒否の態度を表している。その他の意思の表出は、指さしやいくつかの独特の身振り、単語を書くなどの方法で行っている。日記はその日の授業の羅列のような内容であるが、毎日独力で書いている。

固執性は多少あるが、学校ではそのことが原因でパニック状態になることはない。突然の予定変更等にも適応できることが多い。多少のこだわりもあるが、A児に納得できる形で理由を示せば、受け入れられることもある。ただ、集会等のときにむずがるような声を出すことがみられる。周りの友達が制止しようとする、一層大きな声を出すことがある。

所属する学年は理解していて、通常の学級の友達の名前もたくさん知っている。しかし、帰属の

意識やその欲求は弱い。友達の指示で動くことはできるが、友達の輪の中に入っていったり、主体的に行動を共にしようとしたりすることは少ない。また、自分から学級担任以外の職員や友達に働きかけることもほとんど見られない。毎日繰り返されるルーティン化した活動は自分から取り組むが、慣れない活動に対しては教師の指示を待っているようなところがある。

(2) 生育歴等

周産期等に特記事項はなし。

(3) 諸検査等の結果

K - A B C 認知処理過程尺度 57 ± 8 習得度尺度 57 ± 6

下位検査では、「模様の構成」が特に得意、「数唱」が苦手。

W I S C - 言語性 I Q 55 動作性 I Q 57 全検査 I Q 51

(4) 保護者の要望

中学卒業後は高等養護学校への進学を希望しており、将来的には何らかの形で就労してほしいと願っている。そのためにも、落ち着いて学校生活を送ることと、周りの人とのやりとりが可能になることを強く希望している。

(5) 実態についての考察

A児は計算や文字を書くことなど、いくつかの領域については比較的高い能力を示している。学校生活の流れも理解し、ある程度適応して過ごしている。しかし、周りの人とのことばでのコミュニケーションは特に苦手としている。音声言語がほとんどないこともあり、情報の伝達がスムーズに行えていない。文字やいくつかの身振り言語はもっているが、やりとりにそれらを十分に活用してはいない。

パニックになることはほとんどないが、集会時に声を出すなど、目立った行動も多い。高学年になったこともあり、保護者や他の職員もその点を問題視する傾向がある。また、学校生活全般で主体的、積極的に活動することは少なく、受け身的に生活している。これらの行動は、周りの人とのやりとりがうまくできないことがその背景にあると考えられる。集会時に声を出すなどの行動は、周りの人の関心を自分の方に向けさせる効果がある。声を出すことを注意されると、それが逆にエスカレートすることからそのような考えられる。また、表出面に比べ理解面での能力が高いので、周りの人の指示はある程度理解できている。そのため、それに従って行動する習慣が身についたと考えることができる。

以上のことから、A児にとっては何らかのコミュニケーションスキルを身につけることが最優先課題であると考えた。そのことで、友達など周りの人とのかかわりも深まり、同時に心理的な安定にもつながるであろう。また、学校生活により適応し、積極的に活動するようになることも期待できる。その際、コミュニケーションの媒体としては、「文字」を利用することが有効であると考えた。食事のときの様子や口形模倣等の実態から、今後コミュニケーションの媒体として確立できるほどに音声言語を獲得していくことは難しいと考えたためである。文字に関しては、漢字を含め文字を書くことは得意な領域であり、実際に部分的には自分の意思を伝える手段として利用していた。それを意図的に取り上げることで、コミュニケーションの媒体として確立させ、やりとりを深めていきたいと考えた。

2 目標の設定

(1) 活動内容の設定にあたって

学習指導要領の内容に示されている「5 コミュニケーション (2)言語の受容と表出に関すること。(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。」に関する指導として取り上げた。

コミュニケーションの媒体として、音声ではなく文字を使うこととしたが、そこにはいくつかのレベルが考えられた。

まず、A児がすでに多少利用しているものとして、紙と鉛筆を使った筆談形式があった。この方法は、1対1の場面では簡便性や記録性もあり、有効であると考えた。また、A児にとっては特別新しいスキルを獲得する必要がないため、比較的導入しやすく、コミュニケーションについて様々なスキルを身につけていくことが可能であると判断した。文字を積極的に活用できるよう、特殊学級の教室の他、食堂や通級する通常の学級に『Aくんノート』を用意し、学校生活の様々な活動の中で、文字を媒介にしたコミュニケーションができるようにした。紙と鉛筆を使った筆談形式では、A児から発信するだけでなく、周りの人も同じ方法でやりとりをすることができる。そのような相互作用を通して、コミュニケーションのスキルを発展、深化させるだけでなく、コミュニケーションしていくことの有効性や便利さに気付いていけると考えた。そのことで他の方法でのコミュニケーションもさらに活発になることが期待された。

日直等の係活動でクラスの友達に話しかけるなど、複数の人へ話しかける場面では、文字を音声に変換してくれる「トーキングエイド」が効果的であると考えた。これは習得に多少のスキルを必要とするが、様々な機能を使いこなすことができれば、かなり有効な機器となる。また、将来的にインターネットを利用した情報の送受信も重要なコミュニケーション手段になると考え、パソコンの基本的な操作についてもその習得を目指した。

自閉的な傾向のある児童の場合、個別の学習でさまざまな力を獲得してもそれが般化しにくいことが多いとされている。特にコミュニケーションの力は日常の学校生活の流れの中で伸びていくと考えられる。そのため、自立活動の時間の指導で身につけたスキルを、日常生活に生かせるよう学校生活全般で支援していくことが必要になる。そして、校内の他の職員にも協力を要請するなど、環境に働きかけることも重要な支援として考えられる。逆に日常生活の中から必要なスキルを見つけるなど、自立活動の時間と日常の学校生活との関連を考慮しなければならない。そのような観点から指導計画を作成した。

(2) 長期目標と短期目標

3つのコミュニケーション手段ごとに、1～2年で達成することを目指して「長期目標」を設定した。さらに、その長期目標を達成するために、それぞれ4～5の指導の段階を想定し、これを「短期目標」とした。

| 長 期 目 標 | 短 期 目 標 |
|--------------------------------|---|
| 筆談によるコミュニケーション行動を獲得する | <ul style="list-style-type: none"> - 1 Aの行動等の事実や具体的なものを、ノートに書くよう促されて書く - 2 自分の興味のある事柄を書いて伝える - 3 自分に必要な情報を書いて質問し、聞き出す - 4 相手の話題に応じてやりとりをする - 5 日常のあいさつなどのやりとりをする |
| トーキングエイドを使ったコミュニケーションのスキルを習得する | <ul style="list-style-type: none"> - 1 電源や発声のさせ方などの基本的な使い方を習得する - 2 複数の入力方法をできるようになる - 3 様々な機能を利用し、日直の仕事をする |

| | |
|--------------------------|--|
| | - 4 相手の質問にトーキングエイドで答える |
| パーソナルコンピュータの基本的な使い方を習得する | - 1 電源の入切などの基本的な操作を習得する - 2 マウスの操作やキーボードでの入力を習得する - 3 ワードプロソフトを使い、文章を打つ - 4 校内メールのやりとりをする |

4 自立活動年間指導計画

| 目標 | 時間の指導での内容 | 学校生活全般への支援や環境への働きかけ |
|----|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教師が身の回りのものについて、文字で表現したものを理解する。 ・A児にとって既知の事項について、文字で答える。 ・特定の話題について、何回かのやりとりを続ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「Aくんノート」を教室と通常の学級・食堂に置き、生活の文脈の中でいつでもやりとりができる環境を作る。 ・教科での交流の時間の変更等の確認をノートを介してできるよう、通常の学級の担任に依頼しておく。 ・ふれあう機会の多い職員を中心に、A児と文字を使ったやりとりが楽しめるよう双方に働きかける。職員には、A児からの働きかけに文字で応じるだけでなく、A児に対して質問したりあいさつをしたりしてもらうよう依頼する。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・トーキングエイドの基本的な操作方法を身につける。 ・司会のときのせりふなど、一定の文を登録する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的なトーキングエイドの管理をA児に任せ、必要なときにすぐに使えるようにする。職員に対しても、トーキングエイドの意味や使用方法を説明しておく。 ・朝の会などの進行をトーキングエイドを使って進める。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターの基本的な操作方法に習熟する。 ・キーボードの入力に慣れる。 ・ワードプロソフトを使って自分の考えなどを書く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンクラブに入り、友達と一緒に活動する。 ・作文等の学習の際、パソコンを使って書く。 ・学校文集の原稿をワードプロソフトを使って書く。 |

4 一単位時間の指導計画例

【生活単元学習「クレープやさんをひらこう」の中での自立活動】

(1) 単元の構成

3名の児童で協力して、クレープを作って職員に販売をする学習である。各学期に2回、計6回の学習を「計画 買い物 調理 職員への販売 まとめ」という流れで学習を進めていく。本時は第4回の2時間目に当たる。前回の経験をもとに、材料や道具を思い出して確認するとともに、販売に向けてそれぞれの作業をしていく場面である。

(2) A児のねらい

単元全体 ・クレープ作りに必要な材料や調理道具を思い出す。

・職員への案内のチラシを作る。

自立活動 ・教師の質問に答えてノートに応答を書く。

・教師が用意した原稿をもとに、パソコンを使ってチラシを作る。

(3) 準備 [教師] 前回のクレープ作りの時の写真、材料や道具の絵カード、学習プリント

[A児] 「おしゃべりノート」、フロッピーディスク

(4) 展開

| 学習活動 | 時間 | 支 援 | 評価規準 |
|---|-----|--|--|
| 今日の学習内容を確認する ・材料と道具を思い出す ・販売に向けての用意をする 前回のクレープ作りを思い出し、使った材料と道具を思い出す ・材料を思い出す ・使った道具を思い出す ・「ざいりょう」「どうぐ」に分けてプリントにことばで書く | 10分 | ・「ざいりょう」と「どうぐ」を絵カードを使って別々にまとめることで二者の違いを明確にする ・思い出せないものは前回の活動の様子を撮った写真を提示する ・A児が教師の質問に対して身振り等で答えるときは、ノートを指さしそこに書くように促す。自発的に書くときはそれを称賛し、取り上げる | ・材料と道具を区別して答えている ・教師の質問に対し、自分からノートに書いて答えている |
| 販売に向けて準備をする ・A児：教師の原稿をもとに、パソコンでチラシを作る ・B児：集金の際のお釣りの一覧表を作る ・C児：ポスターを作る | 15 | A児：レイアウトはノートを使いA児の意見を聞きながら教師が指示する時間になったら、できたところまでプリントアウトし、A児のフロッピーに保存するように伝える B児：予想される支払いの種類を教師が提示する 筆算で計算した後、確認のため電卓を使って確かめをするよう促す C児：文字はなぞり書きができるよう、予め教師が書いておく 絵は別の用紙に描き、よくできたと思うものを切り張りする | ・パソコンの基本的な操作をだいたい一人でやっている ・キーボード上でひらがなをすばやく見つけている |
| 今日の学習を振り返る ・材料と道具を確認する ・各自が作ったものを見せ合う | 10 | ・A児が指したものの名前を言うことで確認する ・それぞれのがんばりを認めるとともに、大変だったところなどを聞く。A児はノートに答えるよう促す | ・友達の様子を意識しながら、絵カードを指している |
| 次時の学習内容を聞く ・クレープを作る手順を思い出す ・今日の続きの作業をする | 10 | ・黒板のクレープ作りのコーナーにメモし、次時までいつでも視覚的に確認できるよう配慮する。 | |



【例 2 時間における指導の例】

1 児童の実態

小学校3年生のダウン症の児童（B児）である。心室中隔欠損の手術をしているが、現在は特に問題がなく、その他の合併症等もない。

視力が弱く（裸眼視力 0.2 程度）、斜視、乱視もある。ただし、眼鏡をかけていれば、視覚的な認知に大きな問題は感じられない。コミュニケーションに対する意欲は高く、情動の共有という意味では活発にやりとりを楽しむことができている。しかし、構音の障害に加え、正確に音声言語として表出できることばが少ないため、情報の伝達という側面からみると十分にコミュニケーションができているとはいえない。そのこととも関係すると考えられるが、時々わがままをいい、いつもしている活動ができないこともある。

運動制限はないが、肥満傾向がある。また、持久走やバランスをとる必要がある運動などは、特に苦手としている。着替えも立ったままではうまくできない。食事や着替え等の身辺処理は一人でできる。家が比較的近いこともあり、徒歩による登下校を行っている。

2 家庭との連携

(1) 連携の方法

本校では、家庭との連携を重視し、毎月一度個別面談を実施している。そこでの話し合いの大きな柱として、自立活動における個別の指導計画の作成とそれに基づいた具体的な支援や課題についての話し合いがある（家庭との間では“すくすく計画”と呼んでいる）。ここでは、まず現在の様子等について共通理解を図る。それをもとに家庭と学校とが同一の目標に向け支援をしていくことを目指し、長期・短期の目標を設定している。さらに、その短期目標の達成に向けて、学校と家庭とでそれぞれの場に応じた具体的な支援の手だてを考えている。学期ごとに個別面談で短期目標の達成状況について評価をし、次の学期の短期目標を設定している。必要に応じて長期の目標の見直しをする場合もある。また、家庭での支援をより具体的で分かりやすくするため、家庭課題の形で提案し、家庭で取り組んでもらっている。

(2) 個別の指導計画“すくすく計画”

| 児童名 | B児 | 学年 | 3年（1学期） |
|--|----|----|---------|
| 《現在の様子》 | | | |
| ・ <u>健康の保持</u> ：心室中隔欠損があったため、手術を受けたが、現在は運動制限もない。肥満傾向がある。時間がかかるものもあるが、身の回りのことはだいたい一人でできる。 | | | |
| ・ <u>心理的な安定</u> ：人混みなどのガヤガヤした場所は苦手であるが、学校の中では多くの友達や職員と楽しくやりとりをしている。指示されたことに対して、とりあえず拒否をすることもある。 | | | |
| ・ <u>環境の把握</u> ：視力は弱いですが、描く作業も丁寧にできる。メガネに対する抵抗感はかなり少なくなった。 | | | |
| ・ <u>身体の動き</u> ：水泳をはじめ、体を動かすことは意欲的。ただし、持久走のような運動やバランスを必要とする運動は苦手としている。補助輪のついた自転車に乗れる。 | | | |
| ・ <u>コミュニケーション</u> ：ことばの理解は比較的良好であるが、表出面はやや苦手。自分のイメージをことばで表現しきれない感じである。構音もはっきりしない音が多い。ひらがなは1文字ずつであればかなり読めるが、単語や文になると読もうとしないことが多い。書くことも視写は得意で | | | |

あるが、考えて書くことは苦手。コミュニケーションに対する意欲は高く、身振り等を使っての相互伝達を主としたコミュニケーションは活発である。

《将来への保護者の願い》

何らかの仕事をして、自立した生活を送ってほしい。

《目標》

| 活動内容 | 長期目標 | 短期目標 |
|--------------|---------------------|---------------------------------|
| ・視力の回復を図る | ・視能訓練を習慣化する | ・細かい や点を見て、正確に活動する |
| ・正確な発音で話をする | ・ひらがなを正しい構音で読む | ・1文字ずつ真似をして読む ・1文字ずつ言われた音を書く |
| ・体のバランス感覚を養う | ・自転車に補助輪なしで乗れるようになる | ・二輪スクーターに一人で乗ることができる |
| ・適度の運動を継続する | ・自分から進んで運動する | ・指示された運動に精一杯取り組む |

《具体的な支援の手だて》

| 家庭で | 学校で |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・メガネをかけている姿を認め、気持ちよくかけていられるように配慮する ・ゲーム感覚で視能訓練に取り組む | <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ毎日片目を遮蔽して過ごす時間を設ける ・集中して見る必要のある学習を、意識的に取り入れる |
| <ul style="list-style-type: none"> ・絵日記を一緒に書く。本人の思いや考えをできる範囲で理解して、下書きをしてやる。それを読んでから書くよう促す | <ul style="list-style-type: none"> ・文を書くときは、本人のそれまでの言動から思いや考えを想像し、下書きを作り、読ませてから単語ごとに視写させる ・日直のせりふ等の決まったせりふを文字にして提示し、読みながら仕事が進められるようにする |
| <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で片足立ちなど、バランス感覚を養う動きを一緒に楽しむ | <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の時間を活用して、自転車の練習をする ・平均台や片足立ちなどのバランス感覚を養う動きを取り入れる |
| <ul style="list-style-type: none"> ・天気のよい日は外で遊ぶよう誘い、できるだけ一緒に体を動かす | <ul style="list-style-type: none"> ・全校で取り組んでいる自主マラソンへの参加を促す |

3 自立活動の年間指導計画

(1) 活動内容の設定

児童の実態から、保護者との話し合いを行い、自立活動の時間の指導として次の4点を指導していくこととした。

視力の回復

現在、生活上大きな困難は感じられないが、今後数年間は視能訓練をすることで視力の向上が

望めるという医師からの助言を取り入れ、重点的に取り組むことにした。視能訓練としては、眼鏡をかけたまま右目を遮蔽した状態で、小さい点に焦点を合わせることを指示された。特に、最近眼鏡をかけることに対する抵抗感が減ってきているので、それに加え視能訓練についても習慣化し、自発的にできるよう、精神面からも支えていくこととした。視能訓練の内容として細かいものを見て描くことが含まれていたため、指先の巧緻性を高める指導と合わせて実施することが可能であると考えた。これについては、家庭でも断続的に指導してきた。この活動は、学習指導要領の内容では、「3 環境の把握 (1) 保有する感覚の活用に関すること」に当たると考えた。

音声言語によるコミュニケーションの拡充

コミュニケーションに対する意欲は高いものの、音声言語の発達が十分ではなく、情報の伝達としての機能を十分に果たしていない。諸検査から聴覚的短期記憶を苦手としていること、一方で平仮名の読み書きなど文字言語については比較的高い能力があることから、文字言語を確実に習得することで、聴覚的短期記憶や構音の改善を図ることが可能であると考えた。構音については、ひらがなを示せば正しく構音したり模倣したりできる音も多いので、それを単語から文の構音へと広げていくことができる。また、文字を補助的に使うことで苦手な聴覚的短期記憶の能力を補い、高めていくことができると考えた。家庭でも毎日の宿題にしている絵日記を書くことで取り組んでもらうことにした。この活動は、学習指導要領の内容では、「5 コミュニケーション (2) 言語の受容と表出に関すること」に当たると考えた。

体のバランスや巧緻性

保護者から、補助輪のない自転車に乗れるようにしたいという要望があったことを受けて設定した。将来の社会生活を考えたとき、近距離の移動の手段としては自転車は有効である。また、自転車に乗るためには、体のバランスをとることや全身の筋力を高めることが求められる。これらの面はB児の苦手な領域であるため、楽しみにしている自転車の練習をすることを通して、これらの力をつけていくことにもつながると考え、体育科の指導以外にも指導の時間を設定することとした。この活動は、学習指導要領の内容では、「4 身体の動き (1) 姿勢と運動・動作の基本技能に関すること」に当たると考えた。

肥満傾向の抑制

ローレル指数は現在も「太りすぎ」の範囲にいるため、これ以上の体重増加は健康面への影響もあると考えた。とりあえず、現状の体型を維持できるよう、日常的に体を動かすことを取り入れていくこととした。特に、将来的にも継続が可能な運動として、フライングディスクとゲートボール、なわとび等の運動に親しむ機会も作ることにした。これは、学習指導要領の内容では、「1 健康の保持 (4) 健康状態の維持・改善に関すること」に当たると考えた。

(2) 自立活動の時間の設定

週2時間を自立活動の時間として時間割に組み込んだ。

選んだ活動内容を見ると、一つの活動の中に二つの内容を取り入れることが可能であると考えた。そこで、以下のように、1時間で二つの内容を組み合わせて活動することとした。

月曜5校時： について

金曜5校時： について

(3) 自立活動の時間の年間指導計画

| ねらい | 学期 | 活 動 内 容 | 家庭での取り組み（指導の時間） |
|---------------------|----|--|--|
| 視力の回復 ・指先の巧緻性 | 1 | ・図形の模写と図形完成（右眼遮蔽） | ・医師から指定された視能訓練（随時） ・絵日記の絵を下書きしてやり、模写させる（家庭学習の時） |
| | 2 | ・折り紙（右眼遮蔽） | |
| | 3 | ・切り絵（右眼遮蔽） | |
| 音声言語によるコミュニケーションの拡充 | 1 | ・ひらがなを1文字ずつ正確に構音しながら読む ・1音ずついわれた音をひらがなで書く | ・絵日記はAと話をしながら下書きをし、それを読んであげながら書かせる（家庭学習の時） ・学校で学習した簡単な物語を繰り返し音読するよう促す（家庭学習の時） |
| | 2 | ・2～3音節ごとに正確に構音しながら読む ・2～3音節ごとにいわれた音をひらがなで書く | |
| | 3 | ・単語ごとに正確に構音しながら読む ・単語ごとにいわれたことばをひらがなで書く | |
| バランス感覚を養う | 1 | ・二輪スクーターに乗る | ・ペダルのない自転車にのる練習（随時） |
| | 2 | ・ペダルを外した補助輪のない自転車を足でこぎながらバランスをとって進む | |
| | 3 | ・補助輪のない自転車に乗る練習 | |
| 肥満傾向の抑制 | 1 | ・フライングディスク | ・スイミングスクールでの水泳（週1回） ・なわとび（随時） ・さんぽ（随時） |
| | 2 | ・ゲートボール | |
| | 3 | ・なわとび | |

4 一単位時間の指導計画例

(1) 本時の指導目標と指導内容及び評価規準

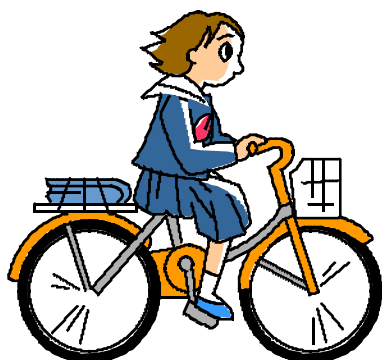
| 指導目標 | 指 導 内 容 | 評 価 規 準 |
|--------------|--|---|
| 視力の回復・指先の巧緻性 | ・教師のモデルを見ながら折り紙で簡単な動物や花等を折る ・教師が描いた目や口等に色を付ける | ・頂点と頂点、辺と辺等をしっかり見て、合わせようとしている ・小さな丸等をはみ出さずにぬっている |
| 文字の読み書き | ・折ったものの名前を書いたり読んだりする ・簡単な感想を読んだり視写する | ・ひらがなを正しく構音している ・文節ごとに書いている |

(2) 準備 教師：折り紙、折るものの手本、画用紙、ますの大きな原稿用紙

児童：片眼遮蔽用の眼帯、筆記用具、のり

(3) 展開

| 学習活動(指導目標) | 時間 | 支 援 |
|----------------------|----|--|
| 今日の学習の内容を決める。 | 5 | ・お手本を見せ、自分で決められるようにする。 |
| 決めたものの名称を台紙に書く() | 5 | ・本児が命名したもので書き、一緒に読む。 ・以下のような段階的援助を設定する。)お手本の折り紙を見て援助なしで書く)単語をゆっくり発音して書く)単音を1文字ずつ発音して書く)お手本を視写する 本時では)を目標とし、反応によっては)の援助をする。 |
| 教師のモデルを見ながら折る() | 15 | ・合わせる点や辺をペンで印を付け、視覚的に注意を集中しやすいように配慮する。 ・時間をみながらそれぞれ1～2個折る。 |
| 目や葉などを描く() 台紙にはる | 10 | ・Aと相談しながら、折ったものに描き込んだり、台紙に直接描いたりする。 ・教師が目や葉などを描き、色塗りを頼むが、できるだけ細かい図形を描くようにする。 |
| 簡単な感想を書く() | 10 | ・Aと話し合いながら感想を下書きし、それをもとに清書させ、一緒に読む。 ・以下のような段階的援助を設定する。)文節ごとに教師が読み、それを書く)文節ごとに短い時間提示した後、見ないで書く)文節ごとに提示されたものを書く 本時では)を目標とし、反応によっては)の援助をする。 |



国語 【例1】

1 年間指導計画例について

(1) 生徒の実態

本学習グループは、3年生3名（A、B、C）で編成されている。Aは簡単な文章を読んで内容を理解したり、様子や気持ちを文章に表現したりできる生徒、Bは簡単な文章の内容理解ができ、時間を追って経験したことが書ける生徒、Cは手がかりがあれば文章の内容を理解でき、簡単な漢字を文の中で使えるようになってきた生徒である。

このように、実態に違いのある3名であり、昨年度までは系統性を重視して、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」について基礎的な内容を中心に学習してきた。その結果、それぞれの内容について基礎的な力は身に付いてきた。今年度の学習を計画するに当たっては、3名とも3年生であり、高等部進学を間近に控えていることを考えると、やはりこれまでに培ってきた基礎的な力を生活場面で発揮できるようにしたり、将来の生活に必要な内容について取り上げて指導したりする必要性が高いと考える。そこで、今年度の年間指導計画は、将来の生活に直結した内容を含む単元を中心に編成し、各単元の指導の中で一人一人の実態に応じた指導を展開して、身に付けた基礎的事項について生活場面で発揮できるように工夫していきたい。

(2) 年間の指導目標

将来の生活に必要な言語的な事項について、その内容を理解し、生活の中で使うことができる。

- ・履歴書や案内状などの書き方について知り、書くことができる。
- ・電話で必要なことを話したり、聞き取ったりすることができる。
- ・レシピや説明書、新聞などを読んでその内容を理解することができる。

(3) 年間指導計画

(週3時間配当)

| 月 | 単元名 | 時間 | 主な学習活動 |
|---|-----------------------------|----|---|
| 4 | 自分の住所や家族、学校について書いたり、話したりしよう | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な自己紹介の文を書き、自己紹介をする。 ・自分の住所、氏名、年齢、生年月日、電話番号、学校名、家族の氏名等を覚え、言ったり、書いたりする。 ・家庭調査票に書く。 |
| 5 | 新聞やチラシを読もう | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・新聞やチラシ、市の広報誌、催し物の案内状などを読み、興味のある記事について、「だれが」「いつ」「どこで」「どうした(どうする)」などをまとめ、発表し合う。 |
| 6 | レシピを読んで、調理をしよう | 18 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で調理の本を探し、自分の作りたい料理を決める。 ・読めない漢字等を調べて、レシピを読み、必要な材料、用具、手順などをまとめる。 ・レシピを見ながら実際に調理をする。 |
| 7 | 電話で話そう | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が直面する様々な状況で、話したり、聞いたりしなければならない内容を考える。 ・話したり、聞いたりする内容のメモを見ながら、実際に教師に電話をかけ、練習する。 ・実際に外部に電話をする。 |

| | | | |
|----|----------------|----|--|
| 9 | メモを取って伝えよう | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・電話を受けたときの対応について、学習する。 ・様々な用件の電話を受け、必要な内容をメモして、正確に伝える。 |
| 10 | 本を読んで、紹介しよう | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館や市図書館の利用の仕方を知り、好きな本を借りて読む。 ・読書新聞（書名、著者、登場人物、あらすじ、感想など）を書き、自分のお薦めの本を互いに紹介し合う。 |
| 11 | 説明書や解説書を読んで作ろう | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や学校にある電気製品や模型などの説明書や解説書を集める。 ・読めない漢字等を調べて、解説書や説明書を読み、内容をまとめる。 ・簡単な模型を説明書を見ながら作ってみる。 |
| 12 | いろいろな書類を書いてみよう | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・履歴書、入学願書、住民票の請求書、銀行の口座申し込み書などの書類について、どこにどんなことを書くのか知り、実際に書く。 ・窓口に出し、住民票をもらったり、口座を作ったりする。 |
| 1 | 面接を受けよう | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・面接の方法、マナー、言葉遣い等について学ぶ。 ・高等部入試を想定した質問に対する答えを考え、まとめる。 ・教師を面接官にして、面接の練習をする。 |
| 2 | 案内状を書いて出そう | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな内容の案内状を見て、どんな内容を書く必要があるかを考える。 ・卒業記念パーティーの計画を立て、案内状の内容を考える。 ・はがきに招待の言葉等を書き、出す。 |

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「電話で話そう」

(2) 単元について

将来の生活はもちろん、現在の生活をより豊かなものにするためにも、場面や状況に応じて自分の思いや気持ち、必要なことなどを言葉で相手にしっかりと伝えられることはとても大切なことである。しかし、本学習グループの生徒は、いろいろな場面で困ったことがあったり、伝えたいことがあったりしても、そのときどんなことを話せば分かってもらえるのかということ意識して考えることが苦手なため、言葉でうまく伝えられないことが多い。まして、言葉だけで伝えなくてはならない電話で話すことはなおさらである。そこで、この「電話で話す」という学習を通して、様々な状況において、自分の伝えたいことを相手にどのように伝えればよいのかを考えて、話すことができるようになることをねらいとして本単元を設定した。

(3) 単元に関する生徒の実態

| | A (3年) | B (3年) | C (3年) |
|---------|--|---|--|
| 話すこと | 体験したことや自分の話したいことについては、話の順序や筋道を考えて話すことができる。 | 体験したこと、得意なこと、要求などは、順序よく話すことができる。 | 親しい人とはいろいろな内容を話すすが、あらたまった場では萎縮して話せなくなることもある。 |
| 伝えるべき内容 | 自分で考えることができ、不足している内容も、やりとりの中で気づける。 | 話す項目や順序が分かれば、その状況でどんな内容を話す必要があるのか考えることができる。 | |

| | | | |
|-------|----------------------------|---------------------------------|---------------------|
| 電話の経験 | 学校や友達、親戚などには、日常的に電話をかけている。 | 担任には電話をかけられるが、話す内容を母親がそばで伝えている。 | ほとんど自分で電話をかけたことがない。 |
|-------|----------------------------|---------------------------------|---------------------|

(4) 単元のねらい

- A 様々な状況において話すべき内容を考え、マナーや言葉遣いを意識して電話で伝えることができる。
- B ヒントカードをもとに話すべき内容を考え、電話で困った状況を伝えることができる。
- C 話すべき内容を書いたメモを見ながら、自信を持って電話をすることができる。

(5) 指導方針

- ・学習する内容については、各生徒の次のような日常生活の様子や将来の願いから、必要性の高い状況を設定する。

A：公共の施設や交通機関を使って余暇を過ごしたいという思いがある。

B：困った状況において、自分で対処できるようにする必要がある。

C：休日などに友達と遊びたいという思いがある。

- ・話すべき内容を考える際、Aについては教師との電話でのやりとりをもとに、自分で気づけるようにするが、B、Cについては話すべき項目（「相手の確認」「聞きたい内容」「お礼のあいさつ」など）を記したヒントカードを使用する。

ヒントカードの例 () 内に自分で考えて伝えるべきことを書き入れる。

| | |
|-------------------------|-----------|
| 相手の確認 () | 自分の名前 () |
| 都合の確認 () | |
| 聞きたいこと・伝えたいこと | |
| いつ () | |
| 何をしたい () | |
| 知りたいこと () | |
| お礼のあいさつ () | |
| 間違えてかけた場合 () | |
| 話すことがわからなくなってしまった場合 () | |

- ・ごっこ的な学習ではなく、実際の電話を利用して（例えば校内の電話から教師の携帯電話へ）緊張感をもって学習に取り組めるようにする。
- ・改まった場では萎縮してしまいがちなCに対しては、学習する内容（設定する状況）を少なくし、練習を多くして、自信を持って電話で話ができるようにしていく。

(6) 単元の展開

（全12時間計画）

| | 学 習 活 動 及 び 支 援 【 】内：支援 | | | 時 間 |
|-----------------------|--|---|---|--------|
| | A | B | C | |
| 電 話 を か け て み る | 各生徒ごとにそれぞれ状況を設定し、教師の携帯電話に電話をかける。 【状況の設定は、各生徒の日常生活の様子から必要性の高いものを設定する】 ・市民プールの入場料金を聞く。 ・登校途中パンクしてしまい、学校に遅れる。 ・友達と遊ぶ約束をする。 | | | 1 |
| | 【教師は分からなかった項目や内容を強調したやりとりをし、その様子を録音しておく】 | | | |

| | | | | |
|------------------|--|--|--|---|
| 電話で話す内容を考える | <p>前時の録音を聞き、何がうまく伝えられなかったのか、何が足りなかったのかを話し合ったり、足りなかったことをまとめたりする。また、マナー的な内容（相手の確認、お礼のあいさつなど）や間違えた場合の対応などを考える。</p> <p>【前時までの反省をヒントにする】</p> <p>できた生徒から、メモを見ながら教師の携帯電話に電話をかける。</p> <p>【教師は電話を受け、必要な内容が不足している場合は、「あなたは大人の人ですか」などと問い返し、伝えなくてはならない内容に気づけるような受け答えをする】</p> <p>不足していた内容を考え、再チャレンジする。</p> <p>【考えられないようであれば、何を聞き返されたか思い出すように促す】</p> | 【話すべき項目を記したヒントカードを参考にする】 | 3 | |
| いろいろな場面で電話をかけてみる | <p>前時までと同様に、各生徒は次のような設定された状況について、学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太田行きの電車の時刻を知りたい。 ・〇〇デパートの休業と閉店時間を知りたい <p>【ポートフォリオノート等の利用を促す】</p> <p>【電話の様子を聞き合い、生徒同士で足りない部分を指摘し合ったり、評価し合ったりする場面を設定する】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・風邪を引いたので学校を休みたい。 ・自転車屋に自転車のパンクを直す依頼をする。 <p>【状況ごとのヒントカードを用意し、利用を促す】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・友達の母親に遊びに行っているか確認する。 <p>【前時までの内容が、自信を持ってできるようになったら行うようにする】</p> | 5 |
| 電話番号調べ | 電話番号の調べ方、電話帳の使い方を学習し、次時にかける相手先の電話番号を調べる。 | | 1 | |
| 実際に電話をかけてみる | <p>教師ではなく、実際に外部に電話を試みる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボウリング場に料金を問い合わせた上、予約する。（未習） | <ul style="list-style-type: none"> ・自転車屋に自転車のパンクを直す依頼をする。（既習） | <ul style="list-style-type: none"> ・友達の母親に家に遊びに行っているか確認する。（既習） <p>【一度練習をしてからかけるようにするとともに、どうしてもつまってしまったときは「すみません、かけ直します」と言うことを教えておく】</p> | 1 |
| 反省 | これまでの反省を行う。 | | 1 | |
| 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、何を話したらよいか考えている。 ・電話のマナーや言葉遣いを意識して、電話をしようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントカードを参考に、話す内容を考えている。 ・電話のマナーや言葉遣いを意識して、電話をしようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントカードを参考に、話す内容を考えている。 ・メモを見ながら、電話で伝えるべきことを伝えようとしている。 | |

3 一単位時間の指導計画例について

全12時間中11時「実際に外部に電話をかける」学習

(1) 本時のねらい

- A ボウリングの予約をするにはどんなことを話したらよいか考え、ボウリング場に電話をかけ、予約することができる。
- B 自転車のパンクを直す依頼をするにはどんなことを話したらよいか、ヒントカードを基に考え、自転車屋に電話をかけ、依頼することができる。
- C 友達の母親に電話をかけ、今度の休日に遊びに行ってもよいか聞くことができる。

- (2) 準備 メモ用紙、ヒントカード、コードレスホン、携帯電話、ポートフォリオノート、評価表
 (3) 展開

| 活動の流れ | 時間 | 活動のねらいと支援 | | |
|-------------|-----|---|--|--|
| | | A | B | C |
| 活動の確認 | 5分 | <p>本時の学習内容について理解することができる。</p> <p>本時の学習内容（各自、外部に実際に電話する）を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボウリング場に、1ゲームの料金を聞いた上で、9名で次の土曜日に2ゲーム予約する。（未習） ・自転車屋に自転車のパンクを直す依頼をする。（既習） ・友達（Cとも親しい）の母親に、今度の日曜日に遊びに行ってもよいか確認する。（既習） | | |
| 話すべき内容を考える | 15分 | <p>話すべき内容を考え、メモやヒントカードにまとめる。</p> <p>ボウリングの予約をするために、伝えるべき内容を考えることができる。</p> <p>【分からなくなったり、不足したりしていたら、これまでの学習内容を書いたポートフォリオノートを見るよう促す】</p> <p>「1ゲームの料金は」「人数」「ゲーム数」「中学生」「次の土曜日」「2ゲーム」などの内容を考えている。</p> | <p>自転車屋にパンクを直してもらい依頼をするために、伝えるべき内容を考えることができる。</p> <p>【分からなくなったり、足りない部分があったりしたら、話すべき項目を書いたヒントカードの利用を促す】</p> <p>ヒントカードを利用し、「自転車がパンクした」「直してほしい」「これから持っていく」等の内容を考えている。</p> | <p>友達の母親に、今度の日曜日に遊びに行ってもよいかたずねるために、伝えるべき内容を考えることができる。</p> <p>ヒントカードを利用し、「今度の日曜日に」「自分の家に遊びに行きたい」「行っていいか」等の内容を考えている。</p> |
| 電話の練習 | 15分 | <p>教師との電話で、伝えるべき内容を伝えることができる。</p> <p>コードレスホンを使って教師の携帯電話に電話をし、練習をする。</p> <p>【話す内容が分からなくなったり、言い忘れがあったりしたときは、「は？」と気づかせるような対応をする】</p> | <p>【話す内容が分からなくなったり、次回から話したことをチェックするとよいことを伝える】</p> | <p>【最初は教師側から話しかけ、緊張をとるようにする】</p> <p>【「今度の日曜日に」「遊びに行ってもいいですか」が言えたら賞賛する】</p> |
| 実際に外部に電話をする | 10分 | <p>実際にボウリング場に電話をかけ、ボウリングの予約をするために伝えるべき内容を伝え、予約することができる。</p> <p>メモを見ながら、実際に外部に電話をかける。</p> <p>【どうしても話しにつまってしまった場合は、「すみません、かけ直します」と言うことを伝えておく】</p> <p>【次に何を話すか分かるように、話をした項目のチェックを促す】</p> <p>伝えるべき内容を落とさず、言葉遣いを意識して電話をかけている。</p> | <p>実際に自転車屋に電話をかけ、パンクを直してもらい依頼をするために伝えるべき内容を伝えることができる。</p> | <p>実際に友達の家に電話をかけ、友達の母親に、今度の日曜日に遊びに行ってもよいか、たずねることができる。</p> <p>【学習目的や話せなくなった場合の対応を、事前に相手の方に話しておく】</p> <p>メモを見ながら、電話で伝えるべき内容を伝えている。</p> |
| 評価 | 5分 | <p>反省をする。</p> <p>【自己評価ができるように、生徒ごとに評価表を用意する】</p> | | |

国語 【例2】

1 年間指導計画例について

(1) 生徒の実態

本学習グループは、1年生2名(A、C)、2年生1名(B)で編成されている。1年生A、2年生Bは、ひらがなやカタカナ、日常よく使う漢字の読み書き等ができ、簡単な文章であれば、読んだり書いたりすることができる。1年生Cは、ひらがなやカタカナの文字は書けるが、文を書くときに文字が抜けてしまうことが多い。3名とも話し好きであるが、改まった場面で自分の気持ちや必要なことを伝えることは苦手である。こうした実態の3名の生徒に対する国語の指導を考えたときに、やはり、自分の気持ちや考えなどの内面を豊かに表現したり、人と豊かにコミュニケーションしたりする能力や、生活の中で身に付けた言葉の力を生活の中で十分発揮し、生かすことができる力を身に付けてもらいたいと考える。そこで、系統性にとらわれすぎることなく、以下のような観点から単元を考え、年間指導計画を編成した。

- ・生徒の日常生活や興味・関心、生徒たちが話したいこと、書きたいことに根ざした単元を設定し、自分の好きなことをたくさん話したり、書いたり、読んだり、聞いたりする中で、一人一人の実態に応じた必要な言語的内容を指導していく。
- ・人とかかわる力としての「ことば」の学習であるという認識に立ち、ドリル的な学習でなく、実際に人とことばを介して行う学習を大切にする。一人一人の実態の違いはあっても、それぞれの生徒が関連なく個々の内容を学習しているのではなく、他の友達と学習活動を共有し、お互いにやりとりをしながら学習が進められるような単元を設定する。

(2) 年間の指導目標

- ・自分の気持ちや考えなどの内面を豊かに表現したり、人と豊かにコミュニケーションしたりすることができる。
- ・身に付けた言葉の力を生活の中で十分発揮し、生かすことができる。

(3) 年間指導計画

< 週3時間配当 >

| 月 | 単元名 | 時間 | 主な学習活動 |
|---|-----------------------|----|--|
| 4 | 自分のことについて話したり、書いたりしよう | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な自己紹介の文を書き、自己紹介をする。 ・友達の自己紹介を聞き、さらに知りたいことを質問し合う。 ・それぞれの自己紹介をVTRに撮り、市内中学校特殊学級に送る。 ・自分の住所、氏名、年齢、生年月日、電話番号、学校名、家族の氏名等を覚え、言ったり、書いたりする。 |
| 5 | 手紙を書こう | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・新しい友達や先生のこと、新学年になったの決意等、知らせたいことを手紙に書く。 ・封書の書き方(住所、宛名、郵便番号等)を知り、手紙を出したい人宛に書いて、出す。 |
| | たくさん本を読もう ～図書館の利用～ | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館や市図書館の利用の仕方を知り、好きな本を借りて読む。 ・読書記録(書名、著者、登場人物、あらすじ)などを書く。 |
| | 作文を書こう ～市内特殊学級合同 | | <ul style="list-style-type: none"> ・合同校外学習のしおりやVTR、写真などを見ながら、思い出を自由に話し合う。 |

| | | | |
|---------|-------------------------------------|----|--|
| 6 | 校外学習の様子をみんなで作文にしよう ～ | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの生徒の書きたい部分について一文ごとにカードに書く。 ・カードを黒板に貼り、互いに見合っ、時間を追って並べ替えるとともに、漢字に直したり、表記の間違いなどを直したりする。 ・互いに話し合い、様子や気持ちの表現をふくらませていく。 ・完成した作文を視写したり、ワープロで打ったりする。 |
| 7 | 手紙を書こう ～ 暑中見舞いを出そう～ | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・暑中見舞いの文面やデザインを考え、ワープロで作成する。 ・はがきの書き方（住所、宛名、郵便番号等）を知り、出したい人宛に書いて、出す。 |
| 9 10 | 劇のシナリオを作って劇をしよう | 24 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で各自が劇にしたい話の本を探して読み、その登場人物、あらすじなどをまとめ紹介し合う。 ・劇にする物語を決め、劇のあらすじ（いくつかの場面）や登場人物、配役等を決める。 ・場面ごとに、背景や登場人物の動き、セリフなどを話し合ったり、実際に演じ合ったりしながらシナリオを作る。 ・セリフを覚え、大きな声で演じる練習をしたり、気持ちや動きの表現を皆で考えて演じる練習をしたりして劇を作り上げ、文化祭等で発表する。 |
| 11 | 作文を書こう ～ 運動会や合唱祭、宿泊学習のことを作文に書こう～ | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動会や合唱祭、宿泊学習などの中から題材を選び、原稿用紙に体験したことや感じたことを順序立てて書く。 ・読み直して、表記の間違いや漢字に直せるところを直し、書き直す。 ・作文の発表会をし、互いの作文の感想を述べ合う。 |
| 12 | 手紙を書こう ～ 年賀状を出そう～ | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・年賀状の文面やデザインを考え、ワープロで作成する。 ・はがきの書き方（住所、宛名、郵便番号等）を確認し、出したい人宛に書いて、出す。 |
| 1 | 書き初めをしよう | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・半紙に書く。 ・条幅紙に書く。 ・はがき大の手漉き和紙に書く。 |
| 2 3 | 学級文集を作ろう | 15 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに書いた作文を読み合い、感想を述べ合う。 ・必要に応じて推敲したり、書き足したりする。 ・作文に表紙をつけて製本し、お世話になった人に贈る。 |

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「作文を書こう

～ 市内特殊学級合同校外学習の様子をみんなで作文にしよう～」

(2) 単元について

大きな学校行事等が終わったあと、そのことを題材に作文を書くという学習はどこでも取り上げられる学習である。生徒たちは楽しい経験をし、そのことを誰かに伝えたいという気持ちを強く持っており、心の中にはそのときどきの気持ち、ことばがたくさん詰まっている。本グループの生徒も、VTRなどを見ると互いに「あのときはこうだった」と言い合う。しかし、いざ作文という形で原稿用紙に向かってみると、思いつくままに「 しました」「 しました」とパターン化した事実の羅列で終わってしまい、自分の気持ちやそのときの様子などはなかなか詳しく表現できないのが実態である。そこで、市内特殊学級合同で行った校外学習の思い出を、一人一人が書いた文

をもとにしてみんなで話し合いながら、より豊かな表現の一つの作文にまとめていく活動を通して、互いの表現のよい面や表現の仕方を学び合おうという単元を設定した。本単元で学んだことを生かし、2学期の単元「作文を書こう」では、各自が自分の作文をより豊かな表現に書き換える学習をしていきたいと考える。

(3) 単元に関する生徒の実態

| | A (1年) | B (2年) | C (1年) |
|-------|---|--|--|
| 文章を書く | 順序を追って経験したことを文にすることができる。気持ちや様子も言葉で表現できるが、想起の範囲が狭く、決まったパターンになりがちである。 | 順序を追って経験したことを文にすることができる。気持ちや様子を表す言葉の語彙に乏しいが、話しながら言葉を引き出してやると表現できる。 | 「 しました」の文の羅列であるが、思いついたところから経験したことを文にすることができ、しおり等を見れば時間順に並べ替えられる。 |
| 表 記 等 | 実際の文章の中で使うことは難しいが、文と文の関係や接続語は分かり、提示すれば選択できる。 | ときどき促音や拗音を抜かしたり、助詞の使い方を間違えたりするが、指摘すれば気づいて訂正できる。 | ときどき促音や拗音を抜かしたり、表記を間違えたりするが、指摘すれば気づいて訂正できる。 |
| 漢 字 | 日常よく使う漢字について、文章の中で使うことができる。 | 文章の中でなかなか使えないが、漢字に直す場所を指摘されれば直せる。 | 日常よく使う漢字については、読み書きできるが文章の中で使えない。 |

(4) 単元のねらい

- A ・ 文の構成要素を意識して、合同校外学習の作文をより詳しい文にすることができる。
 - ・ 適切な接続語を考えたり、助詞の誤りを直したりすることができる。
- B ・ いろいろな述語を考えたり、様子や気持ちを表す言葉を使ったりして、合同校外学習の作文を膨らませることができる。
 - ・ 状況に最も合った主語を考えたり、辞書を利用してできる限り漢字に直したりできる。
- C ・ 気持ちを表す言葉を使って合同校外学習の作文を膨らませることができる。
 - ・ 状況に合った主語を考えることができる。

(5) 指導方針

- ・ 3人がそれぞれ書いた文を、皆で話し合いながら表現を膨らませ、一つの文章に作る活動を通して、豊かな表現を学べるようにする。
- ・ 最初から書くのではなく、校外学習の思い出についてV T R等を見ながら十分話をする時間を確保し、そのつづやきなどをもとに表現を膨らませることができるようにする。
- ・ 表記や漢字、接続語など、それぞれの生徒の課題となる内容を学ぶ時間も確保する。
- ・ 3人それぞれが学習した内容も、必ず全員の前で確認し、学び合えるようにする。
- ・ 文を書いたり、表現を膨らませたりする際、これまでの学習を集積したポートフォリオノートや校外学習のしおり、写真、V T R等の他、生徒に応じて次のような支援を行う。

A：文の構成要素（下記のようなもの）を意識したり、チェックしたりできるように、構成要素表を用意したり、それを意識できるような質問を行ったりする。

行為者（だれが） 対象（何を） 行為（どうした） 手段・材料（何で）

目的（何のために） 相手（だれに、だれと） 原因、理由（なぜ）

時間（いつ） 感想（どうだった、どう思った）・・・等

B：一つの主語に対する述語をたくさん考えてみるよう促す。

C：気持ちや様子の表現を引き出せるように、「このときの気持ちは？」等の質問をする。

(6) 単元の展開

< 全12時間計画 >

| | 学 習 活 動 及 び 支 援 【 】内：支援 | | | 時 間 |
|-------------------------------------|---|---|--|--------|
| | A | B | C | |
| 合同学習 の思い出 を話す | 市内特殊学級合同校外学習の思い出を自由に話し合う。 【様子を思い出しやすいように、しおりやVTR、写真などを活用する】 【文をふくらます際に活用できるよう、話し合いを録音しておく】 自分で作文に書きたい場面を決める。 | | | 1 |
| 思い出を 文にする | 自分の担当箇所について、書きたい内容を一文ずつカードに書く。 【多少の不適切な表現があってもここで直すのではなく、とにかく思いつくままに書けばよいことを伝え、意欲的に書けるようにする】 | | | 2 |
| 間違いを 直したり、 漢字で書 いたりす る | それぞれが書いたカードを黒板に貼り、それを基に次の学習を行う。 助詞の間違いや表記の間 違いを探し、直す。 【いろいろな助詞に言い換 えてみるよう促す】 直した内容を互いに発表し合い、確認する。 | 漢字で書けるものは漢字 に直す。 【辞書の使用を促す】 | 時間順に並べ替える。 【しおりの日程表を参考に するよう促す】 | 1 |
| みんなで 話し合い ながら、 文を膨ら ませる | それぞれが書いた場面ごとに、みんなで話し合いながら、様子や気持ちの表現を膨らませ、カードに書き足していく。 【より豊かな表現を引き出せるように、生徒に応じて次のような質問をしたり、録音しておいた話し合いの様子を聞かせたりする】 【文の構成要素表を基に、「何 でうれしかったの？」等、 より詳しい表現を引き出す ような質問をする】 接続語を考え、書く。 【いろいろな接続語を書い たカードを用意しておく】 | 【一つの主語に対する述語 をたくさん考えてみるよう 促す】 主語が抜けている文の主語を考える。 【考えやすいように述語に線を引く】 | 【気持ちや様子の表現を引 き出せるように、「このとき の気持ちは？」等の質問を する】 | 6 |
| できた作 文を書く | 完成した作文をワープロで打つ。 【ローマ字対応表を用意しておく】 | | 完成した作文を視写する。 【一文ごとに読んで確認す るよう促す】 | 2 |
| 朗読する | 完成した作文の朗読をする。 | | | 1 |
| 評価規準 | ・文の構成要素を考え、文 をより詳しくしようとして いる。 ・適切な接続語を考えたり、 助詞の誤りを指摘したり している。 | ・いろいろな述語を考えたり、 様子や気持ちを表す 言葉で表現している。 ・動作の主語を考えたり、 できる限り漢字に直そう としていたりしている。 | ・体験した順序を考えたり、 気持ちを表す言葉を使っ たりして表現している。 ・動作の主語を考えている。 | |

3 一単位時間の指導計画例について

全13時間中の第5時「電車に乗っている場面の作文をみんなで膨らませる」学習

(1) 本時のねらい

- A 電車に乗っている場面について、より詳しい表現を考えたり、適切な接続語を使って文と文をつないだりすることができる。
- B 電車に乗っている場面について、いろいろな述語を考えたり、主語を考えたりできる。
- C 電車に乗っている場面について、様子や気持ちを表現したり、主語を考えたりできる。

(2) 準備 自分たちで書いた文のカード、磁石、話し合いの際の録音テープ、接続語カード

(3) 展開

| 活動の流れ | 時間 | 活動のねらいと支援 | | |
|----------------|----|--|--|---|
| | | A | B | C |
| 活動確認 | 5分 | <p>本時の学習活動について理解できる。</p> <p>本時の学習内容を確認し、本時に学習するカードを黒板にはる。</p> | | |
| 話し合いながら文を膨らませる | 25 | <p>みんなで話し合いながら、より豊かな表現の文にすることができる。</p> <p>電車に乗っている場面の作文を基にして、みんなで話し合いながら、様子や気持ちを表す表現を膨らませ、カードに書き足していく。</p> <p>【最初に書いた文と後から膨らませた文を意識できるよう、書き足したものは赤で書く】</p> <p>【話し合いの時のテープを聴かせ、その際の発言やつづやきを言葉に直すようにする】</p> <p>例 「電車の窓から変なビルが見えました」</p> <p>録音：「ウンコみたいってみんな言ってたよね」</p> <p>「電車の窓から変なビルが見えました。ウンコみたいとみんなが言っていました」</p> <p>【話し合いの際、生徒に応じて次のような質問をして、言葉を引き出していく】</p> <p>【文の構成要素表を基に、書かれていない要素について引き出すような質問をする】</p> <p>例 「ぼくはうれしかったです」</p> <p>理由：「何でうれしかったの？」</p> <p>「僕は さんと隣の席に座れてうれしかったです」</p> <p>理由や目的、相手等の観点で文を膨らませている。</p> | <p>【一つの主語に対する述語をたくさん考えてみるよう促す】</p> <p>例 「電車は速かったです」</p> <p>「赤かったです」</p> <p>「東武のりょうもう号でした」</p> <p>「 駅と 駅に止まりました」</p> <p>一つの主語に対していろいろな述語を考えている。</p> | <p>【気持ちや様子の表現を引き出せるように「このときの気持ちは？」等の質問をする】</p> <p>例 「 さんたちと菓子を食べてました」</p> <p>「 さんたちとお菓子を食べてとても楽しかったです」</p> <p>気持ちを表現する言葉を考えている。</p> |
| 各自の学習 | 10 | <p>適切な接続語を考えることができる。</p> <p>文と文の関係を考え、適切な接続語を書く。</p> <p>【わからないときは、選択できるように、接続語を書いたカードを用意しておく】</p> <p>文と文の関係を考え、適切な接続語を考えている。</p> | <p>文の主語を考えることができる。</p> <p>文を読み、主語（「だれが」）が抜けているものについて、主語を考える。</p> <p>【より状況に合った主語はないか考えられるように、例を挙げる】例：「私」「私たち」</p> <p>より状況に合った主語を考えようとしている。</p> | <p>【考えやすいように、述語に線を引いておく】</p> <p>状況に合った主語を考えている。</p> |
| 朗読 | 10 | <p>できたところまでを一人一人朗読する。</p> <p>【最初に書いた文と後から膨らませた文を意識できるよう、両方の文章を読むようにする】</p> | | |

数学 【例 1】

1 年間指導計画例について

(1) 生徒の実態

本学級には、1年生Aと3年生Bの2名の生徒が在籍している。Aは、「数と計算」では30までの数唱が可能で、10までのものを数えたり、10まで数字を読んだり書いたりできる。和が5以内であれば加算もできる。「量と測定」では、極端に長さの差がある場合に「長い・短い」が分かり比較できる。「図形」では、上下・左右の位置関係が分かり、図形は概形で「まる・さんかく・しかく」と言える。Bは、「数と計算」では100までの数唱が可能である。20までのものを数えたり、2位数の数字を読んだり書いたりできる。和が10以内に加算ができるが間違いが目立つ。「量と測定」では、直接比較で「長い・短い」が分かる。今日の日付や曜日も分かる。「図形」では三角形・四角形の形を弁別して描くことができる。生活場面では、Aはまだ自分でお金を用意できず、Bは単一の金種であればある程度用意できるものの、お金を使うのは主に自動販売機である。二人ともほとんど家族に欲しいものを買ってもらっている。

二人が身に付けた各領域（「数と計算」「量と測定」「図形」）の内容をより生活の中に利用できるように発達段階に合わせて基礎的な内容を設定していきたい。また、二人の年齢までには、お小遣いをもらい、好きな物を買いにどこにでも行けることを考えると、金額に合わせてお金が用意でき、買い物できるという満足感を持たせていきたい。その手だてとして、数についての基礎的な学習「20までの数」を積み重ね、その力を使い3けたの金額の各位の数に各金種を単に対応させて用意できるようにしていく。また、時刻に合わせて行動している年齢であることを考えると、時計が読めないAやまだ時が分かる段階のBには、時刻（～時～分）が分かり、時間に合わせて行動できるようにしていきたい。

(2) 年間の指導目標

- <全体> たし算や長さの比較，形の特徴などを生活の中に利用できる。
 3けたの金額であれば自分からちょうどのお金を用意して買い物ができる。
 時計を見て何時であるか分かり、おおよその時刻から行動できる。

(3) 年間指導計画

<週4時間配当>

| 月 | 単元名 | 時間 | 主な学習内容 (B)はBのみの学習内容 |
|---|-------------------|----|---|
| 4 | 10までの数 (合成・分解) | 6 | 5までの数の合成・分解 ・あめ取りゲームをする。赤と青のあめが4個ずつ入った袋からあめを5個取って、取り方を調べる。 ・5の合成と5の分解 ・1～5個のブロックで、隠したブロック数を当てる。 |
| | | 28 | 10までの数の合成・分解 ・ブロックやコインを使って6、7の合成分解をする。 ・数当てゲームやブロックを使って8、9の合成分解をする。 ・10の数当てゲームや5～10までの数の合成・分解のドリル学習をする。 6から10までの数を「5のまとまりといくつ」に分ける。 ・6～9までのタイルを5のまとまりの枠()と残りに分ける。 |

| | | | |
|----|---------|----|--|
| | | | ・10のタイルは5のまとまりの枠を2つ合わせる。 |
| 6 | たし算 | 8 | 式の表し方を知り、合わせる、増えるの場面をたし算として処理する。 |
| | | 2 | 0を含むたし算場面から0のたし算をする。 |
| 7 | | 8 | たし算の計算や文章問題のドリル学習をする。 |
| 9 | 20までの数 | 14 | 20 (Aは15) までの数の唱え方と数え方 <ul style="list-style-type: none"> ・具体物や半具体物 (11 ~ 20までの数) を数え、唱え方の練習をする。 ・絵カード (11 ~ 20までの数) のものを数える。 20 (Aは15) までの数の読み方と書き方 <ul style="list-style-type: none"> ・11 ~ 20までの数字の読み方を知り、読む。 ・絵カードのものの数を書く。 |
| 10 | 20までの大小 | 6 | 20 (Aは15) までの数の大小 <ul style="list-style-type: none"> ・カードゲームでカードの数を比べる。 ・20までの数を数直線に表す。 |
| | 順番 | 6 | 20 (Aは15) までの数の順序数 <ul style="list-style-type: none"> ・数字カードを順に並べる。 ・人形や車などを使って前から何番目・後ろから何番目かを答える。 |
| 11 | 買い物をしよう | 16 | お金の種類を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・補助貨幣以外の金種 (硬貨 1 円、10 円、100 円、紙幣 1000 円) の弁別。等価関係を知る。 ・10 円硬貨 = 1 円硬貨 10 枚を知り、両替をする。 3けたの各位の数字に各金種を対応させてちょうどの金額を用意する。 <ul style="list-style-type: none"> ・3けたの金額の読み方を知り、提示された3けたの金額を読む。 ・左から各位の数字に合わせて100円・10円・1円硬貨を並べる。 ・買いたい物の金額を提示し、ちょうどの金額を用意する。 ・3けたの金額の買い物をする。 ・硬貨 1 円、10 円、100 円を各 9 枚ずつ持ってコンビニで買い物をする。 |
| 12 | 何時かな | 12 | 時間と生活の関係を結びつける。 <ul style="list-style-type: none"> ・短針、長針を区別して 時の読み方を知る。(B) 分の読み方を知る。 ・デジタル時計の読み方を知る。(AM : 、 PM :) ・時間と生活行動を結びつける。(起床・食事・学校・帰宅・就寝など) ・(B) 時前、時すぎの表現を知る。 |
| 1 | どちらが長い | 8 | 長さの間接比較をする。(長い、短い、同じ長さの学習) <ul style="list-style-type: none"> ・棒やひもなどの長さを直接比較する。 ・本や机の縦や横の長さを間接比較する。 ・任意単位を使って間接比較する。 |
| 2 | 長さ | 18 | 長さを測ることに用いる単位 (c m) を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・長さの単位の必要性や長さの単位「 c m 」を知る。 ・ c m 単位の定規を使っていろいろな長さを測る。 |
| | 図 | | 身の回りの具体物の概形をとらえて、立体図形の機能や特徴を知る。 |

| | | | |
|---|------------------|---|--|
| 3 | 形 ゲ ー ム | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き箱を使って高く積み上げるゲームをする。 ・ 身の回りにあるものの概形をとらえて分類する。 ・ 袋の中から指示された形のものを取り出すゲームをする。 ・ 積木の面を写し取り、写した形を分類。写した形を使って絵を描く。 |
|---|------------------|---|--|

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「20までの数」

(2) 単元について

事象を取り巻く“もの”には個数があり、事象の中からものの数を正確にとらえることは多い。また、お金の支払いや時間の把握をはじめ、量の測定感覚など数と関連した生活上の課題の処理は数を基礎としている。特に、5まで、10まで、20までと数についての学習を積み重ねていくことは、数の概念をより確かなものにするとともに、数にかかわる生活上の問題への利用を広げていけると考える。

(3) 単元に関する生徒の実態

| | A (1年) | B (3年) |
|------------------|--|--|
| 数 唱 | 「・・・49、40」のような数え間違いがあるが、30までは正しく数えられる。途中の数からの数唱や下降方向への数唱はできない。 | 間違えずに100まで数唱ができる。10までの数については途中から下降方向に数えられる。 |
| 数唱 - 数字 - 集合数の対応 | 10までの数について対応ができています。 | 20までの数について対応できるが、10といくつのように分けずにとらえている。 |
| 計 数 | ものの数が10個を超えると間違いやすい。数えた数が全体の数として言える。 | ものの数が20個を超えると間違いやすい。数えた数が全体の数として言える。 |
| 数字の 読み書き | 10までの数字の読み書きができる。 | 2位数の数字の読み書きができる。 |
| | 「10までの数」の学習により、10までの数を2数の和として書ける。 | |
| 学習への 取組の様子 | 身近な具体物を使うことで数を扱う学習には進んで取り組める。いつも落ち着いて取り組める。 | 数を扱う際に、身近な具体物を使ってゲームをすることで、自分から進んで学習に取り組める。話好きである。 |

(4) 単元のねらい< ()の数字はAのねらいを表す>

20(15)までの数について数の数え方、読み方、書き方、数の構成「10と残り」を知り、身の回りの数を「10と残り」としてとらえ、表すことができる。

(5) 指導方針

- ・ A、B用の の枠の板を使って、10のまとまりがとらえやすいようにする。
- ・ 10を超える数は、10をまとめて「10と残り」としとらえられるようにする。Bには、さらに、できるだけ「10と10にたりない残り」としてとらえられるようにしていく。
- ・ Bについては、20は10が2つで20としてとられられるようにしていく。

- ・「10と残り」で「じゅう～」と命数法を指導してから、具体物やブロックを縦に並べて「10のまとまりと残り」にして、記数法「10のまとまりの数1を左、残りにあたる1～9を右に書く」の約束を視覚的にとらえられるようにしていく。

(6) 単元の展開

<全14時間計画>

| | 学 習 活 動 | | 支援及び留意点 | 評価規準 | |
|-------------------------|---|---|---|-------------------------------|---|
| B ・ (Aは15までの数を扱う) | 具体物や半具体物11～20までの数を数える。 ・マグネット、キャンディー、ブロックなどの数を数える。 ・11～20を順にブロックで並べる。 | 4 | ・10の枠の板を使い、慣れてきたら1列に並べ、10でひとまとめにして11から列を変えるようにする。 ・11からは「10と1で“じゅういち”」 ・・・・「10が2つで“にじゅう”」のように唱えることを伝え、慣れるまで教師と一緒に数える。 | ・身の回りのものを、10のまとまりと残りとして並べている。 | |
| | 20個までの半具体物を使っての数え方の練習をする。 ・絵カード(11～20までの数)のものを数える。 | 4 | ・数えた数が正しいか半具体物を1対1対応させて、10のまとまりと残りに分けて確かめる。慣れてきたら、10のまとまりを線で囲むことを知らせ、10と残り「じゅう～」と言えらるようになる。 | ・10のまとまりを意識して数えている。 | |
| | 11～20までの数字の読み方を知り、読む。 ・絵カードのものの数を数える。 | 2 | ・10のまとまりを線で囲んでから、数を数えるようにする。 | ・10のまとまりを意識して読んでいる。 | |
| | 11～20までの数字を書く。 ・絵カードのものの数を数える。 | 4 | ・数えた数を数字に表す方法を知らせる。例 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>□</td><td>□</td></tr></table> (左が10がいくつ、右に残りの数) | □ | □ |
| □ | □ | | | | |

3 一単位時間の指導計画例について

本時は、単元「20までの数」の全14時間予定の第9時である。

(1) 本時のねらい

< A > 10の構成「10と残り」を意識して15までの数の読み方が分かる。

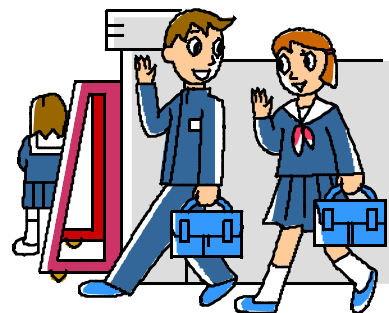
< B > 10の構成「10と残り」を意識して20までの数の読み方が分かる。

(2) 準備 箱、あめ35個、シール、シールをはる用紙、絵カード、マグネット

(3) 展開

| ねらい | 時間 | 学 習 活 動 と 支 援 | |
|--------------------------------------|----|--|---------|
| | | 【 】内：支援 | □内：評価規準 |
| | | A | B |
| ・ものの個数を数えるときに、10のまとまりをつくるよさに気づくことができ | | <p>・『ピッタリ～個にしよう!』のゲームをする。(箱に入っているあめをつかんで取り、ピッタリ～個だったらシールがもらえるゲーム)</p> <p>【Aは11～15個、Bは11～20個ぐらいつかるとなるようなあめを用意する】</p> <p>進んでゲームに取り組み、あめを数えている。</p> | |
| | | <p>・つかんだあめの数を数える。</p> <p>【Bがあめを10のまとまりと残りまで並べ、あめを10のまとまりと残りまで並べ</p> | |

| | | | |
|-------------------------------------|------------|---|--|
| <p>る。</p> | <p>30分</p> | <p>べている姿を知らせ、10と残りに分けて並べると分かりやすいことに気づくようにする】</p> <p>10のまとまりを作ると個数が分かりやすいことに気づく。</p> <p>・取り出したあめを10のまとまりと残りに分けて並べたら教師に報告する。 【10のまとまりを囲んで「じゅうと」、残りを囲んで「～で」、「じゅう～あるんだね」とフィードバックする】</p> <p>10のまとまりを一行に作って並べている。</p> | <p>ている姿が見られたら、分かりやすいことを伝え賞賛する】</p> <p>10のまとまりを一行に作って並べている。</p> <p>・取り出したあめを10のまとまりと残りに分けて並べ、残りがいくつあるか示して「じゅう～」と報告する。 【「これが10で、こっちが～だから“じゅう～”なんだね」とフィードバックする】</p> <p>残りの個数を確かめることで全体の個数を確かめている。</p> |
| <p>・10のまとまりを線で囲むことができる。</p> | <p>15分</p> | <p>・絵カードのものの数を数える。 【ばらばらなものも10のまとまりを線で囲んでみるとわかりやすいことを伝える。「10と～」だから「じゅう～なんだね。」をフィードバックする】</p> <p>10数えたものを線で囲んでいる。</p> | |
| <p>・10のまとまりと残りで「じゅう～」と読むことができる。</p> | <p>5分</p> | <p>・『いくつある?』で10のまとまりと残りに並べたマグネットの数を読む。 【答えに対して「これが“じゅう”で、こっちが“～”あるから「じゅう～あるんだね」とフィードバックする】</p> <p>10のまとまりと残りで「じゅう～」と読んでいる。</p> | <p>【19までの答えに対しては「これが“じゅう”で、こっちが“～”あるから「じゅう～あるんだね」、20の場合は、「じゅうが2つで“にじゅう”だねとフィードバックする】</p> <p>残りの数で「じゅう～」や「にじゅう」と読んでいる。</p> |



数学 【例 2】

1 年間指導計画例について

(1) 生徒の実態

本学級には、1年生Aと2年生Bの2名の生徒が在籍している。Aは「数と計算」では、繰り上がり、繰り下がりのたし算やひき算ができ、20までの数についての大小が言える。「量と測定」では、定規を使ってcm単位であれば長さの測定ができ、今日の日付や曜日が分かり、時刻が言える。「図形」では、定規を使って直線がかけられるが、図形の名称や特徴は知らない。Bは「数と計算」では、1000までの数を学習し、十進位取りのしくみを知り、1000までの数を書いたり読んだりできるようになった。数の大小は、100まで不等号を使って表せるようになった。3位数のたし算やひき算の他に1けた同士のかけ算ができるようになっている。「量と測定」では、長さについてcm、mm単位で長さの測定ができる。日付や曜日、時刻が分かり、5分前や10分前が言える。「図形」では、図形の学習で、定規を使って三角形や四角形をかくことができる。

生活場面では、Aは同一の金種であれば数えられ、ジュース代などよく使う金額は用意できるので、「100までの数」について学習を設定することで、3けたの金額ちょうどのお金を用意して支払う学習を通して1000円までの金額の買い物ができるようにしていきたい。Bは買い物学習により3けたの金額であればちょうどのお金を用意できるようになった。そこで、手持ちのお金で買い物ができるように、金額よりも大きなお金を用意して買い物できるようにしていきたい。時間については、時刻が分かるので、時間のしくみを知り、時間を考えて行動できるように時間や分の差が求められるようにしていきたい。また、AやBが身に付けた計算の応用や量の数値での比較、基礎的な図形の内容などの学習を設定することで、より生活の中の事象場面の課題に利用できるようにしていきたい。

(2) 年間の指導目標

<全体> 時間のしくみを知り、時間や分の差を求めることができる。

<個別>

A 3けたの金額について自分からちょうどのお金を用意して支払い、買い物ができる。
たし算やひき算、量の比較、図形の特徴を、生活の中に利用できる。

B 3けたの金額について自分から持っているお金を工夫して支払い、買い物ができる。
たし算やひき算、かけ算、量の数値化、図形の特徴を、生活の中に利用できる。

(3) 年間指導計画

<週4時間配当>

| 月 | 単元名 | 時間 | 主 な 学 習 内 容 (B)は、Bのみの学習内容 |
|---|----------|----|--|
| 4 | 1000までの数 | 16 | <ul style="list-style-type: none"> 10ずつまとめて数える。 ・袋に入っているお金(1円硬貨)はいくらか調べ、10のまとまり、100のまとまりを作る。 ・(B)100の束を10まとめて1000であることを知り、プリントの中の100の棒やタイルの束から1000のまとまりを作る。 ・短冊の表に1円硬貨10枚、裏に10円硬貨1枚をはり、等価を知る。 ・短冊10枚を数えて100円になり、10円硬貨10枚で100円硬貨と同じであることを知る。 ・(B)100円10枚で1000円になることを知り、1000円の両替をする。 |
| | | | 千の位(B)、百の位、十の位、一の位を知る。 |

| | | | |
|----|---------------------------------|----|---|
| 5 | 10000 までの 数 | 16 | <ul style="list-style-type: none"> ・プリントの中の動物やタイルの数を数字に表す。 ・提示したお金を金額数に表す。3けたの金額数からちよんどのお金を用意する。 ・(B)4けたの金額数からちよんどのお金を用意する。 |
| 6 | 順番と 大小 | 16 | <p>1000 (Aは100)までの数の順序や大小</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな目盛りで数直線を作り、数の大小比較をする。 ・不等号を使って2数の大小を表す。 |
| 7 | 買 い 物 を し よ う | 18 | <p>3けたの金額の買い物をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな3けたの金額ちよんどを用意する。 ・コンビニで買い物をする。 ・教室での模擬店でちよんどの金額を支払う練習をする。 |
| 9 | | | <p>(B)3けたの金額で少し大きなお金を用意する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(B)少し大きなお金でも買えることを知る。 ・教室での模擬店で買い物をする。 ・(B)100円硬貨9枚と10円硬貨9枚だけで買い物練習をする。 ・(B)100円硬貨9枚だけで買い物練習をする。 ・コンビニで買い物をする。 ・(B)持っていく金種を決めておく。 ・(B)教室での模擬店で買い物をする。 |
| 10 | たし算 ひき算 かけ算 | 14 | <p>たし算やひき算の応用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たし算やひき算の文章問題を解く。 ・たし算やひき算の問題作りをする。 <p>(B)かけ算の応用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(B)かけ算でいろいろなもの数の求める問題を解く。 ・(B)かけ算の問題作りをする。 |
| 11 | か さ | 24 | <p>かさの保存</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形の違う2容器を使って一定量の水を移動し、戻す。 <p>かさの比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接比較の操作を知り、2容器の入る容量を水を媒介に比較する。 ・形が異なり、入っている水の量を第3の同形の容器で間接比較する。 <p>かさの測り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定容器のマスを使って量の比較。 |
| 12 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな容器に入る水の量を自作のマスで何杯か調べ、容量を比較。 ・(B)かさの「単位」の必要性 ・提示した容器の中の水の量をいろいろなマスで何杯か調べ、比べる。 ・(B)かさの普遍単位「d l」 ・普遍単位「d l」を知り、いろいろな容器の水の量が～d lか調べる。 |
| 1 | 時 間 の し く み | 18 | <p>時間のしくみを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日 = 24時間、1時間 = 60分、1分 = 60秒を知る。 ・時間や分の差を時計から読み取ったり、計算したりする。 ・「時から時まで何時間?」「あと何分で時?」を求める。 <p>時刻表の見方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時刻表示 : の意味、13時～24時の理解、表の見方を学習する。 |
| 2 | | | 三 角 形 と 四 角 |
| 3 | | | |

| | |
|---|---|
| 形 | ・正三角形や二等辺三角形、三角形を弁別する。 三角形、四角形の板でいろいろな形作り。 |
|---|---|

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「買い物しよう」

(2) 単元について

自立した生活には買い物は欠かせない活動の一つである。また、自分から好きな物を買に行きたいという楽しみは働くことの生きがいにつながる。そのためには、「持っているお金に応じて金額に合わせてちょうどのお金を用意したり、お釣りがもらえるように大きいお金を用意したりする力」をつけることが必要であると考え。これらの力は、生活の中で自分から買い物する自信と経験を持たせることができると考える。

(3) 単元に関する生徒の実態について

| | A (1年) | B (2年) |
|---------------|---|---|
| 円を付けて数える。 | 同一の金種であれば「円」を付けて数えられる。 | 1円、10円、100円硬貨、千円札の組み合わせで、それぞれ9枚を超えなければ「円」を付けて数えられるようになった。 |
| 両替する。 | 10円の両替ができるようになった。 | 10円や100円の両替ができるようになった。 |
| 金額に合わせてお金を出す。 | 「10000までの数」の学習により、1円、10円、100円硬貨(Bは千円札も含め)がそれぞれ9枚あれば、Aは各位の数字に金種を並べる板を使うと3けた、Bは4けたの金額ちょうどのお金を用意できるようになってきた。 | |
| 買い物経験 | 買いたいものは、親と一緒に店に行き、買ってもらう。自分でお金の支払いをする機会が少ないので、好きなものを買いたいという希望を持っている。 | |
| 学習への取組の様子 | 間違いに気づくと落ち着かなくなることもある。お金には興味を持って取り組める。 | 自分で買いたい物があるため、買い物学習に興味を持ち、落ち着いて取り組める。 |

(4) 単元のねらい

< A > 1000円までの金額について、金額の読み方や書き表し方が分かる。

十進位取り記数法の原理に着目して一や十、百の位にそれぞれ1円硬貨、10円硬貨、100円硬貨を対応させ、1000円までの金額ちょうどのお金を用意することができる。

< B > 数の大小関係から1000円までの金額について、示された金額より大きなお金を用意することができる。

(5) 指導方針

- ・お金を使う操作活動では、実際のお金(1円硬貨、10円硬貨、100円硬貨、1000円札)を使用し、お金を使うことへの意識を持てるようにしていくが、10000円以上のお金を扱う学習に備えてBには、模擬貨幣も使用する。
- ・興味・関心が持てるように互いに問題を出し合う機会や、実際にお金を用意して使う学習を設定していく。
- ・学習内容の定着が図れるように、Aには、いろいろな金額ちょうどを用意するドリル学習を取

り入れ、特に、空位の0を含む金額や、2けた、1けたの金額を用意する場合も意図的に設定する。Bには、いろいろなお金の中から金額に合わせてお金を用意するドリル学習を取り入れる。

(6) 単元の展開

<全18時間計画>

| 生徒 | 学習活動 | 時間 | 支援及び留意点 | 評価規準 |
|----|---|----|---|---------------------------|
| A | ・提示された3けたの金額ちょうどのお金を用意する | 8 | ・金額数からちょうどのお金を用意できないときには、3けたの数字に□□□の枠を補い、百の位の数字には百円硬貨の数に対応するように、各位の数字に対応させて各金種を用意することを思い出せるようにする。 ・お金が用意できたら、金額数の読み方を確認する。 ・空位0のけたのある金額を意図的に出題する。 | ・各位の数字に合わせて金種が用意できる。 |
| | ・金額数からちょうどのお金カードをはる問題や、お金の絵から金額数を記入する問題に取り組む。 | 6 | ・間違った問題は、そのつまづきを伝え、再度挑戦できるようにする。 ・金額や用意したお金の読み方を確認する。 | ・金額の読み方が分かる。 |
| | ・コンビニに好きな物を買に行く。 | 2 | ・100円硬貨9枚、10円硬貨9枚、1円硬貨9枚を財布に入れてちょうどのお金を用意できるようにする。 ・店員が口頭で伝える金額は忘れやすいため、レジの表示金額を見るように促す。 ・コンビニでの買い物の様子をビデオで記録することで、初めての自分での買い物の様子が振り返れるようにする。 | ・自分から進んで買い物をしようとしている。 |
| | ・コンビニでの買い物を振り返って教室での模擬店でちょうどのお金を支払う練習をする。 | 2 | ・ビデオの記録から注意する点を停止させて、注目できるようにする。 ・ビデオの記録から評価して、各自の課題をお金の用意に生かせるようにする。 | ・レジの金額を見ながらちょうどのお金を用意できる。 |
| | ・2けたの金額で10円硬貨9枚だけで買えることを知る。 ・2けたの金額で10円硬貨9枚で少し大きいお金を用意する練習をする。 | 2 | ・例36円ならば36から順に大きい数を数えてちょうど40になるところで止めて、40円を出せば買えることを知らせる。 ・慣れるまでは金額から用意できる大きな数を数えることで結びつける。 ・数える手がかりに慣れるまでは、一緒に数えて十単位の数で止められるようにする。 | ・2けたの金額数で少し大きなお金を用意できる。 |
| | 3けたの金額で100円 | | ・最初は2けたと同じように金額数から数えて | ・3けた |

| | | | | |
|---|---|---|---|--------------------------|
| | 硬貨 9 枚、10 円硬貨 9 枚で買えることを知り、少し大きなお金を用意する練習をする。 | 4 | いく方法を手がかりとしていく。 | の金額で少し大きなお金を用意できる。 |
| | 教室での模擬店で100円硬貨と10円硬貨9枚ずつだけで3けたの金額の買い物練習をする。 | 2 | ・お店で戸惑わずスムーズにできるまで練習をする。時間がかかる場合は、金額より少し大きなお金を用意する練習に取り組み、早く用意できるようにする。 | ・自分から少し大きなお金を用意して買い物できる。 |
| B | 100円硬貨9枚、10円硬貨9枚でコンビニで買い物をする。 | 2 | ・レジの金額を見るように伝えておき、いくら用意すればよいか自分から確認できるようにする。 ・金額より少し大きなお金を出すことに戸惑いがみられる場合は、金額数から一緒に数えるヒントを与え、用意できるようにする。 | |
| | 100円硬貨9枚だけで3けたの金額より大きいお金を出す練習をする。いろいろな金額より大きなお金を出すドリル学習に取り組む。 | 4 | ・100円硬貨9枚を並べておき、金額数より大きな100円硬貨で出せる金額を100円硬貨を数えながら考えられるようにする。 | |
| | 持っていく金種を決めてコンビニで買い物をする。 | 2 | ・教師が持っていく金種を決め、自信を持ってスムーズに金額より大きなお金が出せるようにする。 | |
| | コンビニでの買い物を振り返り、教室での模擬店で金額より大きなお金を支払う練習をする。 | 2 | ・ビデオの記録から注意する点を停止させて、注目できるようにする。ビデオの記録から評価して各自の課題をお金の用意に生かせるようにする。 | |

3 一単位時間の指導計画例について

本時は、全18時間予定の第17時。コンビニでの実際の買い物を振り返り、買い物が確実にできるように自信や満足感をもたせる学習である。

(1) 本時のねらい

- < A > ・表示の金額に合わせて、ちょうどのお金を用意して買い物することができる。
- < B > ・表示の金額より少し大きなお金を用意して、買い物することができる。

- (2) 準備 生徒：財布、お金 A (1円硬貨9枚、10円硬貨9枚、100円硬貨9枚)
B (10円硬貨9枚、100円硬貨9枚)

教師：テレビ、ビデオ、ビデオテープ、コンピュータ(レジの金額表示に使用)
食品数種類、ビニール袋5、金額表示用画用紙数枚、マジック

(3) 展開

| ねらい | 時間 | 学習活動と支援 【 】内：支援 〔 〕内：評価規準 | |
|--|-----|---|--|
| | | A | B |
| <p>・買い物での支払いの様子を見て、教師から伝えられた課題が分かる。</p> | 10分 | <p>・前時の買い物学習でのレジでのお金の支払いの様子をビデオで見る。 【レジの表示金額をよく見て、各位の数字から正しくお金を出せたから買ったことを認めるとともに、課題を伝える】</p> | <p>【レジの表示金額をよく見て、大きいお金を出せたから買ったことを認めるとともに、課題を伝える】</p> |
| <p>・レジの表示金額の各位の数字を見て用意することができる。 ・自分の課題が解決できる。</p> | 30分 | <p>・模擬店で買い物をする。 【模擬店にある物の中から、買いたい物を決めておくように伝える】 〔模擬店にある物を見ながら、自分から買いたい物が決めている。〕 【金額は、AやBの課題に合わせて決め、表示する】 【店員役は教師が行い、伝えた金額ちょうどのお金が用意できない場合は、「お金が合いません」と伝え、レジの表示金額をよく見るよう伝え、Aの課題に合わせて再度用意できるように援助する】 〔レジの表示金額を見て、ちょうどのお金を用意している。〕</p> | <p>【店員役は教師が行い、伝えた金額より大きなお金が用意できない場合は、「お金が合いません」と伝え、レジの表示金額をよく見るように伝え、Bの課題に合わせて再度用意できるように援助する】 〔レジの表示金額を見て、金額より大きなお金を用意している。〕 【買い物ができたときには、レジの表示金額をよく見て、正しくお金が出せたことを伝え、評価していく。また、AやBの課題が解決できるようになった場合も、解決方法を伝え、評価していく】 【時間内で繰り返し買い物が行えるようにし、レジの表示金額を見ることやお金を用意することに慣れるようにする】 〔レジの表示金額を見てお金を用意することが、定着してきている。〕</p> |
| <p>・買い物の際の課題を解決するように頑張ることやレジの表示金額をよく見ることが、大切であることが分かる。</p> | 10分 | <p>・買い物についての感想を發表し、教師から「課題を解決するように頑張ったこと」や「買い物をするとき大切な話」を聞く。 【買いたい物を買うことの楽しさを引き出し、自分で買い物をすることへの自信につなげられるようにする】 【買い物をスムーズに行えるようにするには、今日の課題を解決することやレジの表示金額の各位の数を覚えて用意することを伝える】</p> | <p>【買い物をスムーズに行えるようにするには、今日の課題を解決することやレジの表示金額を見て大きなお金を用意することを伝える】</p> |

生活単元学習 【例 1】

1 年間指導計画例について

(1) 生徒の実態

本学級には、1年生1名(A)、2年生2名(B・C)、3年生1名(D)の計4名が在籍している。全体的には落ち着いて学習に取り組める学級であるが、身辺処理能力や望ましい生活習慣が身につけていなかったり、集団適応や人とのかかわりに課題があったり、学級外で生徒指導上の問題行動をとりがちだったりするなど、生活上のさまざまな課題が見られる。学習面においては、小学校低学年から中学年の内容の教科学習が可能であり、中には高学年の内容に取り組める生徒もいる。しかし、それを実生活の中で有効に使っていく力は弱い。そして、能力差が大きいため生活や学習活動において独善・依存の関係が作られがちである。また、それぞれ個に応じて技能教科の授業や行事等、交流学級の生徒とともに学習や活動をしているが、比較的能力の高い生徒でも、その場では自信がもてずなかなか主体性を発揮できないでいる。こうした実態から以下の目標を立て計画を作成した。

(2) 年間の指導目標

活動の目的と自分の役割を理解し、責任をもって主体的に活動する力をつける。

自分の考えを出したり、友達の意見を聞いたり、様子を見たりするなど、仲間との相互的な関係を深めながら活動を進めていく態度を身に付ける。

教科学習で習得した事柄を、実際の生活の中で応用しながら使っていく力を付ける。

(3) 年間指導計画

<週 4 時間配当>

| 月 | 単 元 名 | 時間 | 主 な 学 習 活 動 |
|----|-------------|----|---|
| 4 | 新しい学級 | 8 | ・自己紹介をする ・学校案内をする ・1年の目標(個人・学級)を立てる ・学級委員、係、委員会を決める ・掲示物の製作をする ・歓迎会をする |
| 5 | 学年の校外学習に行こう | 14 | ・旅行ファイルの表紙を作る ・プリント類のファイリングをする ・日程、行程を他学年の生徒に発表する |
| 6 | | | ・荷物の確認と出し入れの練習をする ・旅行の報告会(お土産、写真)をする ・作文を書き、発表する |
| | 夏休みのランチを作ろう | 8 | ・計画を立てる ・用具等の準備をする ・調理、試食をする ・片付け、まとめをする |
| 7 | 卒業生を訪ねよう | 8 | ・卒業生へ手紙を書く ・訪問に際して気を付けたいことや聞きたいことを考える ・卒業生の職場訪問をする ・感想を発表し、お礼の手紙を書く |
| | 夏休みの生活 | 3 | ・どんな生活をしたら良いか考える ・学校の決まりを理解する ・夏休みの予定、宿題の確認をする |
| 9 | | | ・夏休みの目標と一日の活動計画を立てる ・夏休みの楽しかったことや反省点を発表する |
| | 文化祭に参加しよう | 14 | ・文化祭《学級からのメッセージ》を考える ・発表者を決め、練習する ・くす玉と模擬店の看板を作る ・作品の展示をする ・作業で制作した小物の販売準備、販売練習をする ・片付けをする ・感想、反省を発表する |
| 10 | 特学交流会に行こう | 12 | ・日程、行程の確認をする ・交流時間の過ごし方を考えその準備をする ・パーベキュー物品の用意と当日の役割分担をする ・交流会に行く |
| 11 | お世話になった人 | 5 | ・計画を立て、準備をする |

| | | | |
|----|------------------|----|---|
| | にスイートポテトを贈ろう | | ・調理をして試食、贈呈をする ・片付け、まとめをする |
| 12 | お金をためて校外学習に出かけよう | 20 | ・計画を立てる ・お弁当販売活動（役割分担、試作品作り、チラシ作製、配布、注文取り、材料調達、用具の準備、製造、配達、集金、片付け）をする ・売上の勘定をする ・校外学習の計画、準備（時刻表調べ、行程決め、予約、当日の約束決め等）をする ・当日 ・感想、反省を発表する |
| 1 | 日曜日のランチを作る | 8 | ・計画を立てる ・用具等の準備をする ・調理、試食をする ・片付け、まとめをする |
| 2 | 特学交流会に行こう | 12 | ・日程、行程の確認をする ・バスの中のレクリエーションを考え、その準備をする ・当日 ・感想、反省を発表する |
| 3 | 1年の締めくくりをしよう | 8 | ・1年間を振り返る ・プリント、作文、作品等を分類、整理し学習の記録を作る ・卒業生、在校生への手紙を書く ・卒業式の教室の飾りつけをする ・新入生受け入れの準備をする ・お別れ会（春休み）の計画を立てる ・卒業式当日（別れの言葉、歌） |

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「お金をためて校外学習に出かけよう」

(2) 単元について

本学級の生徒は、修学旅行や文化祭などの行事に際して、計画・準備・実行などの活動を交流学級で行っている。しかし、考えがありながら自分の意見を言えなかったり、何をしているのか十分理解できないまま受身的に活動していたり、人任せにして責任を持って取り組めなかったりする状況が見られる。本学級での活動に際しては、自己主張を強くする生徒と自分の考えを出さない（持てない）生徒に二分され、全体が進んで協力し合うという姿がなかなか見られない。意欲はあっても友達の気持ちを考えずに自己中心的に事を進めていこうとしたり、理解・経験不足による自信のなさから自らかかわっていく意欲が持てなかったりすることが原因であると考えられる。

そこで、楽しみにしている校外学習を、資金面も含めて自分たちの力で実施するという計画を立てた。農業体験学習で収穫予定の米を使って資金作り（給食のない日に弁当の製造をし、本校職員に販売）をして、本学級の生徒だけで好きなところへ外出し、食事をしてくるというものである。魅力的な目的に向けた様々な活動を通して、主体的に取り組む意欲や見通しをもって段取りをしていく力、仲間と協力して活動を進めていく態度、問題解決のために自分たちの持っている知識や知恵を使い、分からないことを調べていこうとする姿勢を身に付けていくことができるのではないかと考えた。そして、目的達成のための試行錯誤の経験や達成の喜び、自分もやればできるんだという実感を積み重ねていくことにより、全体の気持ちを汲み取ろうとする態度や、必要以上の依存をせずに活動できる自信を育てられると考える。

(3) 単元に関する生徒の実態

| 生徒 | 主体性(活動への取組) | 対人関係(協力態度) | 手指の技能 |
|-----------|--|---|-----------------|
| A (1年) | 本学級の生徒となかなか打ち解けることができず、孤立しがちである。声が非常に小さいが、電話だと比較的よく声が出る。 | 自分の考えを表に出さず、わかっている自分から行動を起こさない。が、人から言われ | 手先の仕事は丁寧で確実にある。 |

| | | | |
|-----------|---|---|--|
| | | ればできる。 | |
| B (2年) | 友達への非難が多く、命令口調になりがちであるが、気持ちに余裕のある時は、意識して友達に親切にしようとする姿も見られる。 | 理解が早く、手先も器用で何事も手早く進めていくことができるが、少しうまくいかないとすぐに投げやりな態度になってしまう。 | |
| C (2年) | 活動の全体的流れの把握がやや難しい。目標が具体的ではっきりしていれば、それに向けてがんばることができる。 | 他への関心が薄く、言語不明瞭のため意思表示に消極的である。 | 不器用ではないが、手早く調理や制作をすることは難しい。 |
| D (3年) | 活動に対する意欲が高く積極的に自分の意見を伝えようとするが、よく理解できないまま行動してしまうことが多い。 | | 手先が器用でなく仕事が粗雑であるので、調理や制作、硬貨の取り扱い等にはかなりの支援を要する。 |

(4) 単元のねらい

<全体> 校外学習に行くことを楽しみに、仲間と協力し合って、主体的に活動にかかわる。

<個別>

- A ・声を出したり筆談したりして、友達や教師と必要なやり取りをしながら、分担の仕事や気づいた仕事を進んで果たすことができる。
- B ・友達の意見を聞いたり、友達の活動を助けたりするなど自分のことだけでなく、全体の気持ちや活動の進捗状況を考えて、穏やかな態度で協力しながら活動することができる。
・最後まで責任を持って活動できる。
- C ・目的と自分の役割を理解し、見通しを持って活動する。自分の希望や意見を出す。
- D ・何のために何をしているのか、その時間の自分の取り組んでいる学習の内容をよく理解して、注意深く丁寧に取り組む。

(5) 指導方針

- ・活動が長期かつ多岐にわたることから、活動計画表を作り、それに記入しながら活動を進め、生徒が常に自分は何のために何をしているのかを分かるようにしておく。
- ・自分の目標の達成の度合いを、自己評価する機会を活動の段階ごとに設ける。
- ・Aとは普段から交換日記を交わすなどして、少しでも心情を理解し、話しやすい状況作りに努める。活動の中で声を出すのが難しい場合は、筆談で意思表示ができるようにする。また、手先の器用さを生かした分担をして、自信がもてるようにすると共にCの良さを他の生徒にアピールしていく。
- ・Bについては、適切な言動のとれた時には、本人が照れないようにさりげない言葉で賞賛していく。連絡帳にも記載し保護者からも認めてもらう。また、常に目的とそのための活動であることを意識できる手立てを取り、がんばろうとする気持ちを持続できるようにする
- ・Cについては、活動の区切りと順番を単純化して明確にする。Cの考えを筆談も交え、丁寧に聞きとる。友達の活動にも関心が持てるよう学習活動を組み立てる。
- ・Dについては、理解力や手指の巧緻性を考えて役割分担をし、作業の場面では補助具を使用するなど、やりやすい方法を考える。またその際、自尊心を傷つけない配慮をする。

(6) 単元の展開

<全25時間計画>

| 学習活動 | 時間 | 支援及び留意点 | 評価規準 |
|-------------------|----|---|---------------------------------|
| 1. 学習の目的を知り学習計画を立 | 2 | ・活動の全体計画が大づかみできるよう、学習の見通しが視覚的にわかる全体計画表の | ・活動内容を表の枠に活動順に記入(またはカードの貼り付けを)し |

| | | | |
|--|-----------|--|---|
| <p>てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁当の製造販売をして資金を作り、自分たちで計画を立てて行きたいところへ出かける学習であることを知る。 ・自分の目標を持つ ・大まかな外出計画と資金作りの計画を立てる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・枠を用意し、生徒が記入(生徒により絵つき内容カードを貼り付け)できるようにしておく。 ・これまでの旅行などの作文(反省や課題の部分)を読んで、生徒が自分の目標を具体的に考えやすくする。 ・外出予定日と学校帰着時間以外は自由に決めてよいことにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の具体的な目標を見出している。 ・友達と話し合ったり、ガイドブックなどで調べようとしている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・2. 弁当の販売準備活動をする ・献立決定 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・どうしても意見が言えない場合にも、計画表に記入するなど、発信の方法を問わず取り上げ、全員が自分の希望や考えを出せるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を発表している。(または、計画表の希望欄に記入するなどの方法で発信している。) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・試作品作り ・役割分担、 ・販売個数・値段を決める ・チラシ作り ・注文取り | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ条件(コスト、調理時間、栄養面)を設定し、適切な献立を考えやすくしておく。 ・意見が出たところで再度判断基準を示し、話し合いと多数決で献立を決めることができるようにする。(ウインナー炒め、卵焼き、おにぎり、茹でブロッコリー、りんごなど) | <ul style="list-style-type: none"> ・人任せにしないで自分の意見を出している。 ・自分と異なる意見をまじめに聞いている。 ・なぜ自分はそう思うのか、理由を説明している。 ・条件にあった献立を立てている。 ・必要なことをワークシートに記入している。 |
| | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・試作品作りを通して、必要な道具の用意、手順、火加減などを助言する。 ・本人の希望、調理技能等を考慮して、分担を決めるように配慮する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・弁当を作るための手順の理解、自分の役割が分かって意欲がもてている。 |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・チラシの内容を考える際のヒントとして、3点(販売日、値段、献立)を必要に応じて提示する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・販売日、値段、献立の3点を落とさずに、チラシ作りを行っている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・3. 弁当を製造する ・用具の準備 ・弁当の製造 ・配達・片づけ | 5 (1日) | <ul style="list-style-type: none"> ・準備のポイントとして《材料の適正な保管、調理道具や手指の消毒》が確認できるようポスターを掲示する。 ・30分毎にアラームを鳴らし時間を意識しながら仕事ができるようにする。 ・危険防止のための最低限の確認をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・注意事項を守っている。 ・自分の分担の仕事に自発的に取り組んでいる。 ・納品時間を意識して、仕事の遅れているところを手伝っている。 ・正確に配達できている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・4. 外出の準備をする ・集金をする。 ・売上金の勘定をして、食事の予算を決める ・レストランの予約、時刻表や場所調べ、料金支払い練習、行程の再考 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・きちんとした言葉遣いでお礼の言葉が言えた時には賞賛してもらえるように、弁当を注文した人に依頼しておく。 ・資金ができたことを賞賛し労をねぎらう ・いくつかメニューの見本を用意し、食事代の見当がつけられるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・分担して集金が間違いなくできている。 ・資金ができたことを喜んでいる。 |
| | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの役割を明示し、それぞれ意欲をもって活動できるようにする。 ・サポート役に回る生徒も満足感がもてるよう言葉かけを工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・協力しながら事前の準備をしている。 |

| | | | |
|------------------------|-----------|--|---|
| をする | | | |
| ・行程の決定・確認をし、当日の約束事を決める | 1 | ・計画に無理がある場合は助言する。 | ・行程を理解している。 ・全員の気持ちと常識に沿って約束事を決めている。 |
| 5. 校外学習に出かける | 6 (1日) | ・できるだけ自分たちの判断で行動できるように見守る姿勢を大切にする。 ・自信と自覚を持って行動できるよう、適切な行動の見られたときは大いに賞賛する。 ・Dのバス料金支払いを最小限補佐する。 | ・約束を守って適切な行動を取っている。 ・交通機関の乗降や金銭の支払いをスムーズにしている。 ・友達のことを互いに気遣い、全体で楽しんでいる。 |
| 6. 学習のまとめをする | 2 | ・当日をふりかえり、教師の感想を述べる。 ・各段階でとった写真やビデオを見せ、一連の学習でどんなことが大変だったか、どんなことがわかったか、これから生かしていきたいところなどを考えやすくする。 | ・一人一人が学習に対する感想を発表している。 ・友達の感想を真剣に聞いている。 |

3 一単位時間の指導計画例について

レストランの予約等の事前準備をする授業（全25時間の16時間目）

(1) 本時のねらい

<全体> ・友達と協力しながら、校外学習に出かけるための下調べや準備・練習をする。

<個別>

A ・友達と相談・練習し、レストランに予約の電話を入れることができる。

B ・友達がレストランに予約電話ができるようにサポートする。

・友達と一緒に地図でバス停と映画館、レストランの場所を調べ、当日の行程を考え、提案することができる。

C ・はっきりと食事の注文ができる。

・金銭の支払いが円滑にできる。

D ・バス代を、確認しながら正確に取り出すことができる。

(2) 準備 十円・百円硬貨、千円札、財布、メニュー、電話、電話帳、地図、学級掲示用地図、(時刻表、路線図)、筆記用具

(3) 展開

| ねらい | 時間 | 学習活動と支援 | | | |
|----------------------------|-----|--|---|-----------|---|
| | | 【 】内：支援 | | 〔 〕内：評価規準 | |
| | | 1 班 | | 2 班 | |
| | | A | B | C | D |
| ・本時の活動内容と自分の役割を理解する。 | 5分 | <p>・本時の活動内容を理解し、自分の課題を意識する。</p> <p>【全体活動表の自分の目標欄を見せ、どんなことに気をつけて活動したらよいか気づけるようにする】</p> <p>【全体計画表で、当日までの日にちを一緒に数え、意欲を高める】</p> | | | |
| ・2班に分かれて、協力しながらそれぞれの活動をする。 | 35分 | <p>・A分担のレストランの予約電話とB分担の映画館への問い合わせ電話の内容を一緒に考えメモする。</p> <p>【Bを通して、日時と人数】</p> <p>【頼りにしていることとを話す】</p> <p>・レストランと映画</p> <p>・言われた金額を取り出す練習をする。</p> <p>・Dが分からないときは、自分の取り出したお</p> <p>・言われた数だけ百円、十円玉を取り出す練習をする。</p> <p>【Cと同じ金額を百円玉五つと</p> | | | |

| | | | | |
|----------------------------------|---|--|--|--|
| <p>(電話は職員室の電話を使用する)</p> | <p>を作る】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人で電話の練習をする。 Bを相手に電話をかける練習をする。 <p>【慣れてきたらより大きな声で話せるように距離を離す】</p> <p>Bに聞こえる声を出そうと繰り返し練習している。</p> <ul style="list-style-type: none"> レストランに予約電話を入れる。 <p>【自信がもてるように練習の成果を賞賛する。電話の様子をBと見守る】</p> <p>レストランの予約が確実にできている。</p> | <p>館の電話番号を電話帳で調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 映画館に上映開始時間と料金の問い合わせ電話をかける。 レストラン予約時間(上映開始1時間20分前)をAに教え、Aの練習の相手をする。 <p>Aを非難せずにサポートしている。</p> | <p>金を見せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 立った状態でポケットから財布を取り出し、掌中に必要な金額を取り出す練習をする。 <p>【速さに意識が向く言葉がけをする】</p> <p>きびきびと動作している。</p> | <p>十円玉八つというように言い換える】</p> <ul style="list-style-type: none"> 財布から必要な金額をこぼさず取り出す練習をする。 <p>【出したお金を確認できるよう、教師やCの手のひらを貸す】</p> <p>バス代をこぼさず、正確に取り出している。</p> <p>・メニューを見て、教師を相手に料理の注文の練習をする。</p> <p>【Aの参考になるように、Bの注文の仕方の良い点を賞賛する】</p> <p>相手の顔を見て、メニューを指さしながら注文している。</p> <p>【わざと聞き間違えるなどして本人の工夫を引き出す】</p> <p>はっきりと分かるように注文している。</p> |
| <p>・集合してそれぞれの活動の様子や結果について知る。</p> | <p>10分</p> <ul style="list-style-type: none"> 何月何日、何時何分、何人分の席の予約が取れたことを、皆にわかるように報告する。 <p>自分の学習成果を発表している。発表者に顔を向けて聞いている。よく分からないときや聞こえないとき、見えないときは質問している。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 映画の時間・料金を知らせる。 掲示用地図で目的地の場所を報告する。他にいく場所があれば提案する。 | <ul style="list-style-type: none"> レストランでの注文練習の成果を披露する。注意点があれば発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> バス料金の支払いを師範する。 練習の成果を披露する。 <p>・本時の活動について、自分の役割が果たせたか、教師の質問に答える形で自己評価する。</p> <p>【生徒の良かった点を中心に、教師の感想を述べる】</p> |

生活単元学習 【例2】

1 年間指導計画例について

(1) 生徒の実態

本学級は、男子2名(A、B)、女子1名(C)の2年生ばかり3名の学級である。昨年度末に男子1名が転出し、今年度当初、男子(B)が転入してきた。

Aは、身辺処理能力や日常会話にはほとんど支障がないが、友達からのかかわりを好まず、集団に入ることに大きな抵抗を示す。転入生Bは、快活であるが環境が変わったせいか落ち着かず、友達の感情に同調しやすいなど気分が不安定さが見られる。Cは歩行が不安定で、指先の細かい仕事も困難なため、かなりの支援を要する。言葉も発声しかできないが、相手の言っていることは大体理解でき、表情や身振りなどで積極的に意思表示できる。3名とも教科学習は難しく、日常生活の指導、生活単元学習、作業学習を中心に学習しているが、それぞれ対人関係に課題があり、3人が同じ場で学習できないことが多い。また、見通しを持って活動する力に弱さが見られる。

(2) 年間の指導目標

- ・生活上の望ましい習慣・態度を身に付ける。
- ・友達と適切に関わりながら、安定した気分で活動できる。
- ・目当てと見通しを持って、落ち着いて活動に取り組むことができる。

(3) 年間の指導計画

< 週10時間配当 >

| 月 | 単 元 名 | 時間 | 主 な 学 習 活 動 |
|----|--------------|----|--|
| 4 | 新しい学年 | 10 | ・机いす、下駄箱、ロッカー等の名前ラベル貼りをする ・等身大自分人形を作る ・先生の顔と名前調べをする ・学級の本棚のペンキ塗りをする |
| | 三色団子を作ろう | 7 | ・材料をスーパーに買いに行く ・団子とたれを作り食べる |
| 5 | 春の旅行に行こう | 10 | ・日程、目的地を知る ・荷物調べをする ・旅行の絵を描く |
| | カップケーキを作ろう | 7 | ・材料をスーパーに買いに行く ・好きなトッピングをして焼いて食べる |
| 6 | 一緒にボウリングをしよう | 16 | ・ボウリングゲームをする ・自己紹介の練習をする ・交流活動をする(他校の特学生徒を迎える) ・ビデオレターを送る |
| | カレーを作ろう | 10 | ・材料をスーパーに買いに行く ・収穫したジャガイモを使って作る |
| 7 | 校外学習に行こう | 10 | ・日程、目的地を知る ・料金等の支払いの練習をする ・校外学習に行く ・当日のビデオ鑑賞をする ・校外学習の絵を描く |
| | もうすぐ夏休み | 7 | ・夏休みのカレンダーの、天気、お手伝い、登校、外出シールの貼り方を知る ・机やロッカーの整理をする ・教室のワックス掛け、ガラス拭き |
| 9 | 運動会をがんばろう | 10 | ・昨年のビデオ鑑賞をする ・ゼッケンを作る(名前ステンスル、ミシン直線縫い) ・競技等の練習(ラジオ体操、行進、全員リレー、長縄とび)をする ・当日のビデオ鑑賞をする ・運動会の絵を描く |
| | 野菜ラーメンを作ろう | 7 | ・材料をスーパーに買いに行く ・野菜をいためてラーメンにのせる |
| 10 | 作品をつくらう | 10 | ・焼き物をつくる ・落ち葉、木の実、ツルなどを使った壁飾りをつくる |
| | 焼き芋をしよう | 10 | ・収穫したサツマイモをホイルで包む ・落ち葉や枯れ木などを集めて焼き芋にして食べる ・片付け |
| 11 | 合同学習発表会をしよう | 25 | ・出し物の練習をする ・招待状を作る ・小道具を作る ・リハーサルをする ・本番 ・当日のビデオ鑑賞をする |

| | | | |
|----|---------------|-----|---|
| 12 | おでんを作ろう | 8 | ・材料をスーパーに買いにいく ・収穫した大根を使いおでんを作る |
| | お正月を迎えよう | 10 | ・年賀状を書く ・カルタ、すごろく、書初め練習をする ・机やロッカーの整理をする ・教室のワックス掛け、ガラス拭きをする |
| 1 | 作品展の準備をしよう | 6 | ・これまでの作品の額と名札を作る ・展示を手伝う ・片付けをする |
| | コーヒー屋さんを開こう | 20 | ・お金を数える練習をする ・メニュー、看板を作る ・注文を聞く練習(コーヒー、クッキー、一口チョコ)をする ・コーヒーを運ぶ練習をする ・クッキーを作る ・食器等を準備し、開店する ・片付ける ・お金を数える |
| 2 | 友達の学校に行ってみよう | 8 | ・交流相手校からのビデオレターを見る ・相手校に行き交流活動をする ・交流活動の絵を描く ・ビデオレターを送る |
| | 卒業生を送る会に参加しよう | 8 | ・3年生の各クラスへ贈るプランターの花植えをする ・プランターに添えるカードを作る ・贈呈の練習をする ・会場の飾りつけを一部手伝う |
| 3 | 校外学習に行こう | 8 | ・日程、目的地を知る、料金等の支払い練習をする ・校外学習に行く |
| | 1年の思い出 | 6 | ・アルバムに写真を貼る ・自分人形と背比べをし、成長を知る ・大掃除 |
| 各月 | カレンダーを作ろう | 6~3 | ・貼り絵、スタンプ、折り紙などで翌月のカレンダーを作る |

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「一緒にボウリングをしよう」

(2) 単元について

本学級は、いまだ学習集団としてまとまった活動ができない状態である。集団適応の難しいAは教室を出て隣の教材室にいることが多く、残されたBとCは互いに関心を持ちながらも、かわり方が過剰なためケンカになってしまうことが多い。また、Aが自分たちと一緒に学習しないことに対してがっかりしている様子が見られる。AはB・Cに無関心というわけではなく、B・Cのちょっとした変化も教師に報告してくる。こうした状況から、3人が同じ場で同じ(ような)活動ができるようになることを期待して、この単元を設定した。

ボウリングゲームは玉を転がしてピンを倒すという分かりやすいゲームであり、3人とも経験があって取り組みやすい。生徒に応じて条件を変えることで、どの生徒も活動を純粋に楽しむことができる。同じ場で同じことをして楽しむという経験が、仲間意識を育てていくと考える。さらに順番やルール、勝敗を意識させることで、友達との適切なかわりを学ぶ場ともなる。また、本学級は他校特殊学級と交流活動をする予定があるが、ボウリングゲームは、無理なく他校生徒と一緒に楽しめる(Aにとっては同じ場にいられる)活動であると考え、交流活動までをこの単元を含めることにした。BとCには、挨拶や返事、自己紹介など社交的な態度を身に付ける機会ともしたい。

(3) 単元に関する生徒の実態

| 生徒 | 対人関係 | 活動への取組 (決まり・約束の意識等) | その他 |
|-----------|---|---|------------------|
| A (2年) | 人からじろじろ見られたり、身体や持ち物に触られたりすることを極端に嫌がり、怒って教室から出て行ってしまふ。理解力・表現力があり、教師とのかわりは楽しめる。 | ひとつの活動をまとまった時間取り組んだ経験が少なく、精神的負担がかかると不登校になる。カセットを聴くことと車に強い興味がある。 | 昨年の交流活動のときは欠席した。 |
| B | 人の様子に気を取られ集中できないことが | 活動的でゲーム的な遊びは大 | 転入生。 |

| | | | |
|-----------|--|------------------------------|----------------------|
| (2年) | 多い。普段は明るいが、Aが怒ると不安定になり、人や物に攻撃的になったり自分の手をかじったりなどの行為が見られる。 | 好きであるが、夢中になると順番やルールが守れなくなる。 | |
| C (2年) | 友達に過度にかかわろうとし、相手を怒らせてしまうことが多い。 | 何にでも興味を示し、自分なりの方法で意欲的に取り組める。 | 玉を転がす時にうまく手から玉を離せない。 |

(4) 単元のねらい

<全体> 同じ場で、同じ活動を楽しむ経験を重ねる。決まりや約束を意識して行動できる。

<個別>

- A
 - ・ボウリングゲームを、B・Cのいる場所で楽しむことができる。
 - ・ボウリングのピンを介してB・Cとかかわりを持つことができる。
- B
 - ・順番やルールを守りながらボウリングゲームを楽しむことができ、勝敗が分かる。
 - ・交流活動で、他校生と一緒に楽しくボウリングゲームができる。
- C
 - ・順番やルールを理解してゲームを楽しむことができる。
 - ・友達の気持ちに気づき、嫌がることをしないで、友達と一緒に活動できる。
 - ・交流活動で、他校生と一緒に楽しくボウリングゲームができる。

(5) 指導方針

- ・一人一人が楽しい時間を過ごすことができるように生徒の取り組みを見守る。
- ・Aについては、気持ちを尊重しながらも少しずつ約束に沿った行動ができるよう、柔軟に辛抱強く対応する。「をしたら ができる」という流れを作って、学習参加を促していく。
- ・B・Cが、ゲームを十分理解して楽しめるように、環境・教具・ルール・補助具の工夫をする。
- ・Aが飛び出しても平静を装ってB・Cにかかわり、B・Cが興奮しないよう配慮する。
- ・Bは物の扱いが乱暴であり、Cは足もとが不安定なため安全には十分な注意を払う。

(6) 単元の展開

<全16時間計画>

| 学習活動 | 時間 | 支援及び留意点 | 評価規準 |
|--|----|---|--|
| 1. (同じ場所で一緒に)ボウリングゲームをする ・離れた場所でボウリングゲームをする。 ・順番やルールを知る。 ・自分たちでゲームを進める。 ・一緒の場所でゲームをする。 | 10 | ・教師も楽しく参加する。 ・これまでの経験を尊重し、その子なりのやり方を認めながら、徐々にルール等を一本化していく。 ・Aには、最初は離れた場所で、場合によっては衝立を立てて取り組ませ、ゲームが面白くなってからだんだん場所を近づけていく。 ・ゲームの得点に応じて、好きな活動をして良いことにする。 | A 得点に応じて選択する活動を楽しみにしながら、ボウリングをしている。ピンをB・Cに渡している。 B・C 順番やルールを意識しながらゲームを楽しんでいる。決まりを守っている。 |
| 2. 交流活動をする ・交流の予定を知り、自己紹介の練習と名刺作りをする ・交流活動をする ・ビデオレターを相手校とやり取りする | 6 | ・予め交流相手の写真を掲示し、顔と名前が覚えられるようにする。 ・日生の時間も利用して自己紹介、名前を書く(B・Cはなぞり)練習を重ねておく。 ・和やかな雰囲気大切に声掛けをする。 ・自分なりの伝え方を尊重する。 | A ある程度の時間、同じ場で準備活動をしている。当日欠席しないで、交流の様子のわかるところにいる。 B・C 交流相手と一緒に楽しそうに活動している。興味を持ってビデオを見ている。 |

3 一単位時間の指導計画例について

3人が同じ場所でボウリングをする授業(7/16時間目)

(1) 本時のねらい

<全体> 同じ場所でボウリングゲームを楽しむことができる。

- <個別> A ・同じ場所でボウリングをすることができる。
 B ・決まりを守りながら、友達とゲームを楽しむことができる。
 C ・友達と和やかにゲームを楽しむことができる。

(2) 準備 スマイルボウリング2セット、ペットボトルのピン、バスケットボール、傾斜板、ピンボックス（ピンの収納と計数用） 得点表、得点シール

(3) 展開

| ねらい | 時間 | 学習活動と支援 【 】内：支援 []内：評価規準 | | |
|---|-----|---|--|---|
| | | A | B | C |
| ・活動の準備ができる。 | 10分 | ・隣の教材室でペットボウリングゲームの用意をする。 【教室の隅にA用のスマイルボウリングの用意をしておく。Aの様子を見ながら教室に誘う】 | ・始まりの礼をする。 ・二人で協力しながら教室の机を片付け、ボウリングの用意をする。【机、ピン、ピンボックス等を置く位置を床にテープで印を付け、スムーズに準備できるようにしておく】 | |
| ・同じ場で活動をする。 ・ルール(順番・投げ方・ゲーム中の動き方・勝敗)に従って行動できる。 ・ゲームに気持ちを向け楽しむことができる。 ・勝ち負けを理解する。 | 30分 | ・教室に入り、B・Cの様子を見るか、離れた場所でボウリングをする。 【B・Cの視線を気にしていたら衝立を立てる。様子によりB・Cに加わることを勧めてみる】 ・教師と勝負をし、買ったならシールを得点表に貼る。3点になったら駐車場に車を見に行くか教材室でカセットを聞くかを選択する。 【ゲームはAに我慢できる時間に切り上げるように加減する】 3点になるまで、同じ場所でゲームをしている。 【途中で出ていった場合も、片付けの時間には呼び戻す】 | ・順番にボールを投げる 【玉を取り合わないよう、待機位置、ボールをとる位置を床にテープで印を付けておく】 【前もってAが苦手なことを伝えておき、途中でAが入ってきても近づいたり、あまり注目したりしないように静かに助言する。できたら賞賛し、ゲームに注意が向くような声掛けをする】 ・ゲームごと(二人一投ずつ)に、倒れたピンを数え、勝ち負けを決める。 【ピンをピンボックスに並べて比べることにより視覚的にも勝敗が分かるようにする】 ・勝った方が得点表に1枚シールを貼る。 ・ゲームを重ね、シールの多い方をチャンピオンとし、チャンピオンがモーニング娘のビデオを見るか自転車乗りをするかを決める。 ・ルールを守ってゲームをしている。 ・シールを貼る方とチャンピオンが分かり、負けて友好的な態度でいる。 | 【玉を転がしやすいように傾斜板を使用したり、投げ位置を前後したりして技術面を補い、意欲を支える】 ゲームの結果を喜んだり、残念がったりしている。 |
| ・活動の後片付けができる。 ・約束に従って行動できる。 | 10分 | ・Cのところへピンボックスを取りに行き、使ったピンをボックスにいれBに渡す。 近づきすぎたり、余計なことをしたりしないで平静にボックスの受け渡しをしている。 ・教材室のボウリングを片付け、選択した活動をする。 教師に断わって、決めた場所に行っている。 | ・Aがピンボックスを取りに来たら、Cが渡す。ピンボックスを返しに来たら、Bが受け取る。 ・ボウリングの道具を決められた場所に運び、机を元に戻す。 ・終わりの礼をし、勝者が選択した活動の用意をする。 | |

作業学習 【例 1 年間を通じて1つの作業種を展開する例】

1 年間指導計画例について

(1) 生徒の実態

作業学習を行う際の集団編成は、1年生2名(A、B)、2年生1名(C)、3年生1名(D)の計4名の学級で編成されている。生徒の実態及び学級集団の特徴は次のようである。

- ・ダウン症や自閉的傾向など生徒の障害は多様であり、個性豊かな集団であるとともに、個人差が大きい。
- ・1年生が学級の半分を占めているため、学級の仲間としての意識が弱い。
- ・1年生2名はもとより、2、3年生も、作業学習に取り組むことに対する目的意識が弱い。

以上のような実態から、本年度の作業学習は、牛乳パックを再利用しての紙すきを年間通して行うことにした。紙すきは、作業工程を分けやすく流れ作業に適している。その上、バリエーションも豊富に考えられるため、能力差の大きい集団であっても生徒一人一人に合った作業工程を用意しやすい。また、原材料費をほとんどかけず数多くの製品を作ることができるので、多くの人に安価で販売できる。その結果、製品を買った人から喜ばれたり、称賛を受けたりする機会が多くなり、働くことに対して喜びを感じることができると考えた。なお、作業の意欲付けや節目を作るため3期に分けることにした。作るものとしては、はがきやコースターである。

(2) 年間の指導目標

- ・流れ作業において、自分の担当した工程で、友達と協力して製品を仕上げることができる。
- ・自分たちが作った製品を販売することを通して、働くことに喜びを感じたり、良い製品を作ろうとする気持ちを持ったりすることができる。

(3) 年間指導計画

< 週4時間配当 >

| 月 | 単元名 | 時間 | 主な学習活動 |
|-------------|--------------------------|----|--|
| 4 5 | 手すきはがきを作ろう | 16 | ・準備から後片づけまでの手すきはがき作りの全工程を経験し、手すきはがき作りの手順を知る。 |
| 6 7 9 | 文化祭で販売する手すきはがきを作ろう | 48 | ・手すきはがき作りの工程の中から、興味を持った工程や得意な工程を選び、流れ作業で手すきはがきを作製する。 ・前後の工程の友達と連絡・報告をし合う。 ・文化祭で販売することを目的に、お客さんに喜んで買ってもらうことを意識して作業に取り組む。 ・文化祭での販売の「報告会(茶話会)」を企画し、みんなで販売の成功を喜び合う。 |
| 10 11 | 作品展で販売する手すきはがきとコースターを作ろう | 46 | ・新たな工程を担当したり、担当していた工程でさらに技術を高めたりする。 ・製品の種類やミキサーの台数、パルプ水の色などを増やすことで、これまで以上に多くのことを自分で判断しながら作業に取り組む。 ・文化祭での販売の経験を生かし、より一層、お客さんに喜んで買ってもらえるような製品作りを心がける。 |

| | | | |
|----|---------------------------------|----|--|
| 12 | | | ・作品展での販売の「報告会（茶話会）」を企画し、みんなで販売の成功を喜び合う。 |
| 1 | 卒業生やお世話になった人に贈る手すきはがきとコースターを作ろう | 30 | ・卒業生やお世話になった人に手すきはがきやコースターをプレゼントすることを目的に、製品の目標数や計画を立てて、製品数を意識して作業に取り組む。 ・卒業生やお世話になった人一人一人に製品を手渡す。 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「文化祭で販売する手すきはがきを作ろう」

(2) 単元について

前単元「手すきはがきを作ろう」では、牛乳パックからはがきができるまでの一連の流れを理解することをねらいとして、生徒一人一人が全工程を体験し、作業の手順や注意することを確認しながら作業を行った。その結果、実際に作業を経験する中で、牛乳パックがどのような工程を経てはがきに変わっていくのかを知り、およそ手順どおりに作業を行えるようになった。また、次第に自分が興味のある工程や得意な工程が分かり、「ミキサーの仕事が楽しい」「もっとたくさん作りたい(すきたい)」などの声が聞かれた。しかし、製品のできばえを気に掛ける姿はあまり見られなかった。

このような姿を受けて、本単元では、流れ作業を取り入れ、生徒一人一人が得意な、やってみたい工程を担当するとともに、作った製品を文化祭で販売することを考えた。自分に合った工程を分業することで、意欲的に作業に取り組むことができるし、みんなで力を合わせて一つの製品を作り上げるという仲間意識が高まると考えた。また、製品の販売を目的とすることで、良い製品を作ろうとする意識を高めることができ、買った人から喜ばれたり誉められたりすることが、働くことへの意欲や喜びにつながると考えた。なお、流れ作業は、一つの工程から次の工程へ渡す際に、連絡・報告をする機会が設定できるので、この機会をとらえて、働く上で必要な力の一つである連絡・報告の力を高めたり、より友達を意識したりできるように必要な支援を展開していきたい。

本単元における作業工程及び担当する生徒は次のとおりである。

| | |
|-----------|------------|
| 再生パルプ作り | <全員> |
| パルプ水作り | < A : 1年 > |
| 紙すき | < C : 2年 > |
| 水切り | < B : 1年 > |
| 分別・スタンプ押し | < D : 3年 > |

(3) 単元に関する生徒の実態

| | A (1年) | B (1年) | C (2年) | D (3年) |
|--------|--|--------------------------------------|--|---------------------------------|
| 作業への取組 | ・ミキサーを使う作業に喜びを感じている。 ・作業内容が明確になると、意欲的に作業に | ・作業の途中で動きが止まってしまうことがあるものの、作業に取り組む時間が | ・作業に集中して取り組み、たくさんの製品を作ることができる。 ・作業を急ぐあまり不 | ・動きはゆっくりであるが、注意深く作業に取り組むことができる。 |

| | | | | |
|-------|--|---|--|---|
| | 取り組むことができる。 | 増えている。 | 良品を出してしまうと がある。 | |
| 目的意識 | ・ビデオで販売の様子 を見たり模擬販売を経 験したりすることで、 文化祭で販売するこ とを意識することが できる。 | ・自分たちが作った 製品を販売するとい う意識は弱い。 | ・昨年度、文化祭や作 品展での販売の経験が あり、自分が作った製 品を販売することを理 解している。 | ・文化祭や作品展 で販売することを 楽しみにして、作 業に取り組むこと ができる。 |
| 連絡・報告 | ・返事をしなかったり 連絡・報告を忘れて たりすることがある。 | ・連絡・報告をしな いですまそうとす ることが、促され ると下を向いてしま うことがある。 | ・相手に伝えようとす る意識は弱いもの の、決められた連絡 ・報告の言葉を言う ことはできる。 | ・声は小さいなが ら、必要な連絡 ・報告をすることが できる。 |

(4) 単元のねらい

<全体> ・文化祭で販売することを意識して、意欲的に手すきはがき作りに取り組み、質の良い製品を作る。

・必要な連絡・報告をしながら流れ作業に取り組む。

<個別>

A ・文化祭で販売することを意識し、2台のミキサーを使って2色のパルプ水を作る。

・決められた連絡・報告を忘れずに行う。

B ・水切りの作業に時間いっぱい取り組む。

・自分から進んで連絡・報告をする。

C ・不良品を出さないことを意識して、丁寧に作業に取り組む。

・相手に伝わるように連絡・報告する。

D ・質の良い製品を作ることを意識して手すきはがきを仕上げる。

・相手に聞こえる声で連絡・報告をする。

(5) 指導方針

・作業製品の販売の経験のない生徒や少ない生徒が多い。そこで、昨年度の販売の様子をビデオで見たり、実際に学校内で販売をしたりして、販売することをイメージできるようにする。

・良い製品を作ろうという意識を持っている生徒は少ない。そこで、実際に不良品のはがきを使ってみることで、「厚さが薄いと字を書いたときに穴が開いてしまう」「形がゆがんでいるのは書きにくい」など不良品の欠点に気付くようにし、良い製品を作ろうとする気持ちを高めていく。

・各生徒が担当する工程については次のようにする。

A : <パルプ水作り>の工程を担当する。ミキサーに興味を持ち、パルプ水作りの作業に意欲的に取り組むことができる。そこで、2色のパルプ水を同時に作るために、2台のミキサーを並行して操作できるようにしたい。その際、使う道具を色分けするなどして、2台になっても混乱しないようにする。また、本人の意欲や作業の様子により、ミキサーの台数を増やしていく。

- C : <紙すき>の工程を担当する。はがきをすく作業に集中して取り組めるが、先を急ぎすぎるあまり不良品を出すことがある。そこで、場面ごとに「10 を数える」などの約束を作り、自分で急ぎすぎないように調整できるようにしていく。
- B : <水切り>の工程を担当する。C がすいたはがきを受け取り、万力を使って水分を切る作業である。C から「お願いします」と直接手渡されることで、作業以外のことに気を取られたり、自分の持ち場を離れたりせず、時間いっぱい作業に取り組めるようにする。
- D : <分別・スタンプ押し>の工程を担当する。前回の作業までに作ったはがきを良品と不良品に分別し、良品にスタンプを押して仕上げる作業である。形・大きさや重さなどの観点で製品の良否が判断できるように補助具を用意する。
- ・連絡・報告については、各生徒に対して次のようにするとともに、うまくできたときに大いに称賛するようにする。
 - A、B : 連絡・報告ができたときにシールをはるなどして形として残し、自分から連絡・報告ができるようにする。
 - C : 相手の名前を呼んでから連絡・報告をして、相手に伝えようとする気持ちを意識できるようにする。
 - D : 少し離れたところにいる人に連絡・報告するなど、大きな声で連絡・報告しなければならないような場の設定を工夫する。

(6) 単元の展開

< 全48時間計画 >

| 学 習 活 動 と 支 援 及 び 留 意 点 【 】内：支援及び留意点 | | 時 間 | | | |
|--------------------------------------|--|--|---|--|----|
| | | | A | C | B |
| 導 入 | <p>文化祭で手すきはがきを販売することを知る。</p> <p>【昨年度の文化祭での販売の様子を映したビデオを見て、販売することへのイメージを持てるようにする】</p> <p>流れ作業で手すきはがきを作製する上で、自分が担当する工程を決める。</p> <p>【全ての工程を体験し、その中から、得意な工程ややってみたい工程をもとに自分が担当する工程を決めて、作業に意欲的に取り組めるようにする】</p> | | | | 8 |
| 展 | <p>必要な連絡・報告をしながら、パルプ水作りの工程の作業に取り組む。</p> <p>【使う道具を色分けするなどして、ミキサー 2 台をうまく使いこなせるようにする】</p> <p>【連絡・報告ができたときにシールを貼り、自分から連絡・報告できるようにす</p> | <p>必要な連絡・報告をしながら、紙すきの工程の作業に取り組む。</p> <p>【場面ごとに「10 数えて待つ」などの約束を作り、急ぎすぎないように自分で調節できるようにする】</p> <p>【相手の名前を呼んでから連絡・報告するようにして、相手を意識して連絡・報</p> | <p>必要な連絡・報告をしながら、水切りの工程の作業に取り組む。</p> <p>【はがき 3 枚を水切りしてベニヤ板に並べたら教師に報告するようにする。その際、教師は、休まず作業に取り組んでいることを大いに称賛する】</p> <p>【連絡・報告ができ</p> | <p>必要な連絡・報告をしながら、分別・スタンプ押しの作業に取り組む。</p> <p>【製品の良否を自分で判断できるようにするために、はがきの規格を示すシートやはかりを用意する】</p> <p>【正確な位置にスタンプが押せるように、スタンプを押す位置を切り抜いた型紙を用意する】</p> <p>【良品・不良品の分別、</p> | 28 |

| | | | | | |
|------------------|---|--|---|---|---|
| 開 | る。また、そのときは大いに称賛する】 | 告できるようにする】 | たときにシールを貼るなどして、自分から連絡・報告できるようにする】 | スタンプ押しそれぞれの作業の区切りで、教師に報告するようにし、教師が検品を行う】 | |
| | 模擬販売を行う。(第9時と第20時) 【販売する経験を重ねることで、販売することへの見通しを持てるようにするとともに、お客さんから製品に対する意見をもらい、より良い製品が作れるようにする】 | | | | |
| | 文化祭で手すきはがきを販売する。 【販売の雰囲気盛り上げるために、看板を作るなどして店構えを工夫する】 | | | | 8 |
| ま と め | 文化祭での販売の報告会(茶話会)を開く。 【販売をして楽しかったことやお客さんの反応などを発表し合ったり、売り上げたお金で茶話会を開いたりすることで、手すきはがきを作って良かった、また作って販売したいという気持ちを持てるようにする】 | | | | 4 |
| 評 価 規 準 | ・2台のミキサーを並行して使いこなしている。 ・忘れずに連絡・報告をしている。 | ・不良品の数が少なくなっている。 ・Bの名前を呼んでから連絡・報告をしている。 | ・Cからはがきを受け取り、すぐに水切り作業に取りかかっている。 ・忘れずに連絡・報告をしている。 | ・補助具を正しく使って、良い製品を仕上げている。 ・教師に聞こえるように大きな声で連絡・報告をしている。 | |

3 1 単位時間の指導計画例について

ここで取り上げる1単位時間の指導計画例は、全48時間の単元計画の11時間目である。

(1) 本時のねらい

<全体> ・自分が担当する工程に責任を持って取り組む。
 ・決められた連絡・報告を忘れずに行う。

<個別>

- A ・2台のミキサーやタイマーを手順どおりに操作し、2色のパルプ水を作る。
 ・できたパルプ水をその色の容器にあけ、「できました。お願いします」と友達に連絡・報告する。
- B ・作業の手を止めることなく、水切り作業に取り組む。
 ・はがき3枚を水切りし、ベニヤ板に並べたら「できました」と教師に連絡・報告する。
- C ・不良品を出さないことを意識して、丁寧に紙すきの作業に取り組む。
 ・友達からの連絡・報告に返事をしたり、相手の名前を呼んでから連絡・報告したりする。
- D ・良品と不良品を自分で判断し、正確な位置にスタンプを押す。
 ・離れたところにいる教師に聞こえるような大きな声で、「できました」と連絡・報告する。

(2) 準備

共通：各生徒が担当する工程の作業において、気を付けることを書いたカード等

- A : ミキサー 2 台、タイマー 2 個、シールを貼る台紙
 B : 水切り板 (30 枚) 水切り板をはさむ板 (2 枚) ぞうきん、ベニヤ板 (10 枚) 万力
 C : パルプ水を入れる容器、手すきはがき用の木枠、水切り板 (30 枚)
 D : はがきの規格を示すシート、はかり、スタンプを押す位置を切り抜いた型紙、スタンプ、スタンプ台

(3) 展開

| ねらい | 時間 | 学習活動と支援 | | | |
|------------------|------|--|--|---|--|
| | | A | C | B | D |
| ・ 本時の作業の目標を確認する。 | 10 分 | <p>作業量の目標を発表したり、気を付けることを確認したりする。</p> <p>【パルプ水の材料を入れたカップの数で、どれだけのパルプ水を作るか目標を立てるようにする】</p> <p>【B と相談して目標の枚数決めるようにする。また、不良品が出ないようにするために、10 数えることを確認する】</p> <p>【C と相談して目標枚数を決めるようにする。また、目標達成のためには、休まずに作業に取り組むことを確認する】</p> <p>【これまでで仕上がった製品の合計数をもとに、本時の目標数を発表するようにする】</p> | | | |
| ・ 作業の準備を行う。 | 80 分 | <p>自分で使う道具や材料などを所定の位置にそろえる。</p> <p>【自分で使う道具置き場を決めておき、そこから持ってきて用意するようにする。】</p> <p>自分の用意する道具や材料が分かり、一人で準備している。</p> | | | |
| ・ 担当する工程の作業を行う。 | | <p>A (パルプ水作り)</p> <p>カップ 1 杯の再生パルプと色紙、水をミキサーに入れ、かくはんしてパルプ水を作る。</p> <p>【タイマーを 1 分間セットし、ブザーが鳴ったらミキサーを止めるようにする】【使い終わったカップは積み重ねておき、一日の作業量が分かるようにしておく】</p> <p>2 台のミキサーを操作して、2 色のパルプ水を作る。</p> <p>【ミキサーやタイマーをパルプ水の色に色分けしてお</p> | <p>C (紙漉作業)</p> <p>「はい」と返事をして A からパルプ水を受け取り「君どうぞ」と言って A にシールを手渡す。</p> <p>【相手を意識して返事をしたり、シールを手渡したりしている姿を賞賛する】</p> <p>「はい」と返事している。</p> <p>はがき用の木枠を使ってパルプ水をすく。</p> <p>【はがきが一定の厚さになるように、パルプ水の中に木枠を入れてから 10 数え</p> | <p>B (水切り作業)</p> <p>C から受け取ったはがきに水切り板をのせ、それを厚い板で挟んで、ぞうきんを巻いて万力で水分を切る。</p> <p>【ゆっくりでも、他のことに気を取られずに作業に取り組んでいる姿を称賛するようにする】</p> <p>1 枚のはがきの水切り作業が終わったら、すぐに次のはがきの水切り作業に取り組んでいる。</p> | <p>D (スタンプ押し)</p> <p>前時までには作り乾燥したはがきの形・大きさや重さについて、規格に合っているかを調べ、良品と不良品に分ける。</p> <p>【形・大きさについては、下限と上限を色分けしたシートにはがきを当てて、範囲内にあるかどうか、形が歪んでいないかどうかを判断できるようにする】</p> <p>【重さについては、はかりに印をつけて規格に合っているかどうかを判断できるようにする】</p> <p>【D が不良品と判断し</p> |

| | | | | |
|----------------------|---|--|--|--|
| | <p>き、混乱せずに2種類のパルプ水を並行して作れるようにする】</p> <p>2台のミキサーを中断なく使い、2色のパルプ水を作っている。</p> <p>できたパルプ水を「できました。お願いします」と言ってCの前にある容器にあける。 【連絡・報告したらCからシールを1枚もらい、台紙に貼るように促す】</p> <p>もらったシールをうれしそうに台紙にはっている。</p> | <p>るようにする】</p> <p>木枠をはずし、すいたはがきを水切り板にのせる。 【木枠がきれいにはずせるように、パルプ水から取り出してから10数えて待つようにする】</p> <p>はがきをすく際とパルプ水から取り出し木枠を取り外すまでの間、10数えている。</p> <p>水切り板にのせたはがきを「君、お願いします」と言ってBに渡す。 【名前を呼んでからBに渡せたときには大いに称賛する】</p> <p>Bの名前を呼んでから連絡・報告している。</p> | <p>水分を切ったはがきをベニヤ板に並べ乾燥させる。3枚できたら教師に「できました」と連絡・報告する。 【はがきが3枚並べられるベニヤ板を用意し、それを持って教師に連絡・報告するようにする】 【連絡・報告ができたことを大いに称賛するとともに、シールを渡し、台紙にシールがはれたことを一緒に喜び合う】</p> <p>もらったシールをうれしそうに台紙にはっている。</p> | <p>たはがきについて、どこが不良なのか説明を求め、正しく判断できているかを評価する】</p> <p>教師に対して、不良箇所を適切に説明している。</p> <p>規格に合っていたはがき（良品）に、郵便番号枠のスタンプを押す 【スタンプを押す位置を切り抜いた型紙を用意し、正しい位置にスタンプが押せるようにする】 3枚仕上げたら教師に「できました。検品してください」と連絡・報告する。 【大きな声で言えるようにするため、なるべく離れたところで教師が連絡・報告を受ける】</p> <p>離れたところにいる教師に聞こえるような声で連絡・報告している。</p> |
| <p>・ 本時の作業を振り返る。</p> | <p>10分</p> <p>本時の作業の目標が達成できたかどうか発表する。 【カップの数を自分で数え、作業を始めるの前に立てた目標が達成できたかを確認する】</p> | <p>【Bと一緒にすいたはがきの枚数を数えたり、不良品がないかを調べたりして、目標が達成できたかを確認する】</p> | <p>【Cと一緒にベニヤ板に並べたはがきの枚数を数え、作業を始める前に立てた目標が達成できたかを確認する】</p> | <p>【本時で仕上げたはがきの枚数を数え、これまでの枚数に加算して、目標数が達成できたかを確認する】</p> |

作業学習 【例2 年間を通じていくつかの作業種を展開する例】

1 年間指導計画例について

(1) 生徒の実態

作業学習を行う際の集団編成は、1年生2名(A、B)、3年生2名(C、D)の計4名の学級で編成されている。本学級の生徒の実態及び学級集団の特徴は次のようである。

- ・3年生2人は作業に意欲的に取り組むことができるが、自分本位な面が見られる。
- ・1年生2人は精神的に幼く、作業に集中することは難しい。
- ・1年生同士、3年生同士は仲が良くかわりも多いが、1年生と3年生のかわりが少ないため、学級集団としての仲間意識が乏しい。

以上のような実態から、本年度の作業学習では、3年生がこれまで経験してきた3つの作業種(農業・園芸・縫製)を時期をずらしながら並行して行うことにした。

1年生にとっては、作業種が一定期間で変わることによって、作業への興味・関心が高まり、作業に集中して取り組むことができるようになることを考えた。3年生にとっては、これまでの経験をもとに1年生に手本を示したり作業の仕方を教えたりすることができ、上級生としての自覚や責任感を培うことができると考えた。そして、作業を通して1年生と3年生がかかわる場面を多く設定することで、学級全体のまとまりを図っていきたいと考えた。

また、複数の作業種を組み合わせることで、立ち仕事中心の農業や園芸では体力を養ったり、縫製では手指の巧緻性を高めたりするというように、複数の作業種を組み合わせることで、働く上で必要な力を総合的に身に付けることができると考える。

(2) 年間の指導目標

- ・友達と協力して作業に取り組むことができる。
- ・時間いっぱい集中して作業に取り組むことができる。

(3) 年間指導計画

< 週4時間配当 >

| 月 | 単 元 名 (時間) | | | 主 な 学 習 活 動 |
|---|----------------------------|------------------------------|---------------------------------|--|
| | 農 業 | 園 芸 | 縫 製 | |
| 4 | | <園芸> 花壇を花いっぱいにしよう (24) | | <園芸>(サルビア、ヒマワリ、マリーゴールド) ・育苗箱に種をまく。 ・ポリポットに移植する。 ・花壇に移植する。 ・定期的に除草等の手入れを行う。 |
| 5 | <農業> サツマイモをつくろう (20) | | | |
| 6 | | | <縫製> 雑巾やランチョンマットを縫おう (20) | |
| 7 | | | | |
| 9 | <農業> 作品展で販 | | <縫製> ・線(印)に沿って縫い針を使って縫う。 | |

| | | | | |
|----|------------------------|------------------------------------|---|--|
| 10 | 売する野菜 をつくろう (24) | | < 縫製 > 作品展で販 売するラン チョンマッ トや巾着袋 をつくろう (28) | ・線(印)に沿ってミシンを使って縫う。 < 農業 > (ダイコン、ニンジン、ブロッコリー) ・畑を耕し、肥料を入れる。 ・畝を作り、苗を植える。 ・定期的に除草を行う。 ・収穫する。 |
| 11 | | < 園芸 > 卒業式に飾 る花を育て よう(24) | | < 縫製 > ・型紙をあてて布を裁断する。 ・裁断した布のふちかがりをする。 ・ミシンを使って縫う。 ・アイロンを掛けて仕上げる。 |
| 12 | | | | |
| 1 | | | | |
| 2 | 作 | 品 | 展 | < 園芸 > (パンジー、サクラソウ、スノーポール) ・育苗箱に種をまく。 ・ポリポットに移植する。 ・プランターに定植する。 ・卒業式の会場にプランターの花を飾る。 |
| 3 | | | | |

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 「卒業式に飾る花を育てよう」

(2) 単元について

園芸作業の前単元「花壇を花いっぱいにしてしよう」では、サルビアやヒマワリの栽培を行い、「作業に進んで取り組む」ことや「友達と力を合わせて作業に取り組む」ことを目標として、種まき、水やり、植え替え、除草などの作業に繰り返し取り組んだ。

その結果、作業経験の少ない1年生も、3年生のやり方をまねたり、3年生から教わったりして作業の手順や方法、移植ごて等の道具の使い方を覚え、自分から作業に取り組む姿が多く見られるようになった。そして、自分たちが育てた花が花壇一杯に咲いている様子を称賛され、作業に対する意欲や関心を高めることができた。

そこで、前単元の経験を生かし、本単元では、サクラソウやパンジー、ノースポールなどの花をプランターで育てて、3月の卒業式に飾ることを考えた。生徒たちは、小学校の時から毎年卒業式を経験しているため、イメージが持ちやすく、その会場を花できれいに飾るという目的意識が持ちやすい。自分たちが育てた花が飾られた会場で、3年生は中学校を卒業し、1年生はお世話になった3年生を見送ることになる。その満足感や成成感、生徒たちの今後の作業への意欲につながると思った。また、全員がほとんど同一の作業に取り組むことができるので、お互いに分からないときは言葉をかけたり、援助したりする場面を設定しやすく、生徒同士のかかわりを高めることができると考えた。

(3) 単元に関する生徒の実態

| 生徒名 (学年) | 作業への取り組みの様子 | 植え替え作業に かかる実態 | 人とのかかわりの様子 |
|-------------|-----------------|------------------|-----------------|
| A | ・教師の援助や指示を待つことが | ・プランターに入れる | ・自分から友達にかかわることが |

| | | | |
|-----------|---|-------------------------------------|--|
| (1年) | 多い。 ・作業で分からないことがあると、作業の手が止まったままであることがある。 | 土の量や、苗と苗の間隔を判断することが難しい。 | 少なく、受け身になることが多い。 ・分からないことを自分から友達や教師に聞くことは少ない。 |
| C (3年) | ・作業に対して見通しを持って意欲的に取り組むことができる。 ・作業の手順や方法の理解が早い が、作業が雑になることがある。 | ・植え替えをする際に、土の入れ方や苗の並べ方などが雑になることがある。 | ・友達が作業のやり方が分からないと、言葉をかけたり援助したりすることができるが、言い方が強くなることもある。 |

以下、A(1年)C(3年)のペアについて示し、B(1年)、D(3年)のペアについては省略する。

(4) 単元のねらい

- <全体> ・土作りや植え替えの作業に進んで取り組む。
・同じ目的に向かって、みんなで力を合わせて作業に取り組む。

<個別>

- A ・土作りや植え替えの作業に継続して取り組む。
・分からないことは自分から3年生や教師に聞く。
C ・できばえを意識し、正確に植え替えの作業をする。
・1年生に対し、作業の手本を示したり援助したりする。

(5) 指導方針

- ・1年生と3年生がペアになり、言葉をかけ合ったり、分からないときに援助したりしながら作業に取り組めるようにする。
- ・昨年度の卒業式会場の写真を作業場所に掲示し、生徒が作業の目的意識を持ちながら作業に取り組めるようにする。
- ・プランターに植える間隔や、プランターに入れる土の量を自分で判断して作業に取り組めるように、目印を付けるなどして教材・教具を工夫する。
- ・植え替えの手順や方法を全員で確認するとともに、3年生としての自覚が持てるようにするために、毎時間、作業を始める前に、3年生に手本を示してもらう。
- ・各生徒には次のような支援をする。
A：植え替えの手順や方法が分かるように、作業カード(植え替えの手順や方法を簡単なイラストで書いたもの)を用意する。
C：作業のできばえを自分で確認できるようにするために、見本を用意しておき、自分の物と比較するようにする。

(6) 単元の展開

<全24時間計画>

| | 学習活動 | 支援及び留意点 | | 時間 |
|---|------------|-----------------|-----------------|----|
| | | A | C | |
| 目 | ○卒業式の式場に飾る | ○昨年度の卒業式のビデオを見た | ○卒業する立場から、どんな会場 | 2 |

| | | | | |
|------------------|--|--|--|----|
| 的 を 知 る | 花を育てることを知る。 | り、小学校の卒業式を思い出したりして、卒業式に飾る花を育てたいという気持ちを持てるようにする。 | で卒業式をあげたいかを考え、花できれいに飾れるように花を育てようという気持ちを持てるようにする。 | |
| 種 を ま く | ○育苗箱に種をまく。 ○水やりをする。 | ○どんな花の種なのかが分かるように花の写真を用意しておく。 ○水やりの仕方を伝え、水やりの当番を決める。その際、1年生と3年生がペアになって行うようにする。 (ポリポットへの移植後やプランターへの定植後も同様とする) | | 2 |
| 移 植 す る | ○用土を作る。 ○ポリポットに用土を入れ、苗を移植する。 ○水やりをする。 | ○用土は赤玉土と腐葉土を混ぜて作る。 ○1年生と3年生が向かい合って移植の作業に取り組むようにする。 ○Bの作業のやり方をまねしたり、分からないことをBに聞いたりする。 | ○Aが困っているときには援助をするようにする。 | 8 |
| 定 植 す る | ○用土を作る。 ○プランターの底に軽石を敷く。 ○プランターの1/3程度まで用土を入れる。 ○ポットから苗を抜き取り、プランターに等間隔に苗を置く。 ○平らになるまで用土を入れる。 ○水やりをする。 | ○用土は赤玉土と腐葉土とピートモスを混ぜて作る。 ○軽石の分量は、コーヒーの缶で1杯を適量とし、入れた後平らにならすようにする。 ○植え替えの手順や方法が分かるようなカード(作業カード)を用意する。 ○小バケツに1杯の土を入れることで、プランターに1/3程度の土が入れられるようにする。 ○ポリポットの下穴から指を入れて、押し上げるようにして抜き取るやり方を示し、苗を傷めないようにする。 ○苗と苗の間隔がおよそ分かるまでの間、型枠を使って適度の間隔が開けられるようにする。 ○土入れ(スコップ型)を使って少しずつ土を入れるようにする。 | ○プランターの内側に目印の線を書いておき、線まで土を入れるようにする。 ○完成品の見本を用意しておき、自分が植えたものと比べられるようにする。 | 10 |
| 飾 る | ○式場に花を飾る。 | ○全員で花を並べる場所や並べ方を話し合う。話し合った結果を校長先生や教頭先生に報告する。 | | 2 |
| | 評 価 規 準 | ・作業の手を止めずに、時間いっぱい作業に取り組んでいる。 ・3年生の作業のやり方をまねしたり、分からないことを聞いたりしながら作業に取り組んでいる。 | ・作業のできばえを意識して、注意深く作業に取り組んでいる。 ・1年生に対して、手本を示したり、分からないことを教えたりしている。 | |

3 一単位時間の指導計画例について (以下省略)

日常生活の指導（朝の活動）

1 年間指導計画例について

(1) 生徒の実態

本学級には、1年生1名（D）、2年生2名（B、C）、3年生1名（A）の4名が在籍している。4名は、理解力は比較的高いながら他者とのやりとりが苦手な生徒や場面緘黙傾向の生徒、ダウン症候群の生徒等、一人一人の実態は非常に多様である。特徴的なことは、4名の内2名が小学校で通常の学級に籍を置き、そのまま本校の通常の学級籍の生徒として入学したものの、4月早々より担任から学習のつまずきが大きく、1年間本学級で多くの時間学習し、2年次より特殊学級へ籍を替えた生徒である。実際に、初めて接して率直に感じたことは、小学校でどのように過ごしてきたのか、と驚くように学習のつまずきの大きさがあるとともに、1名は場面緘黙、1名は非常にコンプレックスが強く、感情の起伏が激しい、というように精神的な歪みを強く感じる状態であった。

(2) 年間の指導目標

上述の実態から、生徒一人一人が主体的に生活できるように以下の項目を学級の重点目標とする。

・一日の始まりにおいては、一日の流れをつかみ、さらに一週間、一か月、学期、一年の流れを見通して生活できるようになる。

・朝を中心に带状に一週間、日常生活の指導の時間を取り、日常的に必要な活動を繰り返すことにより、周りの状況と自分の行うべき活動を判断して、指示されなくても行えるような力を養う。この時間を通して、同様に繰り返される活動を主体的に行える力を養うことで、学校生活全般に主体的に生活する気持ちを養い、将来の社会的自立の基礎となる力を養う。

・毎日繰り返される活動を通して手先の技能を養うとともに、日常生活に必要な知識・技能を身に付け、将来の就労の基礎とする。

(3) 年間指導計画

日常生活の指導の時間は、原則として毎日带状に取ることにし、及び週の初めは一週間の見通しを持つ意味から時間を多く設定することとする。したがって、月曜日は第1校時の1時間、火曜日から金曜日までは第1校時の前半（0.5時間）合計週3時間を校時表上設定する。

| 月 | 単元名 | 時間 | 主な学習活動 |
|----|------|-------|---|
| 年間 | 朝の活動 | 105時間 | あいさつ、一日の授業予定の確認、係の活動の確認、保健調べ、日直からの話、係活動 |

2 単元の指導計画例について

(1) 単元名 朝の活動

(2) 単元について

本学級の生徒の実態は、上述の通り知識・理解の状態やコミュニケーションの状況、精神的な安定さ、主体性等、非常に多様である。中学生は、社会に出る時期に近いが、本学級では生活上の課

題が個々の生徒にとって山積している。こうした、社会生活上の課題を解決するためには、毎日同じように整理された状況の下で学習が繰り返される「日常生活の指導」を校時表に帯状に位置付けることが必要であると考え。特に、見通しを持って主体的に生活するためには、毎日朝に一日の見通しを持つ朝の会が有効であろう。また、朝の会では、個々の生徒の生活に係わる多くの知識・技能的な項目を設定しやすい。さらに、個人差の大きな学習集団であっても、同一のテーマの基で個別の目標及び学習内容を設定することができるのが日常生活の指導の特性と言えよう。同時に、非常になじみ深い友だちや先生と同じような状況で活動できることから、対人的に関係を持つことが苦手な生徒にとっても、共同で活動したり、安心して人の前で必要なことを話したり、自分の考えを表現する場面を設定しやすい。したがって、対人関係や集団性の向上の育成に有効な学習であるとも言えよう。

本単元の構成は、基本的には一年間構成内容はほぼ変わらないが、それぞれの生徒の実態の変化に応じて、一つ一つの活動の内容を質的に高めていく。

(3) 単元に関する生徒の実態

| | A (3年) | B (2年) | C (2年) | D (1年) |
|---------------|---|--|---|--|
| 清潔面等の基本的生活習慣 | ・整理整頓が苦手であり、一つ一つの作業に手助けを必要とすることが多い。 | ・家庭的な事情で清潔面、衛生面での課題があり、特に洗濯の指導が必要である。 | ・教室の机の中やロッカーの整理はきちんとできている。その他、決められたことはきちんとできる。 | ・整理整頓が苦手であり、一つ一つの作業に手助けを必要とすることが多い。 |
| 文字、コミュニケーション等 | ・文字については、読みは平仮名を拾い読みする。書くことは、平仮名と音が一致してきて、単語レベルで書き表すことができてきた。 | 言葉遣いや行動全般に乱暴であり、対人関係全般において他者とのやりとりが苦手である。 | ・平仮名の表記で助詞の使い方等に少し誤りはあるが、簡単な文章は書くことができる。漢字は、小学校低学年のものを学習中である。 | ・漢字の読み書きは、ごく身近な漢字以外は難しい。平仮名は音と文字が一致しているが、自分から文を作ることは難しい。 |
| その他 | ・一日の授業の流れは板書の予定表を見てほぼつかむことができるが、交流学級等教室移動は指示を必要とすることが多い。 | ・一日の流れや数ヶ月先の行事の予定などつかんで生活できているが、対人的に他者とコミュニケーションを取ることが難しい。 | ・1年生の頃はほとんど自分から話すことはなかったが、友達を中心に少しずつ会話が見られるようになってきている。 | ・周りの友達の行動を見ながら、自分も合わせて動こうとする面が見られるが、自分の思い込みで動いてしまうことが見られる。 |

(4) 単元のねらい

<全体>

- ・今の時間に自分がすべきことを自ら判断し、自ら活動することができるようになる。
- ・生活上必要とする知識・技能を身に付ける。

<個別>

- A・自分の行うべきことを、手順表を見たりしながら自分で気づいて行うことができる。

- ・一日の授業予定を個別日誌に書くことで、一日の流れをつかむことができる。
- B・細かいところに注意を向けて、一つ一つの動作をきちんとできる。
 - ・友達のことを気遣い、協力して活動を行うことができる。
- C・自分の行うべきことを、自分で気づいて行うことができる。
 - ・一日の授業予定を個別日誌に書くことで一日の流れをつかむことができる。
- D・自分の行うべきことを、手順表を見たりしながら自分で気づいて行うことができる。
 - ・一日の授業予定を個別日誌に書くことで、一日の流れをつかむことができる。

(5) 指導方針

- A・直接的な指示ではなく、自ら気付いて活動が展開できるような環境設定を行う。
 - ・日常的な見通しを持てる状況下で主体的に動くことで自分自身への自信を育てる。
- B・毎日繰り返しの活動を利用して、自分の課題をはっきり意識させる。
 - ・なじみの条件による安心感の中で自分の気持ち分かりやすく他者に伝える気持ちを養う。
- C・日常的な見通しを持てる状況下で主体的に動くことで自分自身への自信を育てる。
 - ・なじみの条件による安心感の中で自分の気持ち分かりやすく他者に伝える気持ちを養う。
- D・直接的な指示ではなく、自ら気付いて活動が展開できるような環境設定を行う。
 - ・日常的な見通しを持てる状況下で主体的に動くことで自分自身への自信を育てる。

(6) 単元の展開

| 生徒 | 学習活動 | 支援及び留意点 | 評価規準 | 時間 |
|----|--------------------------------|---|--|-----------|
| A | ・挨拶 ・一日の授業予定の確認 ・係の活動の確認 | ・分かりやすい週時程表を準備して、授業予定や教室の確認をしやすいように工夫する。 ・自信を持って活動に取り組めるよう賞賛や励ましの声かけを積極的に行う。 | ・一日の授業予定や教室が分かっている。 ・落ち着いて友達と共同で活動を進めている。 | 105 時間 |
| B | <朝の会> ・今日の授業予定 | ・一つ一つきちんと行うという自分の課題を自分で意識できるような声かけや教材の工夫を行う。 ・対人関係を育てることができるよう、他者を意識する場面を意図的に設定する。 | ・手先に注意してきちんと最後まで作業している。 ・必要なことをみんなの前できちんと話している。 | |
| C | ・保健調べ ・日直からの話 ・先生からの話 | ・C自身が自分でなすべきことに気付きやすい手順表などの教材を工夫する。 ・対人関係を育てることができるよう、他者を意識する場面を意図的に設定する。 | ・手順表などを見て、自ら活動している。 ・友達の前で必要なことを話している。 | |
| D | 係活動 | ・分かりやすい週時程表を準備して、授業予定や教室の確認をしやすいように工夫する。 ・自分でなすべきことに気付きやすい手順表などの教材を工夫する。 | ・一日の授業予定や教室が分かっている。 ・手順表などを見て自らすべきことをしている。 | |

3 一単位時間の指導計画例について

(1) 本時のねらい

<全体>

- ・一日の始まりにあたり、一日の授業予定を理解して、主体的に今日の学校生活を送ることができるように見通しを持つ。
- ・学級における自分の役割分担を果たす。

<個別> - 全体目標の他に特に個別に目標とする事項 -

- A・一人でゴミ捨てをきちんとできる。
- B・日直として朝の会の司会や確認事項やみんなに分かりやすく話すことができる。
- C・保健係としてみんなに聞く項目を、みんなに聞こえるように質問することができる。

D・花の水やりが一人でできる。

(2) 準備

黒板の予定表、日直日誌、個別の日誌帳、係の表、保健確認表、出席簿、ラジカセ、マイク

(3) 展開

| 活動の流れ | 時間 | 活動のねらいと支援 | | | |
|--|-----|---|--|---|--|
| | | A | B | C | D |
| 朝のあいさつ | 1分 | 周りの動きに合わせて 気持ちを養う ・日直の号令を聞いて あいさつをする | 全体の中での役割意 識を育てる ・号令をかける ・以下司会をする | 全体指示を聞いて動 く気持ちを養う ・日直の号令を聞いて あいさつをする | 周りの動きに合わせて 気持ちを養う |
| 一日の授業 予定の確認 | 7分 | 一日の自分の授業の予定とそれぞれの時間に自分が学ぶ教室を理解する | | | |
| | | 文字と音の対応を確 実にする ・黒板に書いてある今日 の予定を見ながら一日 の授業予定を各自が自 分の日誌帳に書く。 【文字を書いたら音 声を添えて対応を図 る】 | 一つ一つの文字を丁 寧に書く 【乱暴になりそうな ときは、注意を促す 言葉をかける】 | 身近な漢字を正確に 覚える 【間違ったときは、 手本を手元に示し読 みも添える】 | 身近な漢字を正確に 覚える 【特に文字と音の対 応を図るために、読 みを添える】 |
| 係活動の確 認 | 7分 | 今朝、自分が行う係の仕事は何か理解する | | | |
| | | 係の表を見てゴミ捨 て係であることを理 解する ・係の表を見て各自が 自分の仕事を日誌帳に 書いて確認する。 【書くことについて の支援は、一日の授 業予定の確認と同じ】 | 日直の仕事の日直日 誌を見て理解する ・日直の話を考える。 【新聞等を用意して おいて、話が出ない ときはヒントとして 出す】 | 係の表を見て保健係 であることを理解す る 【書くことについての 支援は、一日の授業予 定の確認と同じ】 | 自分で係の表を見て 花の水やりであるこ とを理解する |
| 朝の会 ・今日の授業 の予定 ・係活動の確 認 ・保健調べ ・日直の話 ・先生の話 | 10分 | 友達や先生の話に注 意して聞き、必要な ことを聞き取る力を 養う ・日直や保健係、先 生の話聞いて、一 日の授業予定や係の 仕事を再確認する。 ・歯磨きやハンカチ ・ティッシュの携帯 を確認する。 【必要に応じて横に | 周囲の様子をよく見 て、分かりやすく話 す気持ちを養う ・今日の授業予定、 係活動の分担をみん なに話す。 ・家でのことや気にな ったニュースなど について話をする。 【はっきり聞こえな かったときは、みん なに聞こえたか確認 | みんなの前で話すこ とに慣れることで、 自信を養う ・保健係として出欠 の確認や歯磨き、ハ ンカチ・ティッシュ の携帯の確認を行う。 【みんなに声が伝わ らないときは、無理 せずマイクを使う】 | 友達や先生の話に注 意する気持ちを養う ・日直や保健係、先 生の話聞いて、一 日の授業予定や係の 仕事を再確認する。 ・歯磨きやハンカチ ・ティッシュの携帯 を確認する。 【必要に応じて横に ついて、分かったこ とを確認する】 |

| | | | | |
|-----|-----------------------|---|---|--|
| | ついて、分かったことを確認する】 | し、必要に応じてもう一度話すことを求める】 | | |
| 係活動 | 自分の分担を自分から進んで行うことができる | | | |
| | 7分 | <p>できるだけ指示を受けずに自ら仕事を展開する気持ちを養う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定されたゴミ捨て場にゴミ箱のゴミを捨ててくる。 【一人で役割を果たせるように、陰から動きを見守る】 <p>・落ち着いて朝の活動に取り組んでいる</p> <p>・ゴミ捨てを一人で最後まで行っている</p> | <p>責任を持って一つ一つ丁寧に行く意識を養う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日直日誌に記入する。 ・欠席者を黒板に書く。 【必要以上の声がけは控え、乱暴気味なときは言葉をかけて丁寧に行くことを気付くようにする】 <p>日直誌に丁寧に記入している</p> | <p>担任以外の先生とも必要なことをきちんと話せるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席簿を保健室に置いてくる。 【養護教諭とはこの緘黙性について共通理解しておき、養護教諭に対応を任せる】 <p>・保健室の養護教諭にきちんとあいさつしている</p> <p>・出席簿を所定のところに置いている</p> |



第4章 総合的な学習の時間

1 知的障害特殊学級における「総合的な学習の時間」の位置づけ

知的障害特殊学級で教育課程を編成する場合のよりどころは、原則的には小学校・中学校学習指導要領である。したがって、「総合的な学習の時間」の位置づけも、基本的には通常の学級と同様に3学年以上で「総合的な学習の時間」を設けることになる。しかし、児童の障害等の実態から、知的障害養護学校小学部の教育課程を参考にして特別な教育課程を編成している特殊学級では、どのように考えたらよいであろうか。知的障害養護学校小学部では、教科として生活科が設定されていたり生活単元学習など領域・教科を合わせた指導が行われたりしているため、「総合的な学習の時間」を設けていない。しかし、特殊学級は、特別な教育課程を編成していても、小・中学校に設置された学級であり、小学校・中学校学習指導要領を基準とすることが原則とされているので、やはり通常の学級と同様に第3学年以上では、「総合的な学習の時間」を設けることに留意する必要がある。

なお、総合的な学習の時間が位置づけられていない1・2年生と他の学年の児童が混在している学級では、次のような対応が必要となる。

ア 他の教員の協力を得て、2年生以下は他の教科・領域等の学習をする。

イ 学級で同じような活動に取り組むが、2年生以下は生活科または生活単元学習、3年生以上は総合的な学習の時間として位置づけて実施する。

イの場合、生活単元学習等と総合的な学習の時間の違いを踏まえて、ねらいや趣旨に沿った指導が必要となる。

2 知的障害特殊学級における「総合的な学習の時間」の実施形態

特殊学級での実施形態としては、以下の方法が考えられる。

ア 特殊学級単独で実施する

イ 児童生徒が参加可能な内容、活動のとき、協力学級に行って学習し、その他は特殊学級で学習する

ウ 各児童生徒が協力学級に行って一緒に学習する

エ 全校合同で実施する場合、その中に特殊学級も共に入って実施する

これらの形態は、常に固定的に考えるものではなく、単元の内容、活動によって、形態を変えながら柔軟に対応することが大切である。

また、他の学校の特殊学級と合同で計画、実施することも考えられる。

3 「総合的な学習の時間」に充てる授業時数

特殊学級における総合的な学習の時間に充てる授業時数については、小・中学校で定められている授業時数

(表1参照)を基本とするが、児童生徒の障害の状態や発達段階などを考慮して、それぞれ適切に定めることができる。また、授業時間の配当及び一単位時間の扱いについては柔軟にできるようになっている。必要なときに一単位時間を拡大または縮小したり、年間を見通した上で特定の日や週、一定の期間にまとめ取りしたりするなど、各学校において活動内容に応じた配慮をする必要がある。

<表1>小・中学校の授業時数

| | | |
|---|--------|------------|
| 小 | 第3、4学年 | 105単位時間 |
| | 第5、6学年 | 110単位時間 |
| 中 | 第1学年 | 70～100単位時間 |
| | 第2学年 | 70～105単位時間 |
| | 第3学年 | 70～130単位時間 |

4 知的障害特殊学級における「総合的な学習の時間」の進め方について

(1) 活動内容とテーマ設定

学習指導要領に例示されている課題として、以下の三つがある。

横断的・総合的な課題

国際理解、情報、環境、福祉・健康など

児童生徒の興味・関心に基づく課題

進路、生命、生き方、人間関係、人権、災害など

地域や学校の特色に応じた課題

地域や郷土、伝統的文化や芸能、行事関連学習など

これらは、あくまで例示であり、これら以外にも、各学校において、「総合的な学習の時間」の趣旨、ねらいに即した活動を考え、創意工夫しながら展開していくことが望まれている。

県内の各学校で実践されている「総合的な学習の時間」のテーマについて、上述の課題に沿って分類したものが、P.5の<表3>に示されている。

(2) 学習活動展開上の留意点

ア 体験の重視

学習活動の中に体験活動を取り入れ、それを軸に学びが発展・深化することが大事である。知的障害特殊学級では、児童生徒の興味・関心から出発することにやや難しさもある。そこで、体験活動を通して、児童生徒の興味・関心を喚起しながら、学習を進展させていくのも一つの方法である。また、障害の重い児童生徒にとっては、具体的な体験活動を繰り返すことにより、見通しがもてるようになったり、人や物とのかかわりを広げるきっかけになったりして、主体的な活動が引き出されることはよくあることである。

イ 支援の工夫

知的障害特殊学級の場合、児童生徒自ら学習活動の導入段階でテーマを設定したり、課題を見付け出したりすることは難しく、教師が主導することが多くなるであろう。しかし、それは方向性を示すだけであって、児童生徒の興味・関心や意欲、考えや意見をいかに引き出していくかがポイントとなる。児童生徒一人一人の気づきを促したり、活動を広げたりするきっかけを提案したり、児童生徒が気づかずにいることで、思いや願いを実現するために必要な方法や資料、具体例などを紹介して、自ら選択できるようにしたりする支援を行いながら、児童生徒が主体的に課題解決をする場面を多くしていくことが大切である。

ウ 評価の工夫

児童生徒の障害の状態や発達段階等を十分に考慮して、「総合的な学習の時間」を通して児童生徒に育てたい力を明確にする必要がある。そして、その観点から児童生徒の意欲や態度を重点にして評価する。

また、児童生徒による自己評価・相互評価も大事にする。「自分の力でできた」、「先生や友達に認めてもらった」という自信の積み重ねが自分のよさの発見や新たな成長の気づきになり、自分の生活や生き方との結びつきを深めていくことになる。

(3) 「総合的な学習の時間」と「生活単元学習」との関係について

新学習指導要領で「総合的な学習の時間」が創設されて以来、特殊教育の現場では、領域・教科を合わせた指導である「生活単元学習」とどう違うのかについて、様々な議論がされてきている。大きく分けると、「総合的な学習の時間」と「生活単元学習」を同一視あるいは包含されるという考え方と、明確に区別されるという考え方の二つである。理論的な考え方は、それぞれの研究者で異なっているが、「総合的な学習の時間」について学習指導要領解説（総則等編）に、「個々の課題について何らかの知識を身に付けることが目的ではなく、また、課題を具体的に解

決することそのものに主たる目的があるのではない。・・・」と述べられていることから、基本的には「生活単元学習」とは概念を異にすると考えるのが分かりやすいといえる。「生活単元学習」が、生活上の課題を達成するために必要な一連の活動を行う中で、領域・教科の内容を指導する一つの形態であることを考えると、自ら学び自ら考え、問題を解決する力などの“生きる力”の育成や、学び方やものの考え方の習得などのねらいだけが示された時間の枠としての「総合的な学習の時間」とは、位置づけについては明らかに違うことが分かる。(具体的な違いについては<表2>参照)

それでは、実際に「総合的な学習の時間」のテーマや活動内容を設定するとき、「生活単元学習」との違いを踏まえてどのように考えていったらよいだろうか。具体的には次のような例が考えられる。

- ア 学校教育への新たな要請である横断的・総合的な課題(国際理解、情報、環境、福祉・健康など)については、これまで生活単元学習で扱うことが少なかった課題であるので、児童生徒の実態に応じて「総合的な学習の時間」として積極的に取り上げる。
- イ 学校(学級)間交流や地域交流、進路に関する学習など、これまで教育課程上の位置づけが明確になっていなかったものを、物作りや見学、調査、発表などの活動を加えて「総合的な学習の時間」として位置づける。
- ウ これまで生活単元学習として行ってきた活動内容に、児童生徒の自主的な調べ学習や発表活動を取り入れたり、ゲスト・ティーチャーを招いて指導を受けたりすることにより、「総合的な学習の時間」として位置づける。

<表2> 「総合的な学習の時間」と「生活単元学習」の比較

| | 総合的な学習の時間 | 生活単元学習 |
|------|---|---|
| 趣 旨 | ・「生きる力」を培う上で、各教科、道徳、特別活動などの指導のほか、横断的・総合的な学習を豊かに展開していくことが有効であり、そのために重視すべき教育活動として総合的な学習の時間が位置づけられている。 | ・児童生徒が生活上の課題処理や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習するものである。 |
| ねらい | 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。 | ・特に示されていないが、体験的な学習、問題解決的な学習などを通して、各教科等の内容を習得することが主なねらいといえる。 |
| 形 態 | ・時間の枠であり、教科等の枠組みを越えた横断的・総合的な内容を扱う | ・領域・教科を合わせた指導の形態 |
| 位置づけ | ・小学校では第3年生以上から教育課程に位置づけられる。 ・知的障害養護学校では、中学部から教育課程に位置づけられる。 | ・学年、学部の制限はない。 ・教育課程に必ず位置づけなければならないということはない。 |
| 時 間 | ・小学校3・4年生は105単位時間など、各学年で時間が定められている。 ・養護学校では、適切に定めることとなっている。 | ・指導時間は定められていない。 |
| 内容、課 | 具体的な内容は示されていないが、以下のような課題 | ・特に例示はされていないが、一般的 |

| | | |
|------|---|--|
| 題 | が例示されている。 ・国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題 ・興味・関心に基づく課題 ・地域や学校の特色に応じた課題 | に生活に即した行事、季節、偶発的事柄に関する単元や、生活上の課題に関する単元などが扱われる。 |
| 配慮事項 | ・社会体験や観察、見学、調査、発表、ものづくりなど体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れる。 ・多様な学習形態や地域の人的・物的資源を活用する。 ・国際理解に関する内容を小学校段階から取り入れる。 | ・特に定められていないが、体験的な学習や問題解決的な学習、多様な学習形態、地域の物的資源の活用などは日常的に配慮されているといえる。 |
| 評価 | ・自ら取り組む姿、自ら考える姿など意欲や主体的な態度を中心に、児童生徒の生活の質的变化という観点から評価する。 | ・知識・技能の習得など、領域・教科の目標に沿った評価を中心に、主体性、集団参加の状況なども評価する。 |

6 県内の知的障害特殊学級における「総合的な学習の時間」の実施状況に関するアンケート調査結果から（主な内容を抜粋）

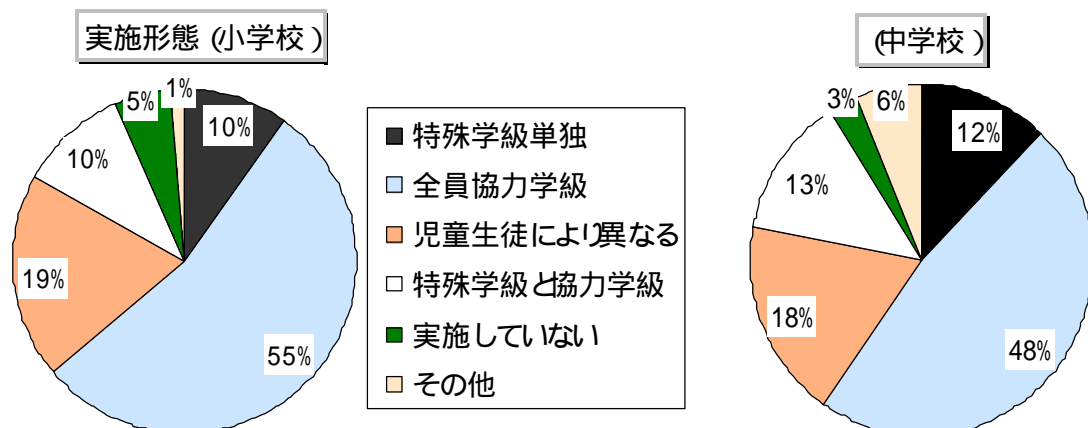
実施時期 平成14年10月～11月

対象 県内の知的障害特殊学級設置小・中学校 405校（小学校268校、中学校137校）

回収率 87.7%（小学校241校：89.9%、中学校114校：83.2%）

1 実施形態について

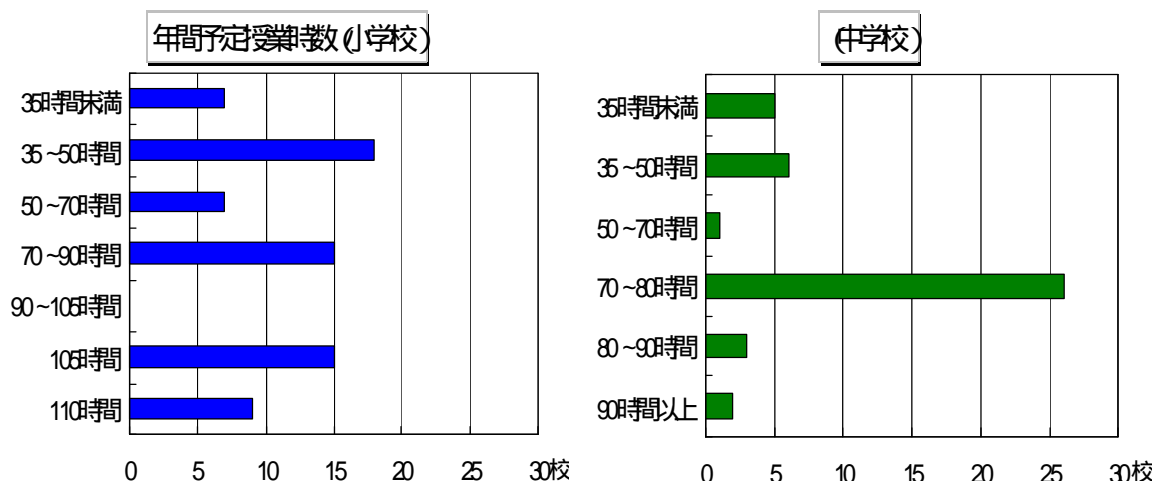
「総合的な学習の時間」を特殊学級単独で行っている学校は、小学校で10%、中学校で12%とほぼ1割の学校で実施しているのみであった。一方、小学校3年生以上の児童生徒全員が協力学級に行つて「総合的な学習の時間」の授業を受けている学校は、小学校54%、中学校48%と約半数となっている。その他、小学校3年生以上の児童が在籍している小学校の特殊学級で、「総合的な学習の時間」を位置づけていない学校が5%、中学校では3%あった。



2 年間予定授業時数

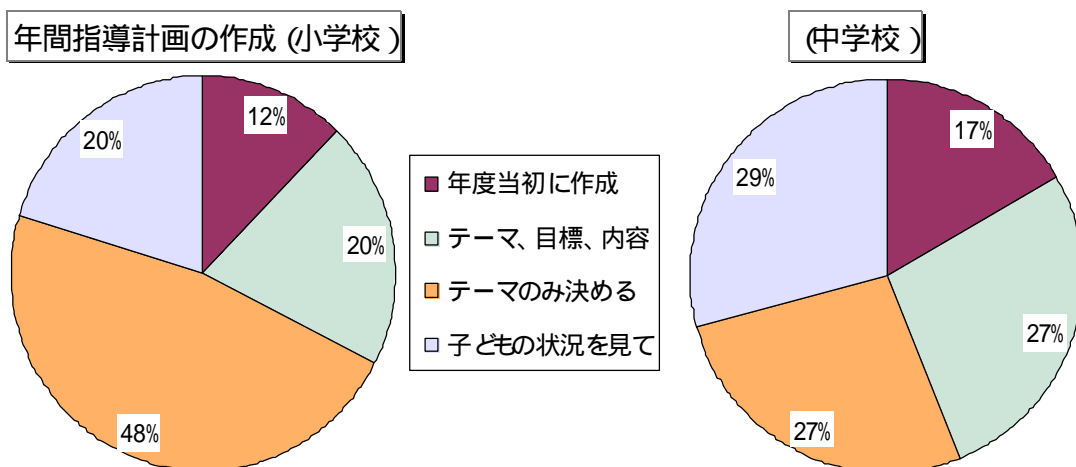
小学校では、35～50時間が18校と最も多く、次いで70～90時間と105時間が共に15校、110時間が9校、50～70時間と35時間未満が共に7校となっている。

中学校では、70～80時間が26校と圧倒的に多く、次いで35～50時間の6校、35時間未満の5校、80～90時間の3校、90時間以上の2校、50～70時間の1校という順となっている。



3 年間指導計画の作成

「総合的な学習の時間」の年間指導計画を年度当初（前年度末を含む）に作成している学校は、小学校が12%、中学校が17%である。年度当初は、テーマ、目標、主な活動内容を押えて、具体的な計画は実践前に立てる学校は、小学校が20%、中学校が27%、また、年度当初は主なテーマのみを押えている学校は、小学校が48%、中学校が27%となっている。年度当初はテーマを決めず、児童生徒の興味・関心、願い、学習の様子などを見ながら計画を立てている学校が、小学校で20%、中学校で29%あるという結果になっている。



4 テーマ（活動名）

「総合的な学習の時間」を特殊学級で行っている学校（特殊学級単独または、協力学級と特殊学級の両方で行っている学校）において、どのような活動を実践しているかまた実践する予定か、その具体的なテーマ（活動名）をあげてもらい、それを課題別に分類したものが以下の表である。

<表3> テーマ分類表

()内：同様のテーマを取り上げた学校数

| テーマ分類 | 小学校の例 | 中学校の例 |
|-------|---|-------|
| 外国語学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・ALTと英語を話そう（11） ・英語であそぼう（10） | |

| | | | |
|----------|-----------|--|--|
| 国際理解 | | <ul style="list-style-type: none"> ・英会話を楽しもう(19) ・英語であいさつしよう(2) ・簡単な英単語のカルタであそぼう ・テレビ「エイゴリアン」(2) | |
| | 人との交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・ALTとあそぼう(4) ・外国の人と仲良くしよう(2) ・国際交流員の方と交流しよう | <ul style="list-style-type: none"> ・ALTとの交流(2) ・ALTと調理をしよう |
| | 世界の理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国を調べよう(4) ・外国の遊びを教えてもらおう(3) | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな国の生活を知ろう ・地図で旅しよう |
| 情報 | 世界の料理 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界の料理を調べよう(2) | |
| | パソコン活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンに慣れよう(11) ・パソコンを楽しもう(11) ・パソコンで学習しよう(7) ・パソコンでゲームをしよう(7) ・パソコンを使ってカレンダーを作ろう ・パソコンを使って作品を作ろう ・パソコンを使って手紙を書こう | <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使おう(2) ・パソコンを使って発表しよう ・コンピュータソフトを使って学習しよう |
| | インターネット活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの活用(2) ・ホームページをつくらう ・メール交換をしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使って調べよう(4) |
| 環境 | その他 | | <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン室の使い方 |
| | 環境調査美化 | <ul style="list-style-type: none"> ・川の生き物を調べよう ・身近な環境問題を考えよう(2) ・地域の環境をきれいにしよう(3) ・地域の自然(2) ・花壇をきれいにしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の環境整備(3) ・住んでいる町について調べてみよう ・地域の自然、動物について調べよう |
| | ゴミ問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内のゴミ拾い(2) ・クリーン作戦(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・校庭・校舎内のゴミ拾い ・除草作業(2) ・ゴミについて調べよう(2) ・リサイクルについて考えよう |
| | 体験活動重視 | <ul style="list-style-type: none"> ・牛乳パックで紙すきをしよう(3) ・紙パックでつくらう | <ul style="list-style-type: none"> ・牛乳パックではがきを作ろう(2) ・ケナフの栽培 ・竹炭づくり ・林業体験学習 ・農業を体験しよう |
| 福祉・健康 | 生き物 | <ul style="list-style-type: none"> ・鳥について調べよう(2) ・うさぎの世話をしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・めだかの飼育 ・校庭樹木マップづくり |
| | 人との交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りとふれあおう(6) ・たなばた交流 ・養護学校の友達と交流しよう ・仲良くあそぼう(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々とふれあおう ・お年寄りとの交流 ・学校の友達、先生とふれあう |
| | 健康教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・じょうぶな体をつくらう(2) ・うがい・手洗いをしよう ・歯みがきをしよう(2) ・食べ物のはたらき | <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯、風邪などについて調べよう ・食べ物について考えよう ・食べ物と生活 ・肥満を防ぐ食事 |
| 地域の文化・自然 | 体験活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア(落ち葉掃き他)(3) ・プレゼント作戦 | <ul style="list-style-type: none"> ・手話でコミュニケーション |
| | 地域の文化・自然 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然、季節を感じよう ・(地域名)カルタについて(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域について知ろう(5) ・地域について調べよう(3) |

| | | | |
|----------|---------|--|--|
| 地域・学校の特色 | | <ul style="list-style-type: none"> ・町探検をしよう(5) ・かかし祭りに参加しよう ・子ども祭りに参加しよう | <ul style="list-style-type: none"> ・町の紹介 ・群馬の地域探検(上毛かるた使用) ・まつりについて調べよう |
| | 地域の産業 | <ul style="list-style-type: none"> ・稲作をしよう(5) ・こんにゃくづくり(4) ・しいたけ栽培 ・蚕はかせになろう ・桐生和紙に学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業とくらし ・しいたけ栽培 |
| | 食学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の食べもの発見 ・ふれあいまつりで発表しよう | |
| 興味・関心 | 進路 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来を見つめて ・好きなお店、なりたい職業 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の進路を考えよう～高等学校・養護学校～(2) ・自分の進路を考えよう～将来の仕事 ・いろいろな職業を調べよう(3) ・福祉施設の様子について調べよう ・自分の将来を見つめよう |
| | 調査観察活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・化石について調べよう(2) ・学校区を探検しよう ・日本の県名や群馬県のことを知ろう ・調べてみたいこんなこと ・田んぼの生き物さがし ・昆虫・植物の観察 | <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫について調べよう ・生物の観察 |
| | 製作活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・のれんを作ろう ・アクセサリーを作ろう | <ul style="list-style-type: none"> ・新聞づくり ・手作りカレンダー |
| | 飼育・栽培 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハムスターを飼おう ・畑で野菜を育てよう(13) ・草花を育てよう(12) ・野菜を育てて収穫祭をしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・野菜作りをしよう(2) ・草花を育てよう ・米づくり |
| | 食べ物・調理 | <ul style="list-style-type: none"> ・野菜を育てて料理しよう(5) ・手打ちうどんをつくろう ・落花生の栽培とピザ・カツカレー作り ・べっこう飴をつくろう ・干し柿をつくろう | <ul style="list-style-type: none"> ・休日のお昼づくりを考えよう ・食べたいものを作ろう(2) ・栄養素について |
| | 劇等の発表・店 | <ul style="list-style-type: none"> ・ペープサートによる劇を地域や校内で発表しよう ・人形劇をしよう ・物語を作って発表しよう ・野菜作りをして八百屋さんを開こう ・手作りパン屋さんを開こう ・お楽しみ会をしよう(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・とうもろこしを育てポップコーンのお店を開こう ・作物を売りに行こう ・花屋さんになろう |
| | 遠足的行事 | <ul style="list-style-type: none"> ・交流遠足に行こう ・修学旅行に行こう(2) ・遠くへ行きたい | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の首都、東京へ行こう ・他校の友達とりんご狩りに行こう ・修学旅行に行こう(2) ・「展」の見学に行こう(2) |
| | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊学習に向けて ・合同運動会に向けて ・児童作品展に向けて取り組もう(2) ・卒業めざして取り組もう ・交流会に行こう(4) | <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭 ・ふるさとの駅利用体験学習 ・小学校に手紙を出そう ・福祉作業所と交流しよう |

| | | |
|-----|--------------------|--|
| | ・「6年生を送る会」をみんなで作ろう | |
| その他 | | ・日本の文化と伝統に触れ、生活を豊かにしよう(茶道、季節の行事調べ、収穫祭、抹茶碗づくり、そば作りとそば打ち、行事に関するおやつ作り・食事作り) |

5 ゲスト・ティーチャー、施設や機関

特殊学級で活用しているゲスト・ティーチャーと、施設・機関は次の表のとおりである。

<表4> 【ゲストティーチャー】

<表5> 【施設 機関】

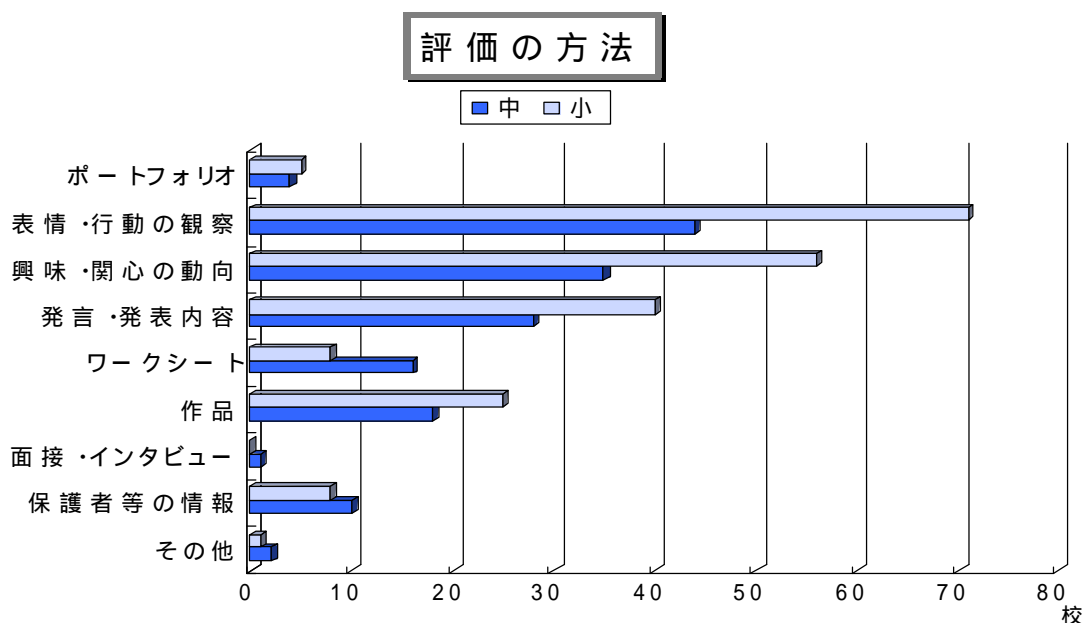
| | 小学校 | 中学校 | | 小学校 | 中学校 | |
|------------------|---|--|---------------------------------------|--|--|--|
| 地域の 人 | <ul style="list-style-type: none"> ・区長(2) ・民生委員 ・農家の人(5) ・地域の老人会長 ・シルバーの方(2) ・和紙職人 ・公民館の人 | <ul style="list-style-type: none"> ・商店の人 ・農家の人(4) ・そば打ちの先生 ・祭りの実行委員 ・高齢者 | 地域 に あ る 公 共 施 設 | <ul style="list-style-type: none"> ・県庁 ・市役所、役場 ・社会体育館(2) ・公民館(7) ・児童館(2) ・青年の家 ・学習センター(2) ・野外活動センター ・県立自然史博物館 ・公立図書館(3) ・少年科学館(2) ・公園(3) ・まゆドーム ・福祉センター ・老人センター ・デイサービスセンター ・清掃センター ・保育園 ・幼稚園 | <ul style="list-style-type: none"> ・市役所(2) ・役場(4) ・体育館(2) ・文化会館 ・公民館(2) ・図書館(8) ・郷土資料館 ・美術館 ・県立自然史博物館 ・埋蔵文化事業団 ・福祉センター ・交番(2) ・消防署 ・少年科学館 ・プラネタリウム ・公園 | |
| 専 門 家 | <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン指導助手(4) ・国際交流員 ・心理相談員 ・養蚕をしている人 ・織物会社の人 | <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化事業団職員 ・林業事務所の方 ・しいたけ栽培農家 ・特別非常勤講師 ・茶道の先生 ・陶芸の先生 ・東京電力(ケナフ) | | 企業 | <ul style="list-style-type: none"> ・こんにやく工場 | |
| 保 護 者 | <ul style="list-style-type: none"> ・父親(2) ・母親(5) ・祖母 | <ul style="list-style-type: none"> ・母親 | | 商 店 | <ul style="list-style-type: none"> ・地元の商店(4) ・スーパーマーケット(4) ・薬局 ・パンや ・雑貨店 ・デパート | <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケット(2) ・ショッピングセンター ・ホームセンター ・ペットショップ ・飲食店 ・菓子店 ・雑貨店 |
| 他 の 教 師 | <ul style="list-style-type: none"> ・ALT(18) ・校長 ・教頭(2) ・教務主任 ・担任外教師 ・協力学級担任(2) ・養護教諭(4) ・栄養専門員 ・補助教諭 ・語学教育指導員 ・パソコン教師(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・教務主任 ・養護教諭 ・栄養士 ・家庭科教師 ・高等養護学校教師 ・公仕(3) ・ALT(3) ・パソコン教師 ・樹木に詳しい教師 | | そ の 他 の 施 設 | <ul style="list-style-type: none"> ・養護学校 ・伊香保グリーン牧場 ・郵便局(2) ・NTT ・プール ・寺院 ・神社 ・遊園地 ・道の駅 ・りんご園 | <ul style="list-style-type: none"> ・県庁 ・高等養護学校(3) ・少年自然の家 ・青年の家(2) ・障害者職業センター ・福祉作業所(3) ・授産施設(2) ・ハローワーク ・窯元 ・神社(3) ・寺院(2) ・りんご園 |
| そ の 他 | <ul style="list-style-type: none"> ・群大留学生 ・県国際課研修生 ・中国からの研修生 ・人形劇のグループ ・外国籍の友達 | <ul style="list-style-type: none"> ・本学級卒業生 ・業務員 ・福祉作業所所長(2) | | | | |

6 評価の方法

「総合的な学習の時間」において、児童生徒の学習活動をどのような方法で評価しているか、次の項目の中から選んでもらった(複数回答可)。

- | | |
|---------------|--------------|
| ア ポートフォリオ | イ 表情や行動の観察 |
| ウ 興味・関心の動向 | エ 発言・発表内容 |
| オ ワークシートの記述 | カ 作品 |
| キ 面接、インタビューなど | ク 保護者等の意見、情報 |
| ケ その他 | |

小学校・中学校共に、同じような傾向が見られ、最も多かったのが「表情や行動の観察」で、次いで「興味・関心の動向」、「発言・発表内容」、「作品」、「ワークシートの記述」、「保護者等の意見、情報」の順になっている。



7 実践上の課題

特殊学級で「総合的な学習の時間」を実践していく上での課題としてあげたものは、小学校と中学校で傾向の違いが出ている。小学校では、「生活単元学習等との関連」が41校と圧倒的に多く、次いで「個に応じた活動内容の選定と支援」、「協力学級や通常の学級との連携」、「カリキュラム開発」、「評価の内容、方法」が上位を占めている。一方、中学校では、「個に応じた活動内容の選定と支援」と「協力学級や通常の学級との連携」が15校以上で上げられているが、小学校で多かった「生活単元学習等との関連」は、11校にとどまっているのが特徴である。

課題として具体的に上げられた主な内容は、以下のとおりである。

「生活単元学習等との関連」

- ・生活単元学習と総合的な学習の時間の違いは何か。
- ・生活単元学習とどう区別し、どう関連づけて計画を立てたらよいのか。
- ・どちらとも区別が付かない活動になりがちである。

「個に応じた活動内容の選定と支援」

- ・一人一人の興味・関心、発達水準などにより、細かな活動内容や支援方法を変えること。
- ・学級の児童の実態から、「自ら」という部分、「主体的、創造的に」という中心的な活動を取り入れることが難しく、どうしても教師主導の学習になってしまう。

- ・自主的に学習内容を考えることができないので、教師が与える場合、どのような内容にしたらいいか。

「協力学級や通常の学級との連携」

- ・内容や方法によっては、一緒に学習できる場面もあるので、常に連携を取っていきたい。
- ・実習的な学習のときだけ協力学級で一緒に学習しているが、他のときの参加を増やすべきかどうか。
- ・協力学級で支援を必要とするときがあるが、十分に対応できない。
- ・多学年にわたるので、連携を密にするのが難しい。

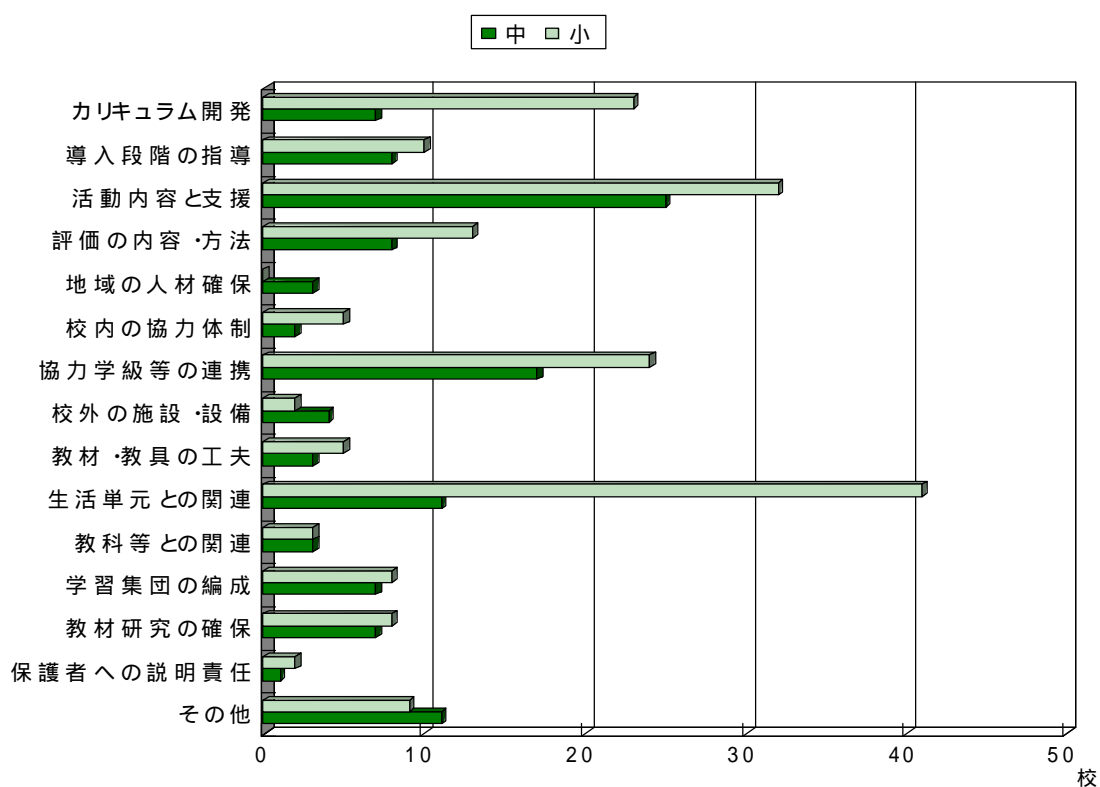
「カリキュラム開発」

- ・特殊学級の児童生徒が、興味・関心をもって継続的に学習できるようにするためのカリキュラムの開発

「評価の内容・方法」

- ・表情や行動、場面場面での様子から“意欲、関心”として捉えるしかなく、子ども自身のことばや文字などの評価方法が得られない点で、評価の難しさを感じる。
- ・興味・関心や表情、行動で評価するのは難しい。

実践上の課題



<教育センター及び総合教育センターで編集・発行した特殊教育指導資料>

- ・第1集 学習指導案の作成にあたって - 精神薄弱教育 - 平成元年3月
- ・第2集 職場実習の実施にあたって - 精神薄弱教育 - 平成2年3月
- ・第3集 学校と家庭との連携にあたって 平成3年3月
- ・第4集 小学校特殊学級の年間指導計画の作成にあたって 平成4年3月
- ・第5集 精神薄弱特殊学級と通常の学級との交流教育の推進にあたって 平成5年3月
- ・第6集 ことばの障害とその指導 平成6年3月
- ・第7集 中学校特殊学級の年間指導計画の作成にあたって 平成7年3月
- ・第8集 特異な行動のある子どもの理解と援助
- 自分の要求をうまく表現できない子どもの指導 - 平成8年3月
- ・第9集 障害のある子どもの実態把握の方法 平成9年3月
- ・第10集 個に応じた指導の実践 平成10年3月
- ・第11集 特殊教育におけるコンピュータの活用 平成11年3月
- ・第12集 障害のある子どもの教材・教具 平成12年3月
- ・第13集 特殊教育におけるインターネットの利用
- 特殊学級や通級指導教室での活用に向けて - 平成13年3月
- ・第14集 新しく特殊学級等の担任になった人のためのQ & A・101 平成14年3月

印：特殊教育センターの Web ページで閲覧することができます。

<参考・引用文献>

- ・盲学校，聾学校及び養護学校小学部・中学部学習指導要領 文部省 平成11年3月
- ・盲学校，聾学校及び養護学校学習指導要領(平成11年3月)解説 - 総則等編 - 文部省 平成12年3月
- ・盲学校，聾学校及び養護学校学習指導要領(平成11年3月)解説 - 各教科，道徳及び特別活動編 -
文部省 平成12年3月
- ・盲学校，聾学校及び養護学校学習指導要領(平成11年3月)解説 - 自立活動編 - 文部省 平成12年3月
- ・小学校学習指導要領 文部省 平成10年12月
- ・中学校学習指導要領 文部省 平成10年12月
- ・特殊教育諸学校 小学部・中学部学習指導要領解説 - 養護学校(精神薄弱教育)編 - 文部省 平成3年
- ・今後の特別支援教育の在り方について(中間まとめ) 文部科学省調査研究協力者会議 平成14年10月
- ・自立活動の指導 香川邦生、藤田和弘編 教育出版 2001年
- ・特殊教育指導資料第4集 小学校特殊学級の年間指導計画の作成にあたって
群馬県教育センター 平成4年3月
- ・特殊教育指導資料第7集 中学校特殊学級の年間指導計画の作成にあたって
群馬県総合教育センター 平成7年3月
- ・特殊教育指導資料第14集 新しく特殊学級等の担任になった人のためのQ & A・101
群馬県総合教育センター 平成14年3月
- ・特殊学級・通級指導教室設置校の学級経営Q & A100
全国特殊学級設置学校長協会 編著 第一法規 平成13年
- ・精神薄弱特殊学級教育課程編成の手引 文部省 平成4年
- ・障害児教育 授業の設計 阿部芳久 著 日本文化科学社 1999年
- ・障害児のための授業づくりの技法 - 個別の指導計画から授業研究まで -
太田正己 編著 黎明書房 2000年
- ・新しい教育課程と学習活動Q & A - 知的障害教育 -
全国知的障害養護学校長会 編著 東洋館出版社 1999年
- ・障害児教育の「総合的な学習の時間」 三浦光哉 編著 田研出版 平成13年

「特殊教育指導資料第15集」編集委員（五十音順）

| | | |
|-------|----------------|------|
| 新井 典子 | 太田市立城西小学校 | 教諭 |
| 荒井 浩江 | 館林市立第十小学校 | 教諭 |
| 飯塚 幹雄 | 高崎市立高松中学校 | 教諭 |
| 亀田 良一 | 昭和村立南小学校 | 教諭 |
| 須藤 昌彦 | 群馬県教育委員会学校指導課 | 指導主事 |
| 高橋 佳枝 | 伊勢崎市立宮郷第二小学校 | 教諭 |
| 中嶋 明美 | 榛名町立榛名中学校 | 教諭 |
| 前原 通宏 | 桐生市立昭和中学校 | 教諭 |
| 八木 俊昌 | 群馬大学教育学部附属養護学校 | 教諭 |

なお、群馬県総合教育センターにおいては、次の者が編集・作成にあたった。

| | |
|-------|--------------|
| 小林 昭司 | 情報相談部長 |
| 中澤 栄孝 | 特殊教育課長 |
| 松本 廣 | 特殊教育課 主任指導主事 |
| 饗庭 敏彦 | 同 指導主事 |
| 中村 健 | 同 指導主事 |
| 長島 宏 | 同 指導主事 |
| 石川 誠 | 同 指導主事 |

知的障害特殊学級における指導計画の作成

発行 平成15年3月
発行者 群馬県総合教育センター
所長 山口 晃
群馬県伊勢崎市今泉町一丁目233-2
TEL 0270-26-9211(代)
URL:<http://www.center.gsn.ed.jp/tokusyu/index.html>